

昭和60年度

No. 31 部報



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎
作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる
しろがねのえんざん ゆめぼうぼうたり
たからかにいま そいななけわれ
らしゅんめのほまれあり
ほまれあり ほかく だいほかく だいお
おわがほこう われらしゅんめの
ほまれあり

北大馬術部讃歌

一、春来たれば、大地光る
銀の遠山 夢茫々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はほめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
北大！ 北大 おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

昭和38年5月24日生まれ。双子座、A型。クリスチャンネーム、マリア・ペルベチュア。勤勉な父と明朗な母と、2つ年上の賢い姉と6つ年下のお茶目な妹を持つ。自由放任に育てられ、楽天下で成り行き任せのいい加減な性格のくせ、何にでも興味を示しいろんな事に手を出したがる。飛行機が大好きで車やバイクにも興味を持つ私は、もう一年機械科の4年生をやり直すことになってしまった。

北の国での4年間、馬の世話の暇々、楽しい遊びを発見した。一つは北海道の自然を堪能にすることである。大好きなショージュと共に。春色のタンポポ酒、ハマナス酒は夏の日のお色、イチイ酒は秋の黄昏色、ボケ酒は晩秋の冷たい風色かな。他にも、山ブドウ、サルナシ、ゲーズベリー、マタタビ、クコユスラウメ…… いろんな実で自分の色が楽しめる。そしてある物はハチミツ漬けに、ジャムに。

長い冬、コタツに入って過ぎ去った四季をなつかしみ、また訪れる春に願いを寄せるのも静かな楽しみの一つである。春が来たら、真先にタンポポコーヒーを作ろう。

北海道に来て、野の草花が大変好きになった。身近に感じる様になった。植物図鑑をひくのも一つの楽しみ。どんな小さな、目立たない花にでも名前があるのに驚いた。そして、一つ一つ区別がつく様、微妙に色合いを変え、形を違わせ、創られた創造主の趣味の良さに感嘆し、畏敬の念を感じるのである。

多分、北海道に永住することになるだろう。暇を見つけて野山に出掛け、新しい草花を摘み、飾り、そんなことしながら、年をとっていききたいな、と思う今日この頃。

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is too light to transcribe accurately but appears to be several paragraphs of Japanese text.)

表紙写真

左から小役丸千加子とノエル号
山田 和男と北耀号
町田 憲司と北皇子号

目 次

巻 頭 言	小池 寿男	1
「蹄と雪」Huf-Gripについて	半澤 道郎	2
前 主 将 か ら	町田 憲司	4
役 員 紹 介	陣川 雅樹	5
行 事 報 告		7
決 算 報 告	佐多 康子	8
戦 績 報 告		10
全 日 学 観 戦 記	服部 雅史	17
調 教 報 告		
ドン・ホッパー号	久光 経司	18
北 姫 号	中村 康利	20
北 皇 子 号	町田 憲司	22
北 耀 号	山田 和男	24
北 紫 雲 号	野中 道夫・高田 敏江	28
ノ エ ル 号	小役丸千加子	31
北 冴 号	西村 幸祐	34
北 銀 号	半澤 道郎・名越 正泰	37
北 玲 号	長屋 清隆	41
新 馬 紹 介		
北 雷 号		55
ス ー パ ー ボ ー イ 号		55
北 凜 号		56
離 厩 報 告		
北 離 号	佐多 康子	60
北大水産学部活動報告	上本 浩之	63
東京OB会便り	景山 博文	67
卒部にあたって		69
自己紹介・他己紹介		72
北海道大学馬術部名簿		73

巻 頭 言

部 長 小 池 寿 男

ウマは家畜の中でも少しく特異な位置にあり、ヒトとのかかわりあいはウシなどの他の経済動物とは異った関係にある。F. E. Zeunerは「他の動物とちがって、ウマとイヌは今日まで人間の仲間とみなされ、多くの民族と共に生物的共生へと発展してきた」とし、「さまざまな理由から人間と最も交わりの深い動物である」と述べている。家畜化の過程も他の家畜と異なり、その性格からも家畜化した年代は新しく、遊牧民によって運搬用として家畜化され、その行動の敏速性から次第に軍事的側面が重視され国の興亡にかかわったことはよく知られているところである。

わが国においても1945年以前は軍事予備的な側面から国家の保護のもとに200万頭ほども飼育されていたが、その側面の消失とともに急減の傾向をたどり、現在は主として競走馬として10万頭に充たない状態であり、産業経済性の価値は極めて低いものとなっている。一面、前述のような特殊なヒトとのかかわりあいから、他の家畜にくらべてその認識力・感情・意思力などが発達することとなり、乗馬などレジャー面への利用では重要性を増すこととなっている。このような特性が高度の乗馬技術などの発展につながり、馬術競技の面白さを増すことにもなる。したがって馬術としてはウマとそれを御するヒトの両者がともにみがかれた技能をもつことが要求される。

しかしながら、ウマの能力にもまたヒトの技能にもそれぞれ個体差があり、大学の課外活動としての馬術部で、4年の間にそれぞれのウマの特性を知りその特性に合った調教をし、それに合った乗馬技術を身につけることは、多くの面で困難なこととなる。ここに馬術部のクラブ活動の連続性が、他のクラブ以上に重要なことの理由がある。ある年に良い競技成績が得られたと云うことは、乗るヒトの技術が優秀であることは勿論としても、ウマについてはそれまでの何年間かにわたる調教の積みかさねの努力がなされていなければならない。逆に若しある年に調教の方向に誤りが生じたとしても、その結果はその年度内には現われず、何年後にその結果が出てくることになる。したがって、馬術部では単年度の成績にとらわれることなく、可成り長期にわたった計画を見通した上で、その年に何をすべきかを決めその方向を誤ることのないようにすることが重要である。ここ数年来、丁度部馬の更替期に当り、現今の部馬の平均年齢は相当に低くなっている。このことは上述のような点への配慮の重要性を増強している。61年度の重点としてはこれらの事項をよく考えた上で、それぞれのウマの個性を発揮し、次の時代への方向を誤らない調教法を見出すべきであろう。

「蹄と雪」 Huf-Grip について

半澤道郎

道央の札幌地区では、冬期間約4ヶ月は雪の中で乗馬しなければなりません、十分な馬術練習をするためには是非覆馬場の施設を整備する必要があります。耐雪構造の頑丈な物を建るには莫大な資金が必要でそう簡単に実現できませんが、北大の構内に国際競技会の出来る様な施設が建つことを夢見て居ます。冬に馬事公苑に行きますと雪の無い処で練習のできる環境が本当に羨ましくなります。

多雪地帯の馬は雪に慣れて、いろいろな条件の雪の上を誠に上手に歩くことは驚くほどで、今日のように機械化されない頃の林業の冬山造材に活躍して居た馬達は、春～秋は農耕その他の挽馬として働き冬は雪深い栽林の中で働いて居ましたが、前に歩いた蹄の跡をうまく踏んで重い伐採した丸太を運んで居ました。昔は新しく降った道路の雪を除けるのには三角形の杵を馬で拽いてやっていました。新しく降った雪なら可成り深くても歩けますが、少し日が経って固まった雪は困難で、私は才一農場の馬で農学部の間芸圃場横の道で200米位歩いたところで歩けなくなり、引返すのに自分の足で雪を踏んで道をつけて拽馬で帰ったことがあります。

固められた雪の上で蹄鉄を着けた馬が滑べらないようにする工夫は昔からやられ、蹄鉄にSpikeを取り付けるのが一番確実で、装蹄の方ではCalk(とがり金)とかCalkin(蹄鉄の折り曲げた端)と云っている。条件によって取り替えられるadjustable calkは蹄鉄に2～4個処ねじ孔をあけて、長さや形の違ったcalkをはめるもの、普通に云っているcrampon(crampon)を装着すればよい。私が学生の頃軍隊(騎兵才七職隊)では氷上鉄鉏(てっさい)と云って1.5cm位の鋭とがったのを使っていた。

とがって長い方が効果は大きい、踏みかけや人の足を踏まれた時に怪我をする危険がある。尖端がすり減って円くなると凍った処では効果が無くなる。私は前記の様に農場の乗馬で単騎で外(街)乗に出てひどく凍った路上で、馬が恐がって歩かなくなり進退これ谷まった経験がある。下馬して少しづつ歩かせて脱出したが馬が転倒しないかと思ひ大汗をかいた。

もう一つ雪上の運動で困ることは蹄の中に雪が固く詰まることで、これは気温、雪質(乾、湿、形、結晶、大きさ等)、蹄底の温度、蹄鉄の温度、蹄鉄の形、馬の体重及び運動の種類による圧力、雪路(馬場)の表面の状況、その他いろいろの条件によって、殆んど詰まらない場合もあり、詰っても自然に取れる場合もあり、鉄の下面と同じ位詰まってそれ以上に盛り上らない場合もある。一番困って危険なのは団子状に盛り上がって固く付着したままになる場合で、躓いて転倒したり、肢を傷めることになる。

数年前の冬の午前、私は札幌競馬場の走路の中の馬場で、たった独で「オオカリヒメ」に乗っていた。その日は前夜雪が降って10cm位積っていた。気温は-5℃位だったと思うが確かめなかった。よく晴れて、平に均された馬場の上に新雪が美しく輝いていて、遠く手稲連山を眺め乍ら、競馬場を独占したように誠に爽快な気分、新雪上に巻乗りや、半巻、8字乗りなど出来るだけ正確な図形を画いて、常歩や速歩の運動を30分位やってから駈歩運動を始めた。暫く駈歩をしていると全く突然に「オオカリヒメ」は躓いたようになって膝を折り、頭を雪面に着けるようにつんのめるようにして転倒した。私は馬の頸と頭を越えて、馬の口を中心に手綱と腕の長さの半径で、見事に半円を画いて腰の辺りで着地した。幸に手綱を離さなかったのと、頭や肩を打たないで何事も無かった。立ち上って「オオカリ」の状態を見た

が、彼女も全く無事で、立ち上って停止していた。馬体には傷害は無かったが右前肢の蹄に固く雪が詰まって団子状に盛り上っていて、鉄が雪面に届かない状態であった。携帯用の鉄篋で雪塊を取り去り、乗馬して帰厩した。

その後私は「オオカリヒメ」を実験用として、蹄底に蠟や油脂を塗って離型効果を試みたけれども殆んど効果が無かった。偶々馬事公苑前のCavalloの店で、スイスZurichのNovelties Sales SA(Nosa)工場製のHuf-Gripという商品を見付けたので、前肢用と後肢用の4個を5,000円で購入して、荻野さんの許可を得て、太田さんに頼んで「オオカリヒメ」に装着して貰ってその効果を試して見た。他の馬の蹄に雪が詰まる時でも殆んど詰ることが無く非常に有効であった。それ以来札幌競馬場では毎冬全部の馬にこれを装着するようになった。競馬場と太田さんの厚意で改蹄の時に未だ使えるものを北大の馬に譲って頂く様になった。

実物をご覧の様に弾力のある合成ゴム製で、蹄と蹄鉄の間に挿入される部分と、鉄の内縁に沿って蹄底と鉄の外縁の間に位置する中空の管状の環を持つもので、雪上で雪と蹄底の間で体重の圧がかかった時に、この管の伸縮振動の為に雪が固着するのが妨げられ雪塊が詰まらないのである。

Huf-Gripは、ドイツのDusseldorfのHesemann Hufeisen Hammerau GmbH. Fertigungs und Handels KG及びアメリカのMiddleburg VAのHuf-Grip of America Inc.等で販売されているが、説明書の中に、標高600～800mの高所にあるSchwaiganger系統種馬牧場の国立装蹄学蹄鉄工場の種畜獣医のWolpert獣医学博士が1975/76の冬にNosaのHuf-Gripの実験を新雪、旧雪、乾雪、湿雪で-10℃～+2℃の温度で、装着した馬と、装着しない馬を使って傾斜地で騎乗して比較し、装着したものは鉄にCramponを着けなくても騎乗できたが、着けない馬は一時騎乗できなかつた結果を得た。その地方の雪質に関係なく、約8週間の使用に堪えたことを証明している。またMunster市の装蹄師のErnst Niemerg氏は、Reiter und Pferd(Magazin für Pferd zucht und Reif sport) Nr. 1. 1977誌に、「ゴムの挿入が雪の球を防ぐ」と題してHuf-Gripの効果について助言をしている。高く曲げられた空洞のゴム管状物が蹄鉄の内側に沿って着けられ、その管の柔軟な屈撓性が、一歩一歩の運動による衝撃が雪が固着を防ぐと述べている。

又Gressage & CT, Vol. 21, No 3(1984) P. 13の広告に獣医学博士で馬の跛行のexpertのDr. Wm. Moyerは種々の肢の異常な馬で1ヶ月以上種々の跛行の障害のある13頭にHuf-Gripを適用したところ、6頭は直ぐに健全に復し、他の7頭は程度は違うが改善に向つたと述べて居る。また、Huf-GripはShock absorptionの効果があり、雪、汚泥、鋸削、芝土等の異物が詰まるのを防ぐとされ、蹄底全体を覆っていないので、空気と接して居り、また洗浄が可能であるから負傷や雑菌の感染などを早期に認められるので、安全な処置ができることも有利であるとされて居る。

実際に使って見て上記の様な効果は認められるが、材質がもう少し強く耐久性があれば良いと思う。特に蹄踵部の先端が管部のつけ根の部分が裂けて来る欠点があるので、金属の網を入れるか、もう少し丈夫な材質を使ってはと考えられ、型状等にも改良の余地があると思われる。

なお類似のものに英国製のStromsholm Hoof Cushionと云う商品がある。調教師が獣医、装蹄師、及びI. C. I.の研究所の合議の下にI. C. I.の丈夫なAlkathene(合成樹脂か)で作られたもので、障害、総合、馬場馬、ポロ、競走馬にも適していると述べられている。

前 主 将 か ら

町 田 憲 司

あっという間の4年間。一生懸命歩いてきたつもりなのだが、振り返ってみると、やはりやり残した事が幾つかある。ある筈なのだが、振り返りもせずに我武者羅に突き進めたのが現役時代であった。それは、主将であるからこそ出来たとも言える。主将というのも役職の1つであり、クラブの理想像を持ち、雰囲気作りをするのが主将だと私は考える。

朝5時集合で練習が始まる。馬繋台の前で馬責が出欠の点呼をとる。点呼の前の第一声が朝の挨拶で始まる。『おはようございます』 私は、この第一声でその日の練習の雰囲気が決まると考える。又、練習では、勿論下級生は上級生に教えて頂く立場であるから、『お願いします』という言葉が自然に出る筈である。又、気持ちを言葉に表す事により、上級生は下級生のやる気を認める事が出来よう。最後に練習が終わり、馬から降りる時は『ありがとうございました』と言うだろう。決して、こう言いなさいと命令されて言うような事ではない。気持ちを言葉にすればそれでいい。

最近、クラブに時々ではあるが、顔を出して気付くことがある。確かに挨拶はしてくれるのだが、正に唯するだけなのである。忙しいのは分かるのだが、挨拶する時くらい手を止めて、握手してくれとは言わなくても、一言二言話を交じえたくもなる。が、挨拶だけ終われば後は知らん顔である。知らないOBが来札された時、又、新しい一年生を迎えた時、同様に形式だけの挨拶しかしない人間が一人でもクラブに居たのなら、私は寂しい。

一年目とは、えてして不安と不解で一杯であり、上級生と話を交わすのを避けたくなるものである。これを、ミーティングで聞いてやろうというのは野暮な事。ミーティングを“きよた”でやろうとか、合宿中に酒を飲もうというのなら話は別だが。兎に角、日常生活の半分以上の時間をクラブの時間に費やして接しながら、お互い悩みも言えず、表面だけの付き合いしか出来ないとしたら、部員同士が孤立するのも目に見えている。日常、挨拶にプラス一言、どんな事でもいいから一言つけ加える習慣を身に付けて欲しい。

特に、最上級生は自分をアピールすべきであろう。上級生が心を開いて自分をアピールすることにより、初めて下級生も心を開き悩みを打ち開けるようになる。下級生が言わないのではなく、上級生が言わせる雰囲気を作っていないといえる。上級生・下級生間の間だけでなく、同級生同士でも同じ事が言えよう。問題とは、潜在させるのではなく、顕在させて、他人の気持ちを理解した上で、解決しようと努力することに意味があると思う。

どんなクラブが“いいクラブ”と言えるのか。自分はこのクラブに何が出来るのか。又、何を為すべきか。一人一人がもう一度考えてみて欲しい。私は、試合の結果云々ではなく、部員一人一人が能力を発揮し、クラブとして一つにまとまっているといえる事が“いいクラブ”の条件と考える。又、そのような雰囲気を持つクラブ、それこそベストと思う。

最後に一言。上級生は特に、殻に込もった井の中のかわずかな頭を取り去り、柔軟かつ決断力のある寛大な心を持てるよう努めて欲しい。大夫きつい事ばかり並べてしまったが、最低限どんな忠告に対しても、良し悪しにかかわらず、胸を開いて正面から受け止めるだけの勇気と根性だけは備えて欲しい。

~~~~~

## 役員紹介

~~~~~

主 将

陣 川 雅 樹

昨年、我が北大馬術部は、数年ぶりに全日学の団体出場をはたした。ドン・ホッパー、北皇子、北耀の3頭である。しかし、ドン・ホッパーや北耀はすでにもう16才、この馬たちについて頼ってはいけない。後に続く、この馬たちを追い越していく馬をつくっていかなければ、本当に北大が強くなったとはいえないのだから。

◎ 現在の馬匹

ドン・ホッパー		16才	騙馬
北	姫	13才	牝
北	皇 子	11才	騙
北	耀	16才	騙
北	紫 雲	9才	騙
ノ	エ ル	12才	牝
北	冴	9才	騙
北	銀	7才	騙
北	玲	6才	牝
北	雷	5才	騙
スーパーボーイ		5才	騙
北	凜	5才	牝

以上12頭

我々のオ一の目標は、ドン・ホッパーや北皇子を追い越す馬をつくることであり、その馬で全日学の団体を組むことであり、全日学で勝つことである。そのためには何が必要なのか。従来の北大方式、一昨年より取り入れた基本的運動、扶助の重視、下級生の育成法、部班運動、……その他いろいろな問題が出てくると思う。

しかし、『今、自分のまたがっている馬を、どんなことをしてでも動かしてやる。』このことが、現在の北大にとって一番必要なことであろうし、欠けていることである。きれいに乗ることを求めるのではなく、動かすことを求めなければ。そのために各人が努力し、勉強し、こういう考えをもった人間を育てていかなければならない。

副主馬飼会副薬作馬具・備品文記レシート・コ衛	将務匹料計務品業品化録・パ生	高 中 福 真 佐 中 加 山 半 服 荒 中 北	田 村 島 鍋 多 野 藤 本 田 部 井 野 川	敏 康 光 直 康 兼 ゆうこ 英 友 雅 陸 兼 知	江 利 絵 子 子 一 則 子・大 歳 正 明 史・金 田 克 己 美 一 子
------------------------	----------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------	---

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番15号

昭和 60 年度 行事報告

4月13・14日 七大戦（於京大）	10月5・6日 国体強化指定馬選考会（於碧雲C）
5月5日 第13回半沢杯記念馬術大会	10月13日 山下杯
5月8日～15日 1・3年目新歓合宿	10月14～21日 拍車合宿
5月19日 北日学選手権大会（於北里大）	10月20日 OB対抗戦
5月26日 三大戦（於北大）	10月27日 対北水戦（於東山R. C）
6月1日 北雷号入厩	11月2日～4日 全日本馬術競技会（於阪神競馬場）
6月10日 新歓コンパ	11月6日 スーパーボーイ号・ヤマニンチャンス号入厩
6月22・23日 北海道自馬馬術大会（於碧雲C）	11月23～12月2日 全日本学生馬術大会（於馬事公苑）
7月20・21日 北海道地区馬術大会（公認）（於旭川R. C）	11月23日 北凜号入厩
8月2日～5日 北日本学生馬術大会（於畜大）	12月26日 忘年会
8月8日～14日 1年目日高合宿	12月30日 もちつき大会
8月24・25日 北海道馬術大会（於畜大）	1月2日 初乗り
9月8日 市民大会 フロンティア牧場祭	1月3日～10日 冬合宿
9月17日 役員交代コンパ	2月5日 雪まつり外乗
9月27日～29日 東日本馬術大会（於馬事公苑）	3月2日 追い出しコンパ

昭和60年1月～12月 決算報告

会計 佐多 康子

〈収 入〉

月 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
部 費	13,000	11,000	10,000	29,000	29,000	22,000	16,000	18,000	13,000	14,000	11,000	0	186,000
アルバイト	4,500	186,200	146,000	4,500	207,990	745,985	434,340	65,500	94,800	48,300	32,500	580,200	2,550,815
補 助	0	0	50,000	300,000	0	0	18,000	62,000	10,000	80,750	906,125	231,700	1,658,575
滞 納 金	75,460	17,520	23,710	24,600	34,412	29,285	74,919	131,049	15,340	153,130	108,280	70,330	758,035
そ の 他	4,116	1,762	16,000	28,000	220,400	508,904	129,295	62,546	10,000	0	0	0	981,023
備 考	冬合宿	朝日新聞社 バイト	" ドン・ホッパー 優秀馬	講習会 (新歓) 体育会より クラブ 強化費	半沢杯 巨人戦 チケット バイト	道白馬 競馬場 バイト	教養祭 (そば屋) 輸送補助 (公認) "	北日学・道体 輸送補助 道体貸与馬 ジュニア合宿 借馬料	小泉兄より 寄付	千葉幹夫氏 より寄付	学馬連より 補助	" 年末バイト料 精算	
計	97,076	216,482	245,710	386,106	491,802	1,306,174	672,554	339,095	143,140	296,180	1,057,905	882,230	6,134,448

〈 支 出 〉

月 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
飼 料	181,600	88,910	34,400	65,500	84,078	31,830	122,150	78,580	72,018	55,635	57,725	95,975	968,401
蹄 鉄	376,800	0	230,000	0	0	328,800	0	0	270,000	0	0	339,000	1,544,600
薬 品	0	0	0	0	6,500	0	61,455	0	36,113	82,080	20,120	0	206,268
輸 送	5,380	0	14,365	26,780	1,066	0	177,690	377,594	102,990	194,952	385,193	41,555	1,327,565
作 業	0	3,920	86,000	0	55,864	350	1,668	0	24,521	5,236	8,120	0	185,679
馬具・備品	5,000	2,705	24,180	80	20,110	56,534	51,750	39,760	75,450	2,832	83,980	1,745	364,126
文 化	20,000	22,390	47,600	34,480	26,630	26,200	21,900	20,720	42,030	1,350	7,304	26,462	297,066
雑 費	0	4,368	16,524	10,337	111,177	2,540	2,500	12,910	9,215	22,470	19,760	5,770	217,571
ク ラ ブ た て か え	5,070	3,570	9,630	41,775	388,200	28,566	186,544	170,635	9,820	71,489	39,640	45,275	650,834
そ の 他	34,160	2,000	22,740	135,660	20,155	143,460	1,000	10,000	22,120	31,970	148,180	65,420	636,865
備 考	初 穂 料 年始まわり		除 雪 追 コ ン 団体選手権	ベナント代	半 沢 杯 三 大 戦	馬連車保険 加 入 北日補助 幹 事 会	馬 連 車 代 (公 認)	馬 連 車 代 (北日・道体)	フロンティア ク ロ ス カントリー 役員交代 コ ン パ	東 日 本 ALL JAPAN O B 戦 F M C	年 賀 状 スプリンター (中古)購入	全 日 学 L・A	
電 話 代	7,650	7,800	10,830	17,935	11,845	0	15,980	16,100	0	22,900	0	44,480	155,520
道馬連会費 学馬連乗馬登録 " 保険料 北日選手権援助金													日馬連乗馬登録 " 団体会員
計	635,660	135,663	496,269	332,547	376,245	618,280	642,637	726,299	664,277	490,914	770,022	665,682	6,514,505

昭和 60 年度 戦績報告

★対東北大学定期戦（ 月 日 於東北大）

使用馬匹……杜貴、尾白鷺

北大選手……服部、佐藤、石井、河野

戦 績……1位 北大A 2位 北大B 3位 東北大 最優秀選手 服部

★七帝戦（4月13・14日 於京大）

北大選手……小役丸、町田、山田

戦 績……1位 東大 2位 名大 6位 北大

★第13回太奏杯・半沢杯・河田杯記念馬術大会（5月5日 於北大）

<複 合>

				馬場減	障 碍 減
1位	武 笠	セニョールホース	碧 雲 ク ラ ブ	-126.33	0
2位	高 橋	駱 駿	酪 農 大	-137.33	0
3位	布 施	チ ャ キ リ ス	北 星 R. C	-125.33	-16
11位	野 中	北 紫 雲	北 大 同	-176.67	0
	山 田	北 耀	北 大 (4)	失 権	

<小障碍>

1位	鷺 田	ジ ュ ン	帯 畜 大	0	54" 44
2位	小 川	ス タ ー ラ イ ト	北 大 同	0	53" 70
3位	山 本	ス タ ー ラ イ ト	北 大 同	0	53" 47
10位	半 田	北 耀	北 大 (3)	0	49" 95
14位	高 田	北 紫 雲	北 大 (3)	-0.5	
21位	町 田	北 冴	北 大 (4)	-6.75	
	佐 多	北 驪	北 大 (3)	失 権	
	服 部	北 驪	北 大 (2)	失 権	

<新 馬>

1位	長 屋	北 玲	北 大 同	0	48" 51
2位	中 村	ウ ラ ウ ス	石 狩 R. C	0	46" 95
3位	町 田	北 冴	北 大 (4)	-0.25	
4位	名 越	北 銀	北 大 同	-1	

<中障碍>

1位	山 田	北 耀	北 大 (4)	0	1' 15" 29
2位	斉 藤	ア ー ル グ レ イ	石 狩 R. C	0	1' 25" 25
3位	宮 竹	駱 鷺	酪 農 大	-3	
4位	野 中	北 紫 雲	北 大 同	-4	

★第20回北海道自馬馬術大会（6月22・23日 於碧雲クラブ）

<総合馬場馬術>

				得点
1位	布施	チャキリス	北星 R.C	347
2位	斉藤	キタノコンゴウ	石狩 R.C	338
3位	高橋	騾 駿	酪農大	324
9位	町田	北 皇子	北大 (4)	269
14位	西村	北 冨	北大 (3)	221

<スピードアンドハンディネス>

				タイム	(減点含)
1位	土井	ザ・チャーリー	日高 K・F	1' 31" 83	1' 31" 83
2位	町田	北 皇子	北大 (4)	1' 45" 36	1' 45" 36
3位	高橋	騾 駿	酪農大	1' 41" 75	1' 49" 75
7位	野中	北 紫雲	北大 同	1' 58" 36	2' 06" 36

<L 級>

				得点	タイム (ジャンプ オフ)
A組					
1位	土井	ジェロニモ	日高 K・F	0	1' 10" 0 (35"09)
2位	磯野	カイドウ	浦河高校	0	1' 06" 30 (38"23)
3位	中村	高 峰	札幌 R.C	0	1' 10" 20 (42"70)
9位	小役丸	ノ エ ル	北大 (4)	-8	1' 40" 50
11位	半田	北 耀	北大 (3)	-1 4.75	1' 43" 25
	町田	北 冨	北大 (4)	失権	
B組					
1位	長屋	マ ド ラ ス	北星 R.C	0	1' 05" 00 (28"56)
2位	小原	ヒダカレディー	日高育成	0	1' 07" 23 (31"63)
3位	高橋	ゼ ッ ト	酪農大	0	1' 03" 27 (34"92)
8位	福島	北 皇子	北大 (3)	0	1' 15" 04 (41"07)
15位	高田	北 紫雲	北大 (3)	-1 1.5	1' 30" 80
	陣川	北 耀	北大 (3)	失権	
	真鍋	ノ エ ル	北大 (3)	失権	

<M級B>

1位	町田	北 皇子	北大 (4)	-4	1' 09" 62 (32"61)
2位	家入	騾 龍	酪農大	-4	1' 15" 92 (40"28)
3位	布施	チャキリス	北星 R.C	-5	1' 31" 78

<新人>

3位	石井	北 騾	北大 (2)	0	1' 23" 72
5位	中村	北 騾	北大 (3)	0	1' 18" 94
15位	西村	北 冨	北大 (3)	-13	1' 45" 78
	佐多	北 騾	北大 (3)	失権	

<新馬>

4位	長屋	北	玲	北大	同	0	1' 19" 89
15位	名越	北	銀	北大	同	-7.5	1' 43" 88

<M級C>

1位	山田	北	耀	北大	(4)	0	1' 30" 50
2位	斉藤	アール	グレイ	石狩	R.C	-0.25	1' 50" 83
3位	谷	アド	ノー	札幌	R.C	-3	1' 48" 83
	高田	北	紫雲	北大	(3)	失権	

<選抜中障>

1位	土井	ザ・チャーリー	日高	K・F	0	1' 19" 44	
2位	高橋	騾	駿	酪農	大	-4	1' 25" 52
3位	町田	北	皇子	北大	(4)	-7.25	1' 34" 65

★三大学定期戦(5月26日 於北大)

北大選手……河野、高橋、佐藤

使用馬匹……ドン・ホッパー、北皇子、北騾

戦績……1位 帯畜大(-9.5) 2位 酪農大(-11) 3位 北大(-179.5)

★第10回日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会(7月20・21日 於旭川乗馬クラブ)

<中障壁スピードアンドハンディネス>

タイム (減点含)

1位	土井	ザ・チャーリー	日高	K・F	52" 45	52" 45
2位	町田	北	皇子	北大	(4)	1' 05" 60
3位	久保田	コジ	ロウ	十勝	柏友会	1' 01" 78

<標準中障壁>

得点 ジャンプオフ

1位	長屋	マドラス	北星	R.C	0	0	33" 72
2位	布施	サミット	北星	R.C	0	0	38" 85
3位	町田	北	皇子	北大	(4)	0	-4
20位	野中	北	紫雲	北大	同	-15.5	

<二段階競技>

1位	長屋	マドラス	北星	R.C	-3	49" 69	
2位	水上	ファイン	エンペラ	旭川	R.C	-4	58" 45
3位	土井	ルミウ	エール	日高	K・F	-12	1' 05" 90
	野中	北	紫雲	北大	同	失権	
	町田	北	牙	北大	(4)	失権	
	小役丸	ノ	エール	北大	(4)	失権	

<中障碍選手権>				得点	(ジャンプオフ)
1位	清水	柏 星	帯 畜 大	0	(-4)
2位	町田	北 皇 子	北 大 (4)	0	(-8.5)
3位	下屋敷	イブリース	日 高 育 成	-4	

<小障碍>一般					
1位	岩城	ジェロニモ	日 高 K・F	0	58" 73
2位	土井	パーソン	日 高 K・F	0	1' 00" 45
3位	山口	マドラス	北 星 R.C	0	1' 00" 55
7位	服部	北 皇 子	北 大 (2)	0	1' 09" 40
8位	高田	北 紫 雲	北 大 (3)	0	1' 09" 47
15位	長屋	北 玲	北 大 同	-4	
	小役丸	ノ エ ル	北 大 (4)	-18.75	
	西村	北 冴	北 大 (3)	失 権	
	町田	北 冴	北 大 (4)	失 権	

婦人・壮年

1位	モニック・フォーゲル	ジェロニモ	日 高 K・F	0	53" 99
2位	田伏	セニョールホース	碧 雲 ク ラ ブ	0	57" 00
3位	下河原	セントマロ	北 星 R.C	0	58" 18
	佐多	北 騷	北 大 (3)	失 権	
	福島	北 騷	北 大 (3)	失 権	

★第21回北日本学生馬術大会(8月2~5日 於帯畜大)

<二回走行>				一走目	二走目
1位	清水	柏 星	帯 畜 大	-4	0
2位	高橋	騷 駿	酪 農 大	0	-4
3位	家田	カ ム イ	弘 前 大	-4	0
5位	町田	北 皇 子	北 大 (4)	-4	-11
9位	山田	北 耀	北 大 (4)	失 権	-13.25
11位	久光	ドン・ホッパー	北 大 (3)	失 権	-27.5

<総合>				調教	耐久	余力
1位	明見	柏 栄	帯 畜 大	-193 $\frac{1}{3}$	0	0
2位	高橋	騷 駿	酪 農 大	-195	0	0
3位	宮竹	騷 鶯	酪 農 大	-196 $\frac{1}{3}$	0	0
6位	町田	北 皇 子	北 大 (4)	-205	-20	0
	小役丸	ノ エ ル	北 大 (4)	-228 $\frac{1}{3}$	失 権	失 権

<中障B>

1位	諏訪	柏	星	帯畜大	-3
2位	高田	北紫	雲	北大(3)	-7
3位	松島	カム	イ	弘前大	-23.5
	町田	北	冴	北大(4)	失権

<新人・新馬>

1位	高橋	騾	駿	酪農大	0
2位	上野	騾	閃光	酪農大	0
3位	宮竹	ノースワンダー		酪農大	0
12位	陣川	北	銀	北大(3)	-7
13位	中村	北	姫	北大(3)	-11.75
	佐多	北	離	北大(3)	失権
	西村	北	冴	北大(3)	失権

★第32回北海道馬術大会(兼 国体予選)(8月24・25日 於帯畜大)

<成年総合>

				調教	耐久	余力
1位	佐藤	カナディルホース	碧雲クラブ	-137 $\frac{1}{3}$	-20	-5
2位	前川	柏	星帯畜大	-166 $\frac{1}{3}$	0	0
3位	吉田	白	峰岩見沢R.C	-156	-40	-10
	野中	北紫雲	北大同	-203	失権	

<成年障碍>

				減	タイム
1位	佐藤	カナディルホース	碧雲クラブ	-4	1'39"00
2位	久保田	コジロウ	十勝柏友会	-8	1'31"23
3位	町田	北皇子	北大(4)	-8	1'34"66

<L級>婦人

1位	麻生	ジャンポリバー	十勝柏友会	0	1'19"86
2位	山本	ツバサ	十勝柏友会	0	1'31"30
3位	安田	コジロウ	十勝柏友会	0	1'31"38
8位	河野	北皇子	北大(2)	-4	
9位	半田	光耀	北大(3)	-7.25	
15位	高田	北紫雲	北大(3)	-15.75	
16位	佐多	北紫雲	北大(3)	-24.75	
	真鍋	ノエル	北大(3)	失権	

一般

1位	長屋	アドノー	北星R.C	0	1'05"72
2位	山口	サミット	北星R.C	0	1'06"24
3位	寺越	ヒダカレディー	日高育成	0	1'08"10
8位	石井	北皇子	北大(2)	0	1'25"33
9位	長屋	北	北大同	0	1'26"06

13位	陣川	北	銀	北	大	(3)	0	1' 42" 34
	中村	北	姫	北	大	(3)	失権	(エントリー多数のため2落下で失権とする。)
	服部	ノ	エ	北	大	(2)	失権	
	名越	北	銀	北	大	同	失権	
	福島	北	姫	北	大	(3)	失権	
	町田	北	玲	北	大	(4)	失権	

★市民大会（9月8日 於北星R.C）

<中障>

1位	村上	チャ	キリス	北	星	R.C	0	1' 10" 45
2位	布施	チ	アガール	北	星	R.C	0	1' 17" 50
3位	久光	ドン	・ホッパー	北	大	(3)	0	1' 21" 47
5位	高田	北	紫雲	北	大	(3)	-4	

★第21回東日本馬術大会（9月27～29日 於馬事公苑）

<標準中障>

1位	福島	パ	レルモ	谷	和	原	R.C	0
2位	後藤	イ	ベンソ	日		大		0
3位	小畑	ジ	ャコブ	桜	井	S.T.		0
11位	町田	北	皇子	北	大	(4)		-4

<中障障害スピードアンドハンディネス>

1位	小畑	ファイ	ヤーストーン	桜	井	S.T.	78" 87
2位	小畑	ニ	モ	桜	井	S.T.	72" 00
3位	小畑	ジ	ャコブ	桜	井	S.T.	72" 03
4位	町田	北	皇子	北	大	(4)	80" 96

<中障選手権>

1位	後藤	イ	ベンソ	日		大	0		
2位	山下	甲	斐白鳳	山	梨	県	馬	連	0
3位	宮崎	ジ	ェバージュニア	N.	C.	K	0		
22位	町田	北	皇子	北	大	(4)	-27.5		

★44国体強化指定馬第1回審査会（10月6日 於碧雲クラブ）

<小障>

							一走目	二走目
1位	町田	北	皇子	北	大	(4)	0	0
17位	長屋	北	玲	北	大	同	0	-4
	高田	北	紫雲	北	大	(3)	-13.5	0
	名越	北	銀	北	大	同	-22.5	-0.25
	山田	北	呀	北	大	(4)	-20	-13

★第7回山下杯記念馬術大会（10月13日 於酪農大）

<中障碍>

1位	西村	北皇子	北大	(3)	0
5位	高田	北紫雲	北大	(3)	

★第37回全日本馬術大会（11月～日 於阪神競馬場）

<標準中障碍>

町田	北皇子	北大	(4)	-3.5
----	-----	----	-----	------

<内国産馬>

町田	北皇子	北大	(4)	-11.75
----	-----	----	-----	--------

<中障碍選手権>

町田	北皇子	北大	(4)	-15.5
----	-----	----	-----	-------

★第35回全日本学生障碍飛越（11月27・28日 於馬事公苑）

第28回全日本学生3-Day Event（11月30日・12月1・2日 於馬事公苑）

<二回走行>個人

				一走目	二走目
1位	安藤	メジロサンゴ	日大	0	-4
2位	小田	麻智	麻布大	-4	0
3位	村上	ハシビゴラス	明大	-1.5	-6
24位	町田	北皇子	北大	(4)	-22.5
	山田	北耀	北大	(4)	失権
	久光	ドン・ホッパー	北大	(3)	失権

団体	一走目	二走目	計
1位 日大	-4	-16	-2.0
2位 専修大	-16	-16.25	-32.5
3位 東農大	-27.75	-35.5	-63.25
11位 北大	-143.25	-145	-288.25

<総合>

				調教	耐久	余力
1位	富沢	専照	専修大	$-112\frac{1}{3}$	0	0
2位	岩谷	メジロファイアット	日大	$-120\frac{2}{3}$	0	0
3位	戸田	ホシノカルメン	専修大	$-116\frac{2}{3}$	0	-10
9位	町田	北皇子	北大	(4)	$-176\frac{2}{3}$	-5.2

全 日 学 観 戦 記

服 部 雅 史

全日本学生馬術大会は、例年通り東京の馬事公苑で、時期は今年は少し遅く11月23日～12月2日に行われた。

わが北大は、今年は6年ぶりに念願の団体出場を実現し、ドン・ホッパー、北皇子、北耀の3頭が障害飛越(二回走行)に、北皇子が3Days-Event(総合)に出場した。結果は戦績のページをご覧くださいなればわかるとおり、決して良かったとは言えない。二回走行に関しては、ドン・ホッパーと北耀は、どちらも私の見た限りでは、二走行めよりも一走行めの方が良い動きをしていた様に思われた。生意気なことを言うことになるが、恐らくその原因は騎手のミスにもあったのではないだろうか。それも、小さなミスではなくて、ある意味では根本的とも言える、精神的なものではないかと感じられた。もしかしたらこれは思い過ごしかもしれない。でも感じたことを書くしかない。

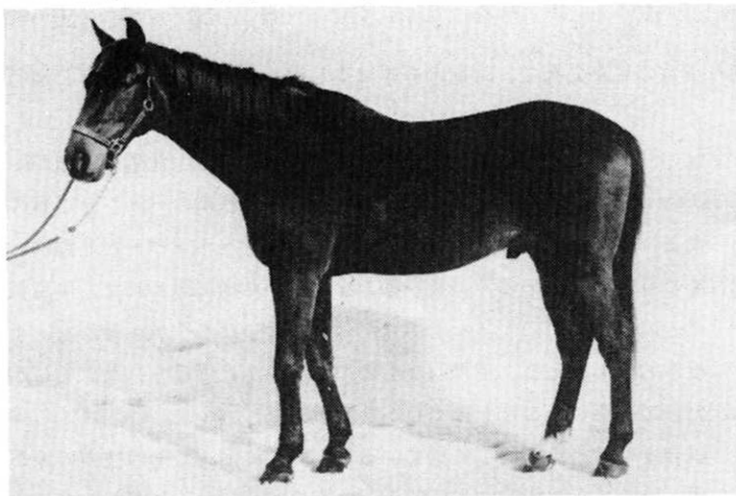
さて、他の大学を見た感想だが、試合をはじめから通して見ていると、騎手によってその技術の差がかなり大きいことに気づく。そこで思ったのは、技術的に劣る騎手というのは、——それだからこそこちばん難しいことではあるのだが——その分だけより一層冷静にならなければならない、ということだ。下手な上に、さらに動揺していたら馬が動くはずがないのだ。障害馬術とはいかなるものか、私にはまだまだわからないが、あるいは、馬が自分から飛びたいという意志がないとしても、一步一步の運動のアプローチの中で、馬が飛ばざるを得ない状況に仕立て上げてゆくものではないか、という気がした。学生馬術、という言葉が適当かどうかわからないが、われわれが馬を飛ばせるときには、いちばん最後には、気合と運と賭けの要素が飛び出してくるものだという思いがした。

ところが、その範疇を逸しているのが、日大と専修大を筆頭とする中央の大学である。彼らが馬に要求していることは、他校とはレベルが違うはずである。どこで拒止するか、あるいは落下するか、という問題を超えて、——もちろん、それらを回避するための方法の発展形であるわけだが——歩幅や、馬の体制までも、完全に手の内に入れることを考えている様に見受けられた。

一体、われわれができることで、やっていくべきことというのは何なのだろうか。恐らく、一番大切なことは、「馬が騎手を信頼すること」だと思う。そのためには、人は馬の立場になって気持ちを察して行動しなければならない。さらに、その上で馬を信用しなければならないのだと思う。そのための馬上でのいちばん明確な手段として、馬術的な「技術」が存在するべきであろう。

調教報告

ドン・ホッパー号



騙 中半血 黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇払郡早来町産
父 オーシャチ(サラ)
母 ハゴロモ(トロ)

ドン・ホッパー号調教報告

久 光 経 司

調教報告とは名ばかりで、ただ単にドンに乗せられていただけの自分がこの文章を書くのは、大変おこがましい事だと思います。それでも、わかったことだけでも書いてゆきます。

最も重要な事は、馬の気持ちを理解してやることだと思います。最終的に完全に馬と対話ができるようになってはじめて、人馬一体になり得るということです。それには、いつも担当馬と一緒にいて、馬の気持ちを理解し、自分の気持ちを伝える様、努力すべきです。

次に、妥協はするなという事です。自分に対しても馬に対しても甘えを作ってはいけません。お互いが甘えるようになると、いざという時に、お互いが勝手にするという結果におちいります。この二点が実施できて、はじめて馬に乗る資格を有するのです。

さて、実際に騎乗中に為すべきことは、ドンの場合は、騎手の扶助に対して敏感な状態にすることだけです。この状態をつくることができれば、馴致さえしっかりしておれば、中障害のレベルならどんな障害でも飛越可能だと思います。ただ、自分がいい状態と思っていても、実際はそれ程でもないという事が多々あります。すなわち、自分の感覚がまだ鈍いという事です。できるだけ感覚をとぎすませて乗る様、心掛けるべきです。あとは、飛越前後で馬の邪魔をするなということです。(もちろん飛越中も含みます。)大きな障害になれば、馬もバランス良い態勢でないと飛ぶことが困難になります。ドンは今後更に老化してゆくので、随伴は完璧にできる様にしておいて下さい。自分の場合は、先に立ってしまう悪いくせがあったので、今から飛ぼうとする時に、バランスを前方に崩し、わざわざ馬の肩に重荷を

SOMÈS

高級皮革製品総合メーカー

ソメスサドル株式会社 ソメス 有限会社

本 社 / 北 海 道 歌 志 内 市 神 威 2 6 4

TEL 012542(代)2152

FAX 012542—6716

東京営業所 / 東京都台東区浅草橋5-12-6明治堂ビル

TEL 03(代)866—2131

FAX 03863—4652

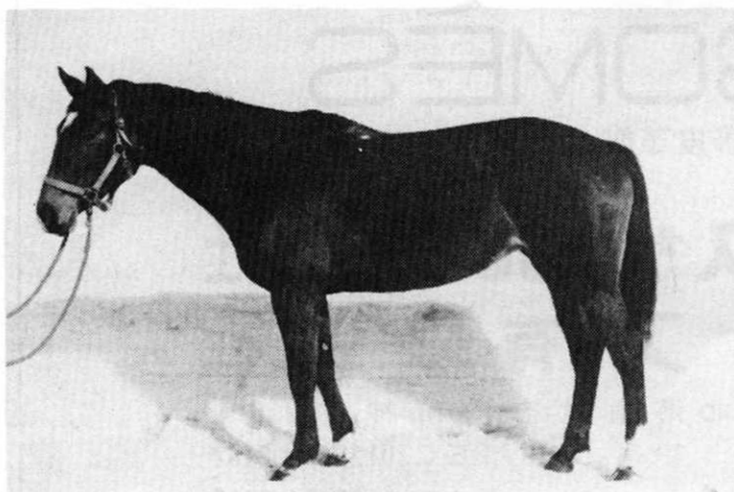
負わせているということをしていました。このようなくせは絶対につくってはいけません。また、拳でひっぱるのも論外です。随伴の練習は、機会あるごとに、他馬（他の乗馬クラブ）でやっておくべきです。悪いくせをつくらないようにして下さい。

また、馬体の老化を防ぐために、いろいろなトレーニングを行って下さい。特に、常歩での坂の登り降りは有効だと思います。その他、無理をしないように何でもやってみていいと思います。

もう一つ大事なことは、馬体管理です。これは常に十分気をつけてして下さい。ドンは、蹄も弱いし、皮膚も弱いので、神経質すぎる程に注意してもよいと思います。また、肢も弱いので、運動の組み立て方も気をつけて下さい。やり過ぎは、致命傷につながるかもしれません。

さて、いろいろ書きましたが、自分がこれだけわかったのは、部長、監督、半沢先生や、森田兄、その他諸兄弟の皆様の御指導のおかげです。どうもありがとうございました。

北 姫 号



牝 サラ 鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父 アステック
母 ヤマニンザザ

北 姫 号 調 教 報 告

中 村 康 利

昭和59年12月より谷山兄より引き継ぎ、北姫に1年間チーフとして騎乗したわけだが、その結果は惨々なものであった。

先代、先々代のチーフはまがりなりに北日本学生の権利のかかった試合に出るだけの折角がついたが、私はシーズンの終わる頃に小障レベルの折角がついた位に過ぎなかった。もともと、今シーズンは権利のかかった試合を狙わず、小さい試合で安定して走行できれば良いと考えていた。しかし、結果を見れば、馬の能力を引き出すだけの技量を私が持たずに終わってしまった。

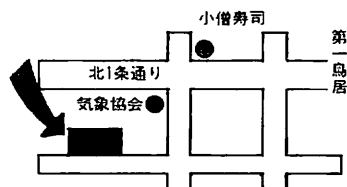
一年間私は乗ったわけだが、何を理想としていたのかを考えると、それがいかに根拠の薄いものであったかということ思い知らされる。「脚の絶対性」、「馬の銜への依倚」、「無理強いしない、馬の納得した騎乗」確かにそれら自体、何も間違いではない。唯、それをどうやって実現するかという方法を余り考えず、ただ理想を莫然と考えていたに過ぎない。

乗り手として一番足りなかったのは、騎座の安定を前提としての脚による推進、脚による推進を前提としての拳-銜への馬の依倚ということ忘れていたことだ。馬が銜に対してうろさく、且つ試合で興奮するので、拳の動きばかりに目が行き、肝心の脚や騎座に余り注意を払わなかったことである。だから、試合になって馬が興奮して突進しようとする、それを押さえようとするだけで、人間のバランスは後方に崩れ、脚を使わず、馬は勝手に前へ出るのを押さえられ、次第に障害を飛越しなくなった。

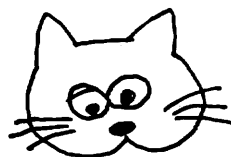
銜受に関しても、推進を伴ったコンタクトを求めていなかったのも、唯、伸び切った馬体に手綱の張力が一定となった銜が馬の口についているだけであった。

以上の結果として、馬の脚への無関心、銜に対する無関心、結果として無理強いをした乗り方となった。

三國犬猫科医院



中央区北1条西23丁目気象協会裏
☎621-0711

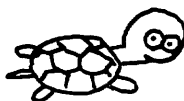


獣医師
三國 宏(院長)
三國 紀朗

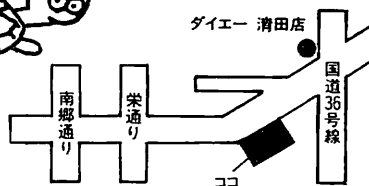
ペットクリニック

ぽち&たま

豊平区北野5条2丁目☎883-6261



三國都茂子
三國 恵



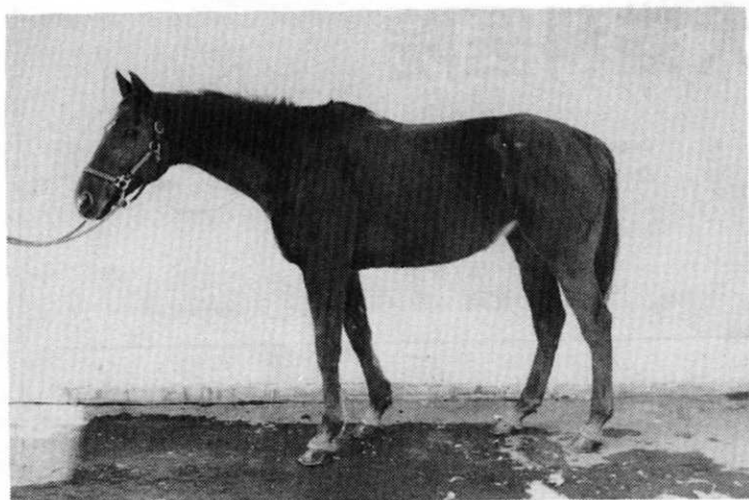
だから、まずこれを成し遂げること。それを踏まえながら、その馬の問題点を矯正していくことだと思う、もっとも、騎座一脚一衝受を求めていく過程の中で、その馬の問題点に必ずぶつかるから、その矯正こそ、衝受けが良くなることだと思う。

最後に、一年間、面倒をみてくれた町田雅人兄、勝手を許してくれた町田主将、その他のOB、同輩、下級生には感謝しています。

ミヨコは歯を磨くべきだ。

～7月19日(土)当番日誌より

北皇子号



騙 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラルグリーン
母 ハーバーガール

北皇子号をよろしく

町 田 憲 司

二年間北皇子に乗せてもらい、何とか全日本・全日学に出場しても恥かしくない成績を収められるようになりました。ここまで来るのに、西川さん（結婚するそうですね、おめでとうございます。）折橋さん、名越さんと引き継がれ、現在に至っている訳ですが、三氏には色々な面で教え、励まして頂き感謝しております。その他にも、岡田監督をはじめ沢山のOBの方々、そして碧雲・石狩・北星・フロンティア等の各乗馬クラブの方々、4年間お世話になりました。又、いつでも下にいて障碍を直し、試合の時には気を配って機敏に働いてくれた下級生、ご苦労さん。皆様方に感謝するつもりで、東京・大阪では試合をしてきました。本当にありがとうございました。

ここで今更、調教報告をして書くことは何もありません。現役部員に残したい事・聞かれた事は、馬場で、或いはミーティングの場で言うので、良いと思うことは引き継ぎ、又悪いと思うことは改正していく事と思います。しかし、これだけは絶対と思う事を1つだけ挙げてみようと思います。

『馬を愛する事』

馬の幸せを考えた時、私は試合で勝つ道を選びました。そこで私にとって一番問題となった事は、騎手の技量の問題ですから、馬に乗り、馬の話を聞ける機会があれば、手段を選ばず飛んでいき、うまくなる為に恥も外聞もなくくだらない質問をしたものです。

私の大目標はギャランを功労馬にする事でした。しかし、東日本で4位程度ではとても無理でしょう。これからギャランに乗る人は、功労馬を目指して乗ってもらえれば幸いです。

最後に、ギャラン。お前は北大馬術部に頂けられた身だ。精一杯働くがいい。そして思い切り可愛がってもらえよ。お前の幸せはきっと現役部員が捜してくれる筈だ。今まで本当にご苦労さま。

飼い桶・水のみ桶・荒物一式

柳 橋 商 店

札幌競馬場内

☎ (店) 011-747-7706

(自宅) 011-644-3021

日本中央競馬会外部団体

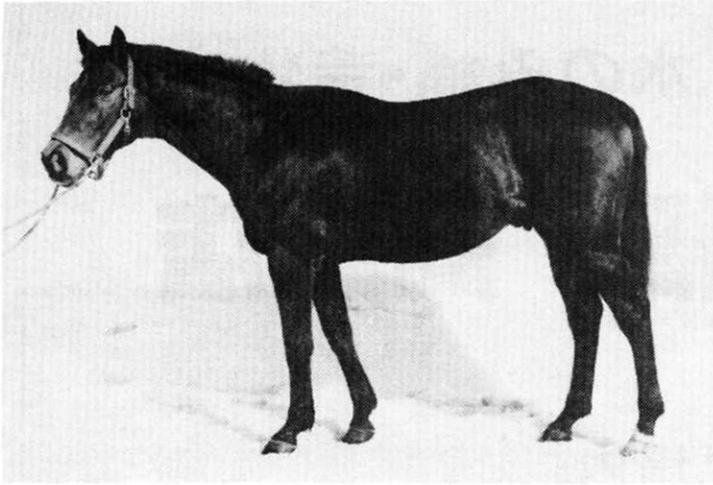
競馬飼糧株式会社札幌支店

札幌市西区手稲前田一条十一丁目

☎682-0311

国内産牧草及燕麦販売・輸入牧草類及
輸入燕麦販売外競走馬に関する飼料全般

北 耀 号



騙 サラ 鹿毛
昭和46年3月17日生
浦河郡浦河町産
父 ヘンリービギンス
母 タマホマレ

北 耀 号 調 教 報 告

山 田 和 男

現在の彼の状況をまず報告します。現在は、四年生の半田妹が、私の後を継いで北耀号の馬体管理責任者となっています。北耀号もはや16才。競走馬として長年活躍した彼にとっては、馬体に種々の故障がみられるようになったのも無理がないのかもしれませんが。背中の筋肉痛の悪化、肩の悪化、最近では左前肢の腱炎がひどいようで、相次ぐ故障ではほとんど乗れないような状況です。私としては自分が騎乗していた頃よりも馬体をよくすることは出来ないまでも、それをKeepしつつ、来シーズン、下級生たちに北耀号のよいところを試合で充分にわかってもらいたかったのです。それがこのような状況になってしまったのは、やはり私が無理をしすぎたせいだったのでしょうか。彼に一花咲かせてやろうと決心して騎乗してきた私にとって、彼がもう一歩も歩けなくなるまで乗り続けようと思った私にとっては、この状況自体は決して悲しいものではありませんが、このような状況に、私が騎乗していたときにはならず半田妹にそのつげが回ってきたことを申し訳なく思います。また在学している私は、半田妹に対し、馬体管理の不備、調教責任者としての甘さ等を小うるさく叱りましたが、実際には仕方のない事だと思っています。馬体管理にこれ程気を使わねばならない馬はまずいないでしょうし、その難かしさは野中兄も私も痛い程わかっています。しかし現役の半田妹に同情しても妹の為にはならないと判断し、しっかりかつ気長に彼の復調を待つことを指導してきました。面と向かって「申し分けなかった、よく耐えましたね。」ということができませんのでこの場を借りて言わせて頂きます。半田妹は、丸々一年間私と共に乗り続けてきたので、妹には色々なことを始終言ってきましたし、騎乗日誌も8冊程渡してありますので、今さら何も言うことはありません。そしてこのあと乗る者もいないでしょうから、細かな事を書いても意味がないように思われます。そこで2年生(来秋馬配にあたる人たち)の為になるような事

を書いておきますので2年生の人達には読んでもらいたいと思います。

あなた達はもうすぐ北大馬術部所有の馬のただひとりの調教責任者となります。ここで強調しておきたいのは所有は北大馬術部だということと、馬にとってはあなたが、ただひとりの責任者だということです。従って馬の好調・不調はもちろんのこと、その馬の生死までも握っている存在となるのです。あまりこのことを主張すると萎縮してしまう人たちもいるかもしれませんが、調教責任者というものが馬にとって何を意味するものかを、しっかり自覚しておく必要はあるでしょう。馬の生死を左右するのはあなたで、それを決定するのは“馬術部”というものです。ですから馬を出すという時期に来て、また決定されて、がたがた言うような、自覚不足の恥かしい真似だけはしないでください。

さて、何故北大馬術部は、次々と馬をとり換えていくのでしょうか。馬がかわいいから飼っているのなら、とり換えていく必要もありません。長い間親しみのある馬を手離す(殺す)必要などありません。しかしそれをやっているということは、北大馬術部が絶えず戦力をもつ馬を保持したいと思っている証拠です。従って“馬”は北大馬術部にとって、文字通り“駒”と言えます。つまり戦力をもった駒のみが必要なのです。ですから当然あなたたちに要求されるものも自ずと決まってきます。戦力となる駒を調教することです。

馬の一生は悲しいものです。生まれた仔馬が知るべくもありませんが、生まれながらにしてある使命を背負わされているのです。勝たねば必要ないのです。人の役に立ってくれなければ家畜としての意味がありません。ですから、生まれてから4年後には、その大半は殺されてしまい、まだ役に立つものだけが生かされるのです。その役に立ちそうな馬が、つまり我が部にたまたまいるのです。ですから、その馬は一步間違えば屠殺場行きだったかもしれませんし、あるいは大富豪にもらわれていたかもしれません。いずれにせよ、いつかは死にます。いつか死ぬ馬ですが、我が部はその馬が役に立つと見込んで入厩させ、あなたに調教をまかせたのですから、あなたがその馬が役に立たなくなるまで乗る必要があるのでしょう。つまり戦力とならなくなってしまったと判断されるまで、あなたは責任をもって乗るべきです。またあなたが乗っては戦力にならないと判断されたなら潔よくおりるべきです。

以上がチーフとしての自覚について述べたものですが、もしあなたがチーフとなって、チーフとは何かを考えるとときがきたら思い出してください。

〔調教に関して〕

一部の人達を除きほとんどが初心者であるし、また調教に関しては全員が何もわからないでしょう。何も難しく考える必要はなく、犬や猫や鳥などに何かを教えることと何ら変わることはありません。従って基本的には犬に“おすわり”を教えるのと同じだと思えばよいのです。犬に“おすわり”を教えるときに、“おすわり”をしなからといって叱っても、“おすわり”はしてくれないし、これをしつこくやればやる程、犬はその人のそばにいることさえ、いやになってしまうでしょう。反対に犬がたまたますわったときに替めてエサをやると、犬ははじめはキョトンとした目つきをしていますが、どうしてそうされたのか、しきりにその理由を探そうとします。そのようなときにうまくもう一度、苦痛なしにすわらせさえすれば、その次から犬はエサと褒美が欲しくてしきりにそればかりやるようになります。30分もすれば完全に覚え、その人の後をついてきては自分から“おすわり”をして、したり顔で上を見上

げるようになります。馬も全く同じで、叱って調教するよりも愛撫で調教する方がはるかに早道です。何か悪いことをさせてしまったときには、叱らなければなりません、そうさせた理由は必ずあなたにあるのですから、馬を叱ると同時に自分をもっと叱ってください。別の方法で同じことを教えることは可能ですから次は違う方向から進めていって、なんとか馬がそれに近いことをするように仕向けていって愛撫する。こういう調教が何よりもまして早い調教であると信じています。四年間乗ってきて調教全体について言えることは、かきつめればすべて、この「愛撫調教」ということになります。「愛撫調教」は、我部の最もよい伝統だと思われまふ。この中から愛馬精神が培われてくるものと思いますので、「愛馬精神」を持ちだしたりして、「愛馬精神」と「猫かわいがり」とをはき違えることのないようにしてください。

「愛撫調教」と同じようなことですが、個々の運動についてではなく、運動の進め方に関して言えば、馬に自信をつけるような運動の進め方をすべきだと思います。少しでも馬が自信を失いかけてると思ったら、馬が自信を持っているレベルまで運動内容を下げてやる必要があります。しかしいつまでも同じレベルでとまっていたのでは、すぐに年をとって使いものにならなくなりますから、少し不安を覚えるけどやれるような気がするというステップを絶えず追い求めていけばよいと思います。不安があってもそれを乗り越えればまた自信へとつながっていくのですから。こうして自信をもたされた馬は本当に恐い程勇敢になります。我が部からは、こういう馬が産み出されていっていることを誇りに思ってください。

【馬体管理】

人の判断など勝手なもので、試合前など気弱になっているときは概して馬の調子が悪いように見えるものです。どうも馬の調子が悪いと思っているときは、本当は馬には、さほど問題はなく、どちらかと言えば人の気持ちの方に問題があるといえます。従ってどうも破行気味だとか、元気がなさそうだとか、どこか痛いようだと思ふような時は、はっきり自分が、破行した・一歩も歩かない、ということがわかるまで、おもいきってやればよいと思います。獣医さんなどに聞いたら必ず悪いと言ってくれるでしょうが、多分それも、調子がいい時には何も感じずに乗っているものです。調子が少々悪いと思ふようなときは、獣医さんよりも自分の判断で乗るべきでしょう。一方、調子良く運動しているような時こそ危険だと言えます。あまりに気持ちよく乗っているため、少々破行気味であっても気付きませんし、どんな障害だって飛べるように思えてしまうものです。こういう時こそ、馬にとってはとてもきつい要求をされている可能性が大です。今、調子がいいなと思ふような時こそ、できるだけ獣医さんのアドバイスを聞くようにしたらよいのではないのでしょうか。

「北耀号」についての自慢

彼こそ満点馬の名にふさわしい馬です。その神経質な性格をうまく障害飛越で発揮してくれました。潔癖なまでに障害を尊重して飛んでくれたので、ただただ、人はその動きをできるだけ邪魔せずにと考えていただけです。彼は勇敢でもありました。個々の障害に関して全くと言って言い程不安を持っていませんでした。彼が唯一自信を持っていなかったのは、連続障害だったのです。これを克服するにはあ

まりにも時間が短かすぎたと言えます。

全日学に目標をしぼってきて、精一杯、北耀にかけて乗ってきて、今のコンビでは、これで100%だという気がしていました。春から出た試合では、彼が満点馬という裏付けから必ず優勝するという自信もありました。旭川での試合も勝てる自信がありましたから、連れていきたかったのですが、旭川は砂が深いとの話と、北日本が旭川直後だということを考慮して断念したので、なんとしても北日本で権利馬の一頭に入って、彼を団体の一頭にしたいと思って試合に望んだのです。準備運動も今までの試合同様彼の自信が伝わってきましたので、これ以上の力が出ないという気がし、一走目スタート。問題なく障害飛越してきた後、あの連続を見た時の彼の動揺が文字通り手に取るように感じられました。連続のAまでは飛んでその次が飛べない。そのとき彼はもう鞭が入るのもよく知っていたはずなのですが、(障害を飛ばなくて鞭を入れることは、この頃にはほとんどなかった。)目をつぶってじっとしているのを見て、いかにも参ったというような感じがして、いたたまれなかったのを覚えています。二走目はラッキーにも障害のレベルが下げられたので運よく権利がとれたのですが、このときも私は馬の心理状態がよいのはわかっていましたから、邪魔をしないようにするしかないと思って、連続も馬まかせでしたが、このレベルなら彼は自信があったのでしょう、少々動揺は感じましたが、勇気を持って飛んでいってしまいました。自分の走行よりも、ドンホッパーが権利をやっとの思いで取ったときに涙が出てどうしようもなくうれしかったのも、つい先日のように思い出します。

北耀号は、全日学団体出場の一員となり、彼に花を咲かせてやりたいと思っていた私にとってはとてもうれしいことでしたが、今回は全日学優勝をと思っていた夢がかなえられなかったことは無念です。年をとって戦力とならなくなった馬は必要ではありません。その馬が果たせなかった夢をぜひ君たちは、もっと若い馬で実現させてやって下さい。君たちがあずかったその馬がいったいどれほど、能力ある馬なのかを、その馬が死ぬまでに是非披露してやって下さい。

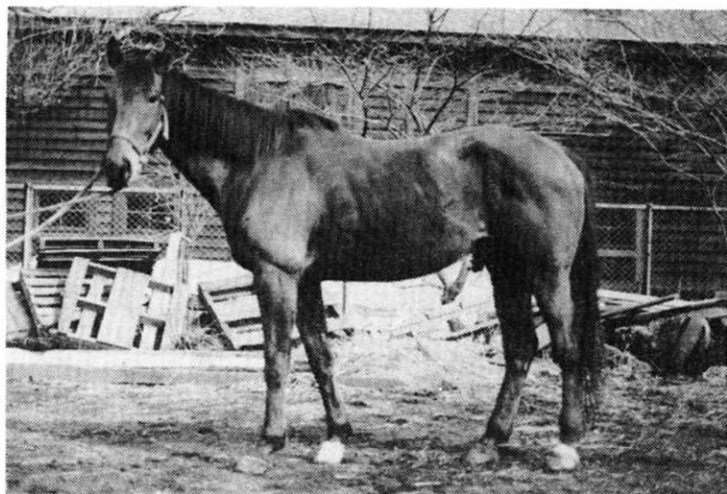
本日より半沢杯準備始まる。コンクリートは重い。半ちゃんは強い。

～4月2日(月)当番日誌より

「まただッ、」~~~~ ふと目の前に馬影……。このところPeter はるるん放馬しているようです。

～9月3日(水)当番日誌より

北 紫 雲 号



騙 サラ 鹿毛
昭和53年4月27日生
静内郡静内産
父 ホープフリーオン
母 クイーンマリーナ

北 紫 雲 号 調 教 報 告

野 中 道 夫

When schooling your horse never forget to:(from Common Sense Horsemanship, by the author)

a)Be tactful. Don't ask anything while the horse is upset; for teaching the horse a new movement choose a moment when he is in a cooperative mood. Always be the sympathetic teacher and not the conqueror of a brute beast.

b)Be patient. Try every means of explaining to the horse what you want of him. When the horse refuses to obey your orders the doubt should flash through your mind—"perhaps I did not explain clearly enough to him what I wanted." You must learn the horse's language.

c)Be moderate. Never forget to consider the horse's mental and physical fatigue; every lesson is a step in the gradual development of the horse, and every lesson must be only slightly more difficult than the preceding one.

d)Be analytical. When resistance is encountered try to determine its causes; perhaps a certain day is an "off day" for the horse; or some of his muscles hurt after too much of any one

exercise on the previous day; or possibly he merely does not concentrate; or he is really ill, etc. Each of these conditions will require different action on your part. Get in the habit, after dismounting, of reviewing the lesson in your mind.

e) Be persistent. If your analysis leads you to believe that there are no legitimate causes for the horse to misunderstand or to resist you, then coolly but stubbornly insist on the execution of what you wish.

f) Be grateful. Give the horse frequent rests; never fail to reward him, either with patting or with soothing words or a rest or a bit of something tasty, each time he cooperates; particularly when learning new lessons.

g) Be just. Never punish a horse merely because you are irritated; if necessary, punish severely at times, but never in anger. If on a certain day you feel generally angry with your horse, then the best you can do is to forget about schooling for that day. Punishment should be the result of cool judgment and not of hot emotions. Both punishment and reward must be administered very rationally; only then will the horse learn to know what is good and what is bad in his behavior.

h) Occasionally stop to consider what your horse thinks of you.

(Common Senseより抜粋)

高 田 敏 江

昨年一年間、調教責任者野中兄の下つきとして自分がついていたわけですが、調教に関しては自分はほとんどノータッチでただがむしゃらにマリに乗っていたようなものです。調教報告は兄に書いて頂いたので、自分の試合を通じてマリの変わっていった様子を述べてみます。

シーズン開幕の半沢杯では準備運動ですっかり馬が変わってしまい、脚を使えば反抗、もっと強く使えばさらに強く反抗、反抗、反抗。自分では少しも良い状態にはできずに場内へ。馬もいつもの飛び慣れた小さな障碍であったので、スムーズに走行したが、馬なりで緊張不足であった。準備運動で予想以上にかわってしまい、かなりの不安を残しました。道自馬では、試合前のかかなりの馴致にもかかわらず準備運動中、半沢杯と同様に反抗。人もそれを許すまいとやっ気になり人馬共にカッとなり、一日目の小障はどうか2反抗でかえたものの、2日目のB障では馬がとにかく逃げて帰りたいという感じで経路中、出入口に近づくとそちらに向かって逃げかなり反抗し失権。馬がかなり試合にこだわりを持っている。公認では、準備運動で脚にはかなり良く反応し、前日の二段階競技での反省で人が馬よりも前に出てしまわないよう丁寧に注意。今までの様につかかって来るような事もなく、かなり素直に飛越。

場内から逃げ出そうとする素振もなく、試合というものに慣れてきたのかと思う。北日本ではB障に出場。畜大馬場で何日も練習できた事や、準備運動でかなり脚に敏感であったり、経路が苦手な右回転が少なかった事もある。少し障害を見たが脚には良く反応し、馬が経路を回る事に集中できたようだ。道体では、準備運動でこれといったものが作れず、人がうきあしだっていたため2反抗をとられる。もう馬自体、走行途中で逃げまわろうとするような事はないが、まだまだムラ気があるように思われる。以上がこのシーズンの試合報告です。来シーズンもひきつづき調教にあたる事になり今年の反省を基にどこまでやれるか挑戦です。

最後になりましたが、一年間、本当の馬とは何かを教えて下さった野中兄どうもありがとうございました。

今日入部した山本妹にマリナーがかみついた。最近いい子だったのに。

～4月20日(土)当番日誌より

医 薬 品 卸
IBM コンピュータ販売

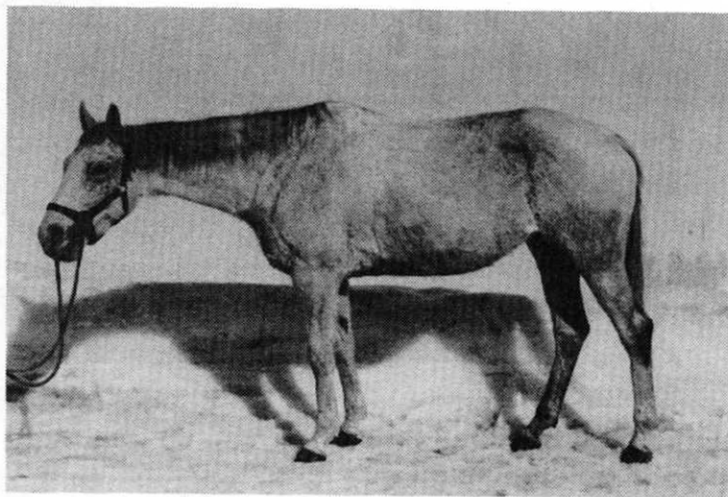


ホシ伊藤株式会社

代表取締役社長 伊藤 太郎

本社 札幌市中央区南8条西14丁目1397番地
電話 大代表<011>561-6111
支店 札幌中央・札幌北・札幌東・薬専センター・帯広・釧路・北見・函館・旭川
・空知・室蘭・苫小牧・岩見沢・小樽
・千歳・江別・伊達・函館東・八雲・網走・稚内・東京

ノエル号



牝 サラ 芦毛
昭和50年4月22日生
浦河郡浦河町産
父 フォルティノ
母 シンクイン

ノエル号調教報告

小役丸 千加子

この一年、気持ちだけが先走り、ノエルの持っている力を充分発揮できなかったことで、ノエルを寄贈して下さった斉藤勝雄さん、クラブのみんな、そしてノエルに対して、申し訳ない思いで一杯です。ここに、反省の念を持って一年を振り返ってみたいと思います。

昨シーズン、国枝姉がチーフの時、三ヶ月間馬休で過ごし、肢に少々不安はあったものの、能力のある馬だし、北日学で権利を、という意気込みの下に騎乗を始めました。人馬の信頼関係が出来、どんな所でも、手の内に入った状態で要求通りの伸縮ができれば、全てに通じると思いました。それには、従順さは勿論、バネや瞬発力も必要となってきます。脚に鋭敏に反応し、持ち前の前進氣勢がそのまま馬銜に出て自ら馬銜に頼ってき、それが後軀を使った動きに繋がればいいと思いました。その為には、馬本来の動きを邪魔しない様、馬上でバランスを崩さないこと、脚は必要な時だけ使うことなど私には直さないといけない欠点がたくさんありました。最初、速歩、駈歩で追い過ぎ、焦らせてばかりでうまく行かなかったのも、もっとペースやリズムを重視するように心掛けました。常歩からじっくりやることにしました。拳が堅いと重ってくるので、とにかく大きくゆったりと歩かせ、自然と頭を下げさせて自分から前下方へ馬銜を引くようにさせました。斜め横歩、前肢旋回などで単独脚を確かめ、ゆったりと全身を使った速歩、駈歩を準備運動としました。本運動では、回転を多く入れ、左駈歩では巻乗りの大きさを徐々に小さくしていくこと、右駈歩では回転で肩を出されないことなど念頭に置きました。障害は、速歩飛越を得意とし、良く飛ぶ馬だけど、後肢に当て落下させることが頻繁にありました。スピードを出し過ぎると良くないので、踏みきりをまちがえなく見つけられる速さで、確実に、三完歩前から追い出し、飛ばせる様に心掛けました。やり始めは、勝手に障害前の直線で歩度を伸ばしたり、完歩が

合わず、変な飛越をしたり、人間の技量不足で四苦八苦しました。脚は必要な時だけ使い、前進氣勢を持たせ、邪魔をせず乗ることをモットーとしていたのですが、もっと馬のスピードやリズムに敏感でなければいけなかったと思います。

冬場は、馴致が殆どで、足場の良さそうな所にスノーダンプやポリバケツや空箱などで50~60cmの障害を作り、またがせたり飛ばせたりして物に馴れさせる様にした。一度飛ばせば次からは難なく飛ぶのに奇妙な形や穴がある物は怖がったりします。

雪溶けの頃、古傷を再び傷ませ、半沢杯も馬休でした。ノエルにとってシーズン最初の試合で、一年ぶりの試合でもあった道自馬は、北日の僅か一ヶ月余前でした。その大事な試合も、前々日に怪我をさせてしまい、痛み止めを打っての出場でした。最良のコンディションで体調を整えてきたのに、自分の不注意で痛い思いをさせてしまいすまないと思いました。おまけに、試合数日前の練習中に放馬した馬に体当たりされ、以来、ノエル自身馬恐怖症に陥り、伸び伸びさを一時欠いてしまいました。準備運動も、それを気にして人馬とも神経質になってしまい満足できないまま出番になってしまいました。結果は一反。鋭角回転でつめきれず、無理矢理障害に向け止まりました。人間の失敗です。同じL級に真鍋妹も出場し、最初良かったのですが経路違反をし惜しいことをしました。

公認大会までの一ヶ月、絶対に肢を悪くさせない様気にしていた為、下級生を乗せる時間が少なくなってしまい悪かったと反省しています。北日学も近いことだし、少しずつでもレベルアップさせていこうと思っていたのにあっという間に時は過ぎていきました。この間、北星などで馴致しました。今までの練習や試合は北大の障害を使っていて馴れていたせいか、外に出てみて初めてカマボコ類が苦手なのだというのに気が付いた訳です。公認ではM級Cクラスに出たかったのですが、種目には二段階競技というのしかなく、それに出場することにしました。結果は、予想通り初めての障害に馬が戸惑ってしまい、そこで人間が推すことができず一段階で二反してしまい二段階目に進むことができませんでした。自分でも気迫不足だった、これではいけないと思い、翌日の小障に出ることにしました。さすがに昨日見た障碍も今回はすんなり越しましたが、踏みきりを合わせられず落下がいくつかと一反がありました。障碍前で止まれるのは人間が原因です。馬銜を外してしまうこと、馬が躊躇した時すかさず脚が使えないこと、馬に伝えられないこと、それに馴致不足に因るものだと思います。私の場合、試合を想定した運動をしていなかったことも原因の一つです。確かこの試合の何日か前にも放牧中に怪我をさせているのです。もっともっと早くに気付かないといけない事をこの時やっとわかったのです。

北日学までの一週間、兎に角今までの馬と人との約束事を一つ一つ確実なものへと心掛け、できるだけ外で行うようにしました。かつての北星のステイブルにも行ったのですが、勝手されたりごねられたりで、不安と自信喪失に陥ってしまいました。下級生の手前、平然としてはいたけれども、こんな時期に焦せりばかり感じる自分が情けなかったです。二走は高さが140cm、今シーズン試合で110cmまでしか飛んでおらず、あまりのレベルの違いに二走出場は辞退しました。総合一本にしました。畜大での練習は、林道などを走り馴致しました。得意な速歩飛越で人馬とも自信をつける様になりました。調教審査ではノエルは予想外落ちていましたが、駢歩でバタつかせ、図形も乱れ、点数に結びつきませんでした。耐久はノエルの最も得意とするところだったのに、人間が畏縮してとんでもない失敗をしてしまいました。あーもう終わりなんだと思いつつ、ゴールまで行きました。半分過ぎてからか、緊張感もなく

なった頃、ノエルの全身から漲ぎるエネルギーが汗と鼓動を通して感じられてきました。普段見ることのできない馬の能力を改めて凄いと思いました。これが本来の馬の姿なのか、と話だけではなく自分で体験できただけでも出た甲斐があったのかも知れません。ゴールで待っててくれた下級生には本当にすまなかったと思います。それでも待っていてくれて本当に嬉しかったです。有難う。失権して力が抜けていたせいか、不思議と疲労感はありません。あの時、ああしてればいつも思うことをまた感じている自分が情けなくなりました。今でもそうです。余力は第二障害で三反。カマボコの幅障碍でした。

もう一年時間があればどんなに嬉しいことでしょう。せめて満足いける試合の一つでもして引き継ぎたかったです。それができなかった今、ただ悔やんでいるのではなく下級生に伝える義務がある筈です。私の敗因は、ノエルを支配できなかったことです。同等であろうとし、ノエルのいやがる事はできるだけ避けようとして、反って勝手をする様になってたこと。全て私の調教の甘さから来たものだと思います。これからどんな馬にでも調教を携わる皆さん、与えられた時間は皆一緒なのだから一鞍一鞍で人馬の繋がりが深めれる様、努力して行ってほしい。そして競技に出場し、一試合一試合が人馬の自信となれる様頑張ってもらいたいと願っています。

ノエルは、一見大胆不敵に見えるけど、やはり牝馬らしく繊細な神経の持ち主です。得意とする所を伸ばしつつ、苦手なものにも挑戦していき、自信を決して失わせない様にするのが良いと思います。

調教には、野中兄、山田兄にも手伝ってもらいました。また、たまに出張で来札され騎乗される斉藤さんのアドバイスや注意は、反省させられたり励まされたりで大変になりました。馬体を診ていただいた小池先生、競馬会の方々、アドバイスして下さった監督さん、有難うございました。最後になったけど、サブチーフとして一年間ノエルの世話をしてくれた真鍋妹には、感謝をどれだけ言ってもいいかわかりません。ろくに試合にも出してやれず、私の後に引き継いでほしかったのに乗りにくい馬にしてしまい、本当に悪いチーフだったと反省しています。でも、でも、本当にありがとうね。

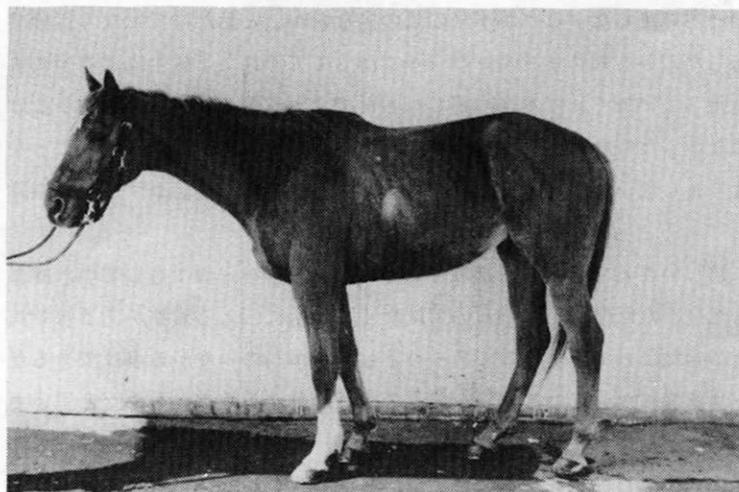
もうすぐ、ノエルの仔このスポット君もデビューすることでしょう。負けない様に頑張ってください。ノエルを信頼しつつ、そしてちょっと厳しいけれども、自分を過信しすぎずに努力を続けて行って下さい。後輩を伸ばしてやりながら。応援しています。

F I N

今日のノエルの誕生日に賀川弟がブロッコリーとかいわれだいきんとかぼちゃとにんじんをプレゼントしてくれた。しかし、高級品は口に合わないらしく、ノエルはにんじんを食べて満足していた。
～4月22日(月)当番日誌より

マナベが心を飛び散らしながら部屋Telではなしていた。「ただの友だちよ。」とか言ってニタついていた。
～4月28日(日)当番日誌より

北 冴 号



騙 サラ 栗毛
昭和53年4月12日生
勇払郡鶴川町産
父 ホウシュウエイト
母 アモーレターフ

北 冴 号 調 教 報 告

西 村 幸 祐

平石兄より、調教を引き継いで、その責任を全うできなかったこの私が、このような場に於いて「調教報告」なるものを記すことは、甚だ恥しいことだと思ふ。調教報告の欄にはよくある文句だが、こういった失敗は、自分を含めて、繰り返す事のない様にと願って、そして、仮にも、部員皆から、「彼」を頼まれた者としての義務と思ひ筆を執る。

前述のとおり、彼は昨年、平石兄とコンビを組み、中障害にも出場した馬である。だが、結果はあまり芳しくなく、失権を繰り返す事が多かった。拒止はほとんどないのだが、右へ逃避する癖があった。気性は、非常におとなしいのであるが、物事に対して非常に臆病で、馬房の前で、誰かが手を挙げるだけで、奥の方へささと引っ込んで、頭を高くしながら、目をむくばかりであった。馬の中でも、強くもなく弱くもなく、他馬を蹴る様な事はしない馬である。調教に関しては、「仕込むのを急ぎすぎた」との見方が多く、更には、北大へ入厩する以前には、かなり手ひどい仕打ちを受けたりしく、(事実かどうかは知らない)障碍にはかなりの拘りを持っていた様である。しかし、歩様・馬格ともすばらしく、能力的にはかなりのものがあり、北大での彼の姿を見かねて、自分が何とかしてやろうという人もいて、実のところ、引く手あまたの状態であった。

平石兄の指導の下で、彼を上げて行く方針であったので、いろいろと相談しながら練習するつもりであったが、私の健康管理(人間)の悪さから、家で床に入っている時が多く、さらには、本人のやる気のなさから、本気で、彼と心を通じようとはまでは決心できない様な気持ちであった為、充分な調教、継続した騎乗をやらなかった。半沢杯までもう2ヶ月とない冬のさ中に、持病の胃潰瘍で、調教を放棄してしまった。その為、主将の町田兄、あるいは、同輩の福島にお願いする事になった。

そんな経緯で、試合シーズンが始まったが、チーフは町田兄ということで、僕は兄の下で半沢杯の少し前から部に復帰し、再騎乗を始めた。試合結果と反省などを次に示す。

○半沢杯 町田兄 L級 連続のaで1反抗、タイム69⁷34 - 6.7.5

歩度の伸縮も、仲々良く、ペースも一定で、いい感じだと思った。1反抗は、ふみ切りのあわないことからということであったが、何となく違うように感じていた。つまり本当に良い走行であるとは心から思えなかった。しかし、こんな感じなら、今まで通りの調教で良いと思った。

○自馬大会 町田兄 L級 9番レンガで3反失権

半沢杯の感じや、大会馬場での練習から見て、この結果は予想もつかなかった。レンガの前で風が吹いて馬がびくついた為の反抗というのが兄の意見であった。

○自馬大会 西村 新人 経路違反で1巻乗り、レンガで1反 -13

大チョンボであった。本馬場で馬に不安を与えてしまった。1・2番の感じなら勢いで満点であった気がするが、レンガ前は、情ないが、もしやと思ってしまい、馬はやはり騎手の気持を察知してしまった。半沢杯と大して進歩はなく、脳裏には、何か大事なものが欠けていて、いざとなったら、大失敗を起しそうな気はしていた。

○公認大会 町田兄 二段階走行 1番で2反抗、2番で1反抗

○公認大会 西村 一般小障害 2番で3反抗

ショックの大会であった。全くハンドルがきかない、人間を完全に無視。信頼のしの字も見当らない。準備運動でも、馬が勝手に障害に飛び込んでいってしまう。これは向うのではなく、恐しくて、一刻も早く逃れたいからだだと思ふ。飛んだあと、仮厩舎へ帰ろうとしたのもその証拠だと思ふ。本当にショックであった。自分は裏切られたと思った。何をやって来たのかわからなくなった。しかし、これはすべて当然の報いであり、すべて人間のおごりであった。北冨にとってそれは自然の行動であり、彼にとって僕は、その結果に示される存在以外何でもなかった。情なく恥しかった。町田さんと話し合い、馴致不足だという結論に達した。試合後、立命館大学の佐野種茂氏のクリニックを受け、背中を邪魔しない様にかく静かに乗るように言われた。それからの練習は、今思えば悲惨であったと思ふ。鞭でひっぱたく事が多くなった。鞍上から、北冨の右口めがけてひっぱたいたりもした。牛が極端にきらいであった為、北皇子と共に馴れさせてきたが、この大会を境として、強行手段に出たのである。無理矢理牛に近付けた。やっていることは、北冨が北大へ来る以前と何ら変わりなかったと思ふ。かんべんしたのか、以前よりずっと牛には近づくようになったが、障碍に向う感じ脚の絶対感はそれ程進歩はなかった気がする。鞭・拍車でこづかれると、身体を硬直させながら、脚に敏感になった。

○北日学 B障 町田兄 かまぼこオクサー1反1落、ついたて三段2反

町田兄が騎乗すれば、仲々いい感じであったので、兄は、B障に出ると言った。僕は、どうしても中障レベルだと思えなかったが、兄の言う事を信じた。

○北日学 新人新馬 西村 垂直で2反抗 馴致失権

これで帰ってこれない時は、心中するつもりで出た。命をかけるとレセプションで宣言した試合であった。今こうして調教報告を書いているのは本当はあの世でのことであるが、恥しながら生かさせ

てもらっている。脚で馬を動かさないことがよくわかった試合である。障害前での馬の逃避の感じは、前の試合と何ら変わらないが、多少、やけくそでも飛ばなければという感じがした。強行策に出たことの結果であるかもしれない。障害をぶち壊してでも前に行かせようとして失敗した馴致失権であった。みじめであった。

どの大会でも言えることは、自分の馬に対する態度の甘さから来ている結果で、あまりにも町田兄に甘えすぎていた。自分の思った通りにのびのびとやってみるのもよかったとも思う。要するに馬にまたがったら動かすのは自分ひとりである。このことが頭になかった。

調教とは、人馬の約束を作る事であると思う。同じ体重の人が毎日同じ力で手綱を持ち同じ具合の脚を使う。その中で要求を行い、馬が積極的に要求を待つようになるのだと思う。北冨については、その事をやっているつもりであった。回転にしる歩度の伸縮にしる、ある程度はできた。けれどもそれが、確固たる信頼関係の上になり立った約束ではなかった。馬も人間の要求に反する事は容易であったが、それ以前に限りなく馬の信頼を騎手が裏切っていた。北冨は、ある所まで自分を出してくれるが、それ以上の折り合いになると固く自分の殻にとじこもってしまう。基本的な人間不信があった。足らなかったことは、馬の気持ちを考えて、どんどん自分に頼らせることであり、北冨を自分が充分信頼することであった。

今年は3年目の石井が騎乗することになったが、出来る限り彼をたすけて、是非、すばらしい人馬関係をつくってもらいたいと思う。北冨には、本当に信頼できる人間が必要である。

今朝AM3:30頃、水野さんが朝当をやりに来られたそうです。朝当の人、文句たらたら。
～7月4日(木) 当番日誌より

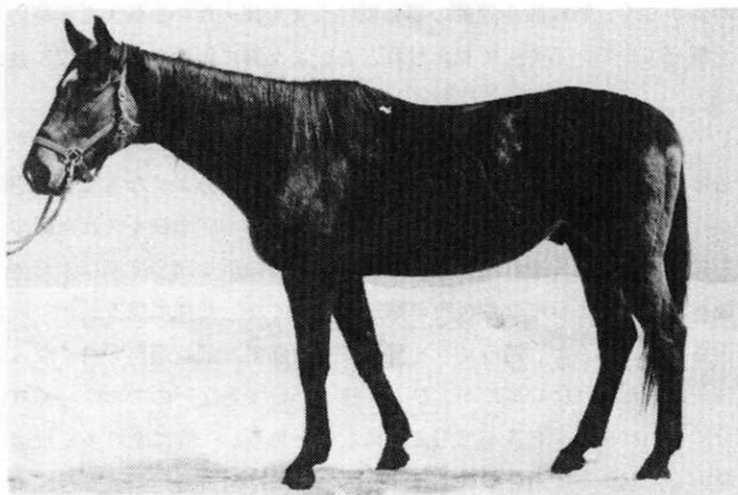
社会保険 国民健康保険 指定医
老人医療 生活保健 護法

庄 内 歯 科

歯科医師 庄 内 貞 夫

札幌市白石区本通2丁目北81号番37号 ☎061-2504

北銀（しろがね）号



騙 サラ 鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡上川町産
父 ヤマブキオー
母 ソーゴータカラ

北銀号について

半澤道郎

前年度の部報（第30号）に、「北銀号調教報告」の原稿を執筆したのが昨年の2月末であったので、早くも約1年になるところです。其の後の調教状況を書くよう依頼を受けましたが、昨年の1月から3月末までは、雪の上と私の身体の都合で殆んど乗らないで、4月の2日から乗り始め9月の終わりまで、約6ヶ月、しかもはじめの4ヶ月間は比較的続けて乗りましたが、8・9月は競技会や遠征で、また10月には肢の故障で殆んど乗らなかったもので、実際に乗った回数は少なく、1回の騎乗時間も30～40分間位ですので、私の乗った時間より名越君や陣川君、それに初心者級の諸君が乗る時間の方が長い状況では技術の不足な私の調教は効果的な進歩に繋がらなかったもので、誠に申訳が無い次第です。

1月2日の初乗りに馬場から北3条西28丁目通りまで常歩で歩いた感じでは、特に変わったことも無く安心した次第です。

昨年中に小野忠兄、瀬川さん、鎌田、千葉両君に乗って見て頂いて、注意をする点、不十分な点を教えて頂く機会がありました。何方も脚に対する反応が悪いから、脚の扶助に敏感になる様にすること、常歩をもっとゆったりした潤大の歩様で歩くよう、拳と口のコンタクトをもう少し強くしては等の助言を頂いた。自分の脚の使い方、力の強さと他の方々の脚の扶助の差異を直接に比較できないので、馬の動きから感じ取ることは容易でないが、おそらくもっと軽い力（脚の扶助）で軽快な運動ができるようにしなければいけないということと考えられる。その為にはまず脚の威力を教えて、柔軟な刺激にも威力を予感して反応するように仕向ければ良さそうである。そのために短かく歯の無くなった輪拍を少し長目の棒拍に替え、鞭を補助に使い、脚の扶助と拳の扶助の連携に一層細かい注意を払い乍ら運動することにした。私は正式の鞭の使い方を教えて貰ったことが無く、自分で練習した期間も少なく、(鏡

馬場でオオカリヒメで短期間長鞭を使う練習をした位で)、普段は殆んど鞭を持たなかったのに、脚に合わせて適確に使うことがなかなか難しく、特に駢歩運動の場合にはうまく使えない。潤大な歩様の常歩行進、頸を伸ばした運動などを混ぜていろいろやって見たけれども、まだ脚に鋭敏になるまでに致っていない。

その他四肢を揃えた停止も難しく右後肢が後に残るのがなかなか直らない。横歩、二蹄跡運動も未だ左右同じ様に出来ない。停止や各歩様からの駢歩前進は右駢歩が幾分出難いが大分よくなった様に思う。駢歩から停止は未だうまく行かないが、速歩や常歩を入れての停止、駢歩の中間歩様を入れた駢歩発進や手前変換は沈静している状態では繰返してやれる様になった。空間での駢歩踏歩変換は未だやっていない。概して以前よりは前肢が前になり後肢の踏込みも良くなった様に思う。

障害飛越については名越君が報告されると思うが、踏み切りを覚えて来た様で、飛越態勢も良くなった様に思う。乾藁や水藁、バンケットは未だ慣れない様だが、ひどく嫌うわけでもないで、ゆっくり教えれば、適当な誘導と推進を充分にすれば自分から進んで飛ぶ様になると思う。一度に余り多く飛越しないで、1 m20位のいろいろの障害を何処からでも、眼の前に表われたものは何でも飛越する様に調教できれば最高だと思う。国体の指定馬の資格に合格し、国体に出場出来るようにしたいものです。

(6 1.1.15)

北 銀 に 騎 乗 し て

名 越 正 泰

ギンに騎乗して一年半、前号の部報より約一年近く経った。この一年間は、まず、試合に出る、そして、L級障害の経路を安定して回れるようにする、また、後を引き継ぐであろう現役部員でも、同じ事ができるようにする事、に目標を置いた。

その為には何が必要か？ 当然の事だが、乗る人間の指示に従って経路を回れるように成らなければいけない。この事の為に、例えば発進、停止、歩度の変化、回転、飛越など、要求される事を確実に行える様にしなければならない。この様な考え方で、特に馬体の形には拘らず、自分の脚で、手綱で、どんな要求に対しても、人間の思う通りに動く事を目指して乗っていった。従って、引き継ぐ現役も、私の事は一つの参考ぐらいに考えて、更に進んで、自分の思う通りに動く様に、自分の体で、あるいは感じ、あるいは馬の方をその様に変えながら、乗ってほしいと思う。積極的に乗っていく限り、北銀は絶対に後退しない、という自信がある。

この一年間を簡単に振り返って見る。

(1) 冬期の運動

4月中頃までは、大きな変化のある運動、大きな図形の運動を中心に行った。そして何よりも、この期間の目標を、試合のシーズンを余裕を持って乗り切る体力と力強い馬体を作る事に置いた。具体的には、長めの常歩外乗、ゆったりした速歩、駢歩を特に野外で多く取り入れる。また、馬の腹に達する深雪の中でも速歩、駢歩で通過する等々である。障害に関しては、引き続き、正確な踏み切りを教える為、キャバレッティバーから、単一障害や連続障害の速歩、駢歩飛越へ発展させていった。また、それらができる限り経路に結び付けていく様にした。この冬の間は、交突などの外傷を多くさせてしまったが、

幸い、腱や肩などの故障はなく、十分に運動でき、目的をほぼ達成する事ができた。また、外乗を多く取り入れた事で、馴致はもちろん、環境による馬の変化が良く分かった。障害のレベルを上げていく事で、L級程度なら大丈夫という実感がつかめたのもこの時期である。

(2) シーズン中の運動

運動方法は、冬期と同じで、経路（回転、伸縮、障害等）のレベルを上げていき、最終的には、練習が、試合と同程度、むしろ上のレベルになる様に目指し、競技に臨んだ。一つは、試合は特別でないという事、もう一つは、試合では、最高でも普段以上の事はできないという考えが、その理由である。試合シーズンの間でも、できるだけ、外乗だけの日も入れる様にした。

(3) 競 技

今シーズンは、デビューの年という事もある、競技回数も少ないので順を追って簡単に書いてみる。

5月上旬。半沢杯（新馬障害）。ホームグラウンドでもあり、経路も分かっていたので、ほぼ思い通りの走行ができた。ただ、人間が久々の競技のため、慎重になり過ぎ、タイム減点を食ってしまった。北大の馬場とはいえ、日頃と同じ事ができたのは、大収穫だった。

6月下旬。自馬大（新馬障害）。碧雲クラブで行われたため、経路回りができた。にも係らず、結果は、カマボコ障害で一反抗だった。「カマボコ障害は一度も飛んだ事がなかった。」という言い訳には、二つの重要な意味を見出す事ができる。すなわち、

Ⅰ、馴致できる物は、できる限り、できる時に馴致せねばならない。

Ⅱ、初めての障害でも絶対に行かせる様にせねばならない。

という事である。

8月上旬。北日学（新馬障害）。日頃やっている事ができれば、充分こなせるとの考えと、人間の経験を積んでもらう意味で、現役の陣川君が乗った。結果は芝カマ障害を遠くから見て、一反抗。現役でも何とか大丈夫と確信した反面、やはり「絶対飛ぶんだ!!」という気迫の必要性を感じた。

8月下旬。道体（L級障害）110cm程の障害であれば問題ない、との考えから、私と陣川君とでエントリーした。この時、私は、一度拒止しても、二度目は飛ぶ。私は止まりながらも行けば、陣川は満点で帰るだろうと考えて、実際にその通りになった。が、この考え方は、自馬大のⅡと同じ理由により、馬乗りとして失格で、試合に臨む態度ではなかったと思う。「新馬だから。」という一種の妥協だったと思う。やはり試合は勝負で、出るからには、必ず飛んで勝とうとしなければならない。

10月上旬。国体予備馬審査会（L級、二回走行）。9月頃から、時々、左前肢球節に熱が出て、破行が目につく様になった。夏場の疲れが出たのかと、長く休ませたりしたが、簡単には直らない。ようやく、太田さんや獣医のお陰で、運動できる様になったのは、競技の数日前だった。一走目、回転前の減速が甘く、次の障害に正しく向えなくて、踏み切りを誤り、大きく障害に引っ掛けてしまった。落馬である。その後は、スムーズに回り、二走目は、難なく走行できた。一瞬のミスが命取りとなり、大変、惜しい思いをした。最も、目標に考えていた試合であったのに。これも一種、瞬間の妥協であると痛感する。

(4) 感じたこと、及び課題

この一年を通して、思った事、感じた事を、理想や今後の課題を交えて、羅列する。

① ギンは重いか？ たしかに、少々強い脚、拳が必要だ。しかし、現在できる運動を、力強さを保ったまま、もっと軽い扶助でできなければいけない。それには、正確な扶助を必要なだけ使い、許す所ははっきり許す様にする事が必要だと思う。

② 走行ペースは？ 試合では、ゆったり走るけれど、迫力がない場合（緊張が足りない）と、少し興奮みで、踏み切りを見つけれない場合の二つが多かった。十分な前進氣勢を持った上で、ゆったり走れるのが理想と思う。その為には日頃の種々の伸縮しかない。

③ ギンは素直か？ たいへん素直な馬だと思う。しかし、試合で、二度目には（安心したら）必ず飛ぶ、というのは素直とは違う。真の素直とは、多くの諸先輩が言う様に、「行け」といったら必ず行くこと、だと思う。それは調教である。

④ 踏み切り。 もっと、もっと確実な踏み切りを見つかる様にしなければならない。その為には、一定したペースはもちろん、常に良い態勢で障害に向う様にせねばならない。特に経路として飛越する際、回転で左肩を出すため、正しい態勢になるのが遅い。正確な減速→回転→馬体を真っ直ぐにしての運動の繰り返しが有効だと思う。

⑤ 競技のレベルを上げる時は？ L級程度の踏み切りが完全になれば、M級へ上げていけると思う。しかし、それに伴って、他の要求も厳しくなるので、競技に出るためには、少くとも練習で、その要求を満たさねばならない。スティーブル等も同じ。

⑥ 妥協とは？ どんな練習でも同じだが、自分や馬に対して、妥協があってはならない。特に、自分で経路を考えて運動する場合には、妥協ばかりしていると、ただ、勝手気ままに走っているだけになってしまう。逆に言うと、どれだけ妥協が少ないかが、調教の本質なのではないだろうか？ 新馬の調教はこの妥協を無にする事しかない、と感じた。

以上、多くの課題を残してしまいましたが、先にも書いた様に、自分の体で感じて乗って行ってほしいと思います。直接触れませんでしたでしたが、多くの時間を裂いて、いっしょに乗っていただき、指導下さった半沢先生をはじめ、多くの諸先輩方、同輩の皆の助言から受けたものは膨大であると思います。その方々や現役部員の期待に背く試合ばかりやってきた事、お詫び申し上げます。最後に、日頃の曳馬、手入れ等の馬体管理、つまり調教の大部分を行い、睡魔に負けそうな時は、モーニングコールをくれた、現役の皆さんに感謝します。

1986.1.25

夏休みもあと5日になって宿題を始めた私は、ただのなまけものです。最初の予定では今日は楽に寝れるはずだったのに……。

～8月28日（木）当番日誌より

北 玲 号



牝 サラ 鹿毛
昭和56年4月8日生
幌泉郡えりも町産
父 ノーザンアンサー
母 クレメンティン

北 玲 号 調 教 報 告

長 屋 清 隆

長文の手紙を書くにあたり、「私は忙しいので短い手紙を書いている暇はありません」と前置きした人物がいたとか。僕の場合、頭脳的な問題から、よく推敲された調教報告を書く事ができないので悪しからず。日頃念頭に置いている事柄を1つ1つ取り出して膨らませていくと、以下のようになるわけでして、常時このようにこんがらかってはいません。

まず、1年間の騎乗を振り返ってみると……

入厩してから雪が降る頃までは、専ら馬場内での輪乗りを主体にして運動し、三種の歩様の発進及び停止の扶助を号令と共に行なったり、キャバレッティや簡単なバーのコンビネーションを、慣れさせるといった感じで通過させたりした。最初のうちは飛び易いものに限り、うさぎ飛びなど飛び辛いものは馬に力と自信がついてからで良いと思う。躡として静止と、飛び乗りでなく乗馬も、最初から行なった。入厩して間もない頃は、何をやらせてもそれこそ「嫌な顔」一つせず素直で、厩舎にも馴染んでいないせいか、外乗に行っても早く帰ろうと焦ったりしないし、他の馬を見ても特に関心を示さなかった。外乗は主に構内で、新寮近くの新「北大富士」の坂の上下なども行なった。

雪が積もるようになると、コンディションの良い時は馬場で、凍結したり大雪が降ったりした時は、比較的除雪状況の良い工学部駐車場などで運動した。そのような場所では、常歩・速歩中心に駈歩発進も織り混ぜて30分ほど輪乗りを行ない、あとは構内を中心に外乗し、時には周辺の街の中へ出掛けたり、雪が締まっていれば場所を選ばず軽く速歩をさせたり、キャンターで走らせたりもした。

前日も書いたが、除雪車には悩まされた。動いている状態ではどうしようもなかったが、いつも通い

慣れている道などに置いてあったりすると、素知らぬ振りをして周りを歩いたり匂いを嗅がせたりした。馬が物見をする場合、近付けて納得するまで見せるだけで気のすむケースもあるが、最初は無理に見せずに知らん顔をし、何度か通るうちに気にしなくなってから見せる場合もあった。お互いに慣れてない為に信頼感が生まれないうちは、馴致よりも無理強いされる不安感を頭に焼きつけたくなかったので、かなりビビる物に対しては主に後者の形をとり、馬の挙動に一々こだわらないようにした。

日誌とまではいかないが、毎日の印象をごく簡単に記した騎乗メモを見ると、2月初旬に「人への信頼感が生じてきたような気がする」と書いている。この時期は腹部の怪我などで馬休が続いていた頃で、曳馬で外を歩いていて北玲の素振りからそう感じたのだが、当たらずと雖も遠からずだったと思う。僕だけにというのではなく、厩舎にも環境にも、世話をしてくれる者たちにも慣れてきたのではないかと。狂奔したり、立ち上がる素振りも少なくなったように思う。

冬の間、故障さえなければ週に何度かは汗をかく程度に運動させたせいか、春になって冬毛が抜ける頃になると、前軀の筋肉が思ったより発達しているのがわかったが、前に重くなって動く為なのか、後軀の方はそれほどでもなかった。

この頃はバーのコンビネーションを、距離や構成を色々変えて練習していた。主に駈歩でアプローチしてゆったりと飛ばせるようにし、回数は多くて20回前後、高さ・幅とも90cmくらいまでだったが、ボリュームのある方が全身を無理なく使って良い飛越をし、体も捻らなかつた。

4月に入って初めて拍車をつけたが、抵抗感はなかつた。

またも怪我で馬休が10日ほど続き、その後も障害練習もままならなかつた。

半沢杯初の初めての経路回りでは、スタートの旗に度胆を抜かれて、2番目のごく低い何でもないオクサーで拒止されたが、残りの障害は無事通過。

酪農大へ1頭で馴致に行ったところ、馬運車の中では震え通して汗をかき、着いても興奮していたが、騎乗すると不思議と落ち着き、自信を深めた。

半沢杯。最初が肝腎と思ったので、あれこれ気を配った。乗馬ライフ誌に連載された竹田恒和氏の「新馬の障害調教」を参考にして、準備運動も含め、終始異和感を感じさせないよういつも通りの運動をし、入場は常歩で、スタートまでにごく自然に速歩から駈歩になるようにした。ゴールしたら常歩に落とし、退場前に1回輪乗りを行なった。以後殆どどの試合はこのパターンで臨んだ。走行自体は、やや慎重ではあったが素直で、経路回りの時よりも良く、一安心した。

5月中旬頃、速歩で後肢が跛行するようになった。常歩・駈歩はなんともなく、暫くして直ったが、夏場にも再発して長引いた。右腰が悪いと思われ、注意を要する点だ。

また、伝賃検査の採血を嫌がって暴れ、怪我をして馬休になるなど、治療に類する処置は悉く嫌う。福島獣医も名誉(?)の負傷をしたようだが、今後も担当者らの気長で辛抱強い対応が望まれる。日頃如何にも大人しい北玲の内面の一部が垣間見えていると思う。

自馬大会が近づくと、少しずつ色々な障害に慣らすようにした。バー障害は1m前後まで飛んでいるので、門扉やピラピラなど初めての障害でも高さの点では問題なく、寧ろ目先の変った形や色にどう反応するか見ものであったが、最初に見せておくと、拍子抜けするくらい簡単に飛んだ。大して見もしないで平気で近づく障害は、九割方安心してよかろうと思われた。

自馬大1週間前に碧雲クへ移動したが、仲間と一緒にのどろきを見せた。ただ、外乗へ行って単騎になると目が覚めたようになり、馬の自由にさせておくとわめいたりもした。北大富士のよりもっと急な崖とも言える所を降りたりしたが、北大で慣れていたせいかわらぬ、器用に危げなくこなした。

自馬大会。準備運動では、速歩など行なって体もほぐれたと思われて、ごく低い障害を通過させたが、特にオクサーでは初めの何回かは後軀を思い切り跳ね上げるので、放り出されそうになるほど随伴のし辛い飛越をした。その後の試合でも経験したが、数回通過させるうちに収まるので気にしなかった。アプローチで緊張するようなので、最初はキャバレッティバーなどを速歩で通過させるようにすればいいのではないか。

準備馬場、待機馬場とも周囲の馬にはピリピリし通し。向こうからやってくるとわかっただけでもう駄目で、飛びのいたり逃げたりの連続だった。北星乗クのマドラスにも乗っていたので鼻つき合わせたところ、噛みつく真似をして悲鳴をあげさせるなど、相当ヒステリックになっていた。そこで他の馬の動きを見て必ず避けるようにし、馬にもわからせるように声を掛け、叱らないでどンドン運動していると次第に落ち着いてきた。

競技場では風が強く砂煙が舞い上がり、走行中に障害が見えなくなる事もしばしばだったが、追い出しに素直に反応して踏切も合い、経路走行としては申し分なかった。多くの馬に囲まれているよりも、単騎の方がリラックスするのではないかとさえ思われた。馬場に慣れていた為ではあろう。

この頃から再び右腰によるとみられる跛行が目立つようになり、9月末まで一進一退が続いた。6月末に来札された水野さんに動きを見てもらい、診察を受けて筋肉注射を打ってもらったりして、調子をみながら短時間の障害練習や外乗、酪農大への馴致を行ったりした。練習不足の為か、駈歩による障害へのアプローチは踏切が近くなりがちで、しっくりこなかった。強引にいい所から踏み切らせようと思えば出来るのだが、焦らせるばかりなので、後味の悪い思いをするだけだった。

旭川での公認大会。準備馬場での挙動は自馬大会と同様だが、練習用の障害へはやや突進する傾向がみられ、所謂バカッ飛びを繰り返す。飛越自体は悪くないのだが、持味の柔らかさが失われ、いつもと感じが違う。暑くてすぐ大汗をかいだ。待機馬場では、大人しく立ってはいるのだが相当緊張しているさまはありありで、声を掛けるとしきりに耳を動かし、珍しい事にポロを2回もした。

競技の結果は1落で、その障害は全障害中とびぬけて落下が多かったから、高さ云々よりも、視覚的に馬の判断を誤らせたのではないか。踏切はほぼ適切だったと思う。それよりも経路走行そのものが甚だ不満足で、各障害を確かめるように詰まって飛越するさまは、まるで障害を飛んだ事もないド新馬が、無理矢理飛ばさせられているようだった。意気地なさにはがっかりした。とは言っても、緊張を解きほぐせなかったこちら悪かったわけで、馴致なしの初めての馬場で競技に臨んだ事を考えると、この試合が新馬としての実質的なデビュー戦と言えるかもしれない。

7月から8月にかけては、跛行気味なのと、例年以上に暑くて動きが鈍い上に虫が多くて苛つき、それに北日学で馬術部ごとなくなる為に北玲も連れて行かれたりで、満足のいく練習は出来なかった。

帯広での道体。競技前の曳馬中、羊に驚いて跳ね回る。草地で運動して落ち着いてから準備馬場に入ったにも拘らず、最初はやはり他の馬から逃げたりしたが、広いのでそれほどピリピリせずすんだ。バカッ飛びは相変わらずだった。入場門の前では、極度に緊張しているような様子はなく、じっと競技

場内を見ていた。競技の結果は満点ではあったが、門扉や花壇などは障害自体に躊躇したのか、入場門の近くだったせいかわからないけれども、詰まったり止まりそうな飛び方をして、満足のいく走行ではなかった。それでも公認大会の時よりは多少滑らかさは出たかな、という気はした。障害飛越後の駈歩の手前は、日頃の練習中と同様に、右手前は思ったように出なかったけれども、着地後の回転では自然に踏歩変換していた。

そろそろ現役も北玲に慣れさせた方が良かろうと思って、町田も同じ競技にエントリーさせたので走行を見たが、馬が馬場に慣れて気が逸っていた上に、騎手が三角点からやや強引に追い出すので、フラットになってしまって第1と第6を落下し、成績の関係で途中で退場させられた。

おっかなびっくりの走行と、落下も気にしないような速くてフラットな走行とは、どちらも北玲の気の小さい性格をよく表わしているといえるだろう。

北星乗クでの市民大会。ジムカーナに福島が出場するので、準備運動だけ僕が行なった。駈行が気になって運動を控えたりしていたので、はっていたがさほどピリピリせず、逃げ回ったりもしなかった。競技は跨いでも飛べる程度だったせいもあると思うが、前半やや緊張気味に見えたほかはスムーズな走行だった。

その後2週間ほど、殆んど常歩のみの運動を行なう。小池先生に診ていただき、駈行は臀筋全搬の、疼痛の為に、静注を10回ほど行ない、常歩程度はした方が良いとの診断であったので、44国体強化指定馬の審査会までは、殆んど常歩運動か外乗程度に留め、審査会が近くなってから簡単な障害練習をしたり、酪農大や北星乗クへ馴致に行ったりした。

審査会。同一の経路（L級）を同じ日に2回走行して、上位15頭を強化指定馬に選ぶというもので、第1走行は9時から、第2走行は正午から行なわれた。碧雲クの馬場は自馬大会などで慣れているので心配なかったが、L級クラスなので時間の勝負になった時、どの程度までやってよいものか迷った。試合開始前ですいている間に、準備馬場で30分ほど運動してから一旦馬をあげ、出場前に再度障害練習をした。準備馬場での挙動はいつも通り。

第1走行。初めの何個かの障害は低いので飛越がフラットになって冷やりとしたが、全搬に特に問題はなく満点だった。接近している障害間は、下見の時に距離を見て追い出す地点をだいたい掘っておいたが、それでも微妙なところで踏切が中途半ばになりそうな障害は遠めから飛越させ、無理しない程度になるべく近回りを心掛けたので4位か5位だった。ペースは少し速いかな、という程度だったと思う。上位に食い込めたのでいけるかもしれないとは思ったが、第1走行の感触からすると、2回目の走行は焦ってフラットになりそうな気がしたので、障害への距離を考えると1・2番障害あたりは気をつけねばなるまいと思った。準備馬場では至極落ち着き、完全にリラックスしたように見えた。軽めに運動して、障害練習も数回に留める。

第2走行。入場して停止・敬礼、速歩発進までは1回目と同じだったが、駈歩にした途端ぐっとなかかっておやっと思ひ、一瞬常歩にまで落とそうかと迷ったが、声を掛けながら押さえこめばなんとかできると判断して、そのままスタートした。1から2までは距離がある上に入退場門に向かっているので、声を掛けると共に手綱を控えたが、それでもぐんぐん出ていった。5から6へはやや右回転で4間歩か5間歩だったと思うが、5を飛ぶ時から既にフラットで、6は体勢を整えられず前駆が上がり切ら

ないまま飛越して落下。大きな音がして、やっと馬もはっとしたようだった。後半は少し慎重になったように思う。しっちゃかめっちゃかとまではいかないが、予想を上回るつかかり方だった。1落で17位くらいに落ち、目の前にぶら下がっていたはずの強化費36万円がペアになってしまった。残念無念！審判長として見ておられた千葉さんには、「馬とケンカせず、譲らせて乗らないといけない」と言われた。重々承知はしていたつもりだが、初めて手の内から離れた状態での走行となり、大きな課題が1つ増えた。「なかなかいい馬じゃないか」と言って頂いたのが救いであった。千葉さんには2度乗って頂いたが、見る間に馬が丸くなり、大きな動きをするようになるのに目をみはった。

1週間後に酪農戦が行なわれ、オープンで出場する予定であったが、コンディションが思わしくなく中止したので、競技に出場したのは審査会まで。北星乗クでの地区大会のジムカーナに佐多が出場したが、準備運動も含め僕は一切ノータッチでやってみたいとの希望だったので、程度も低いし比較的慣れた馬場なので許可し、走行だけを見た。佐多の思惑とズレがあったようで、走られて行き過ぎたり大まわりしたりしていた。そこらへんのところは、次回の調教報告で佐多が触れるのではないかと思う。

騎乗メモを見ていて改めて気付いたが、口向きや馬体の偏りは一定ではない。首の柔軟さもずっと前は左へあまり曲がらないと書いているのに、最近はどこらかという右の方が硬いし、コンビネーション通過後の駆歩の手前も現在と逆で、右手前ばかりに偏る、などと書いている部分もあるのを見ると、そうだったかなあと思う。同じ乗り手にしてからがこうなのだ。バランスなんていとも簡単に変わる。注意深く乗れば、意外と短時日のうちに馬を変える事も可能だろう。

次に、朝の練習中に行なった事について述べる。毎日このパターンを繰り返したわけではなく、調子をみて、或いは試合を控えたような時期を考えるなど、臨機応変にパターンを変えたけれども、基本的には以下のやり方で練習を進めた。

朝一番に厩舎から出、装鞍した直後は体がほぐれていないから、歩き方にもかなり偏りがある。左に肩を張るだけでなく、それ以上に奇妙なくらい左前肢を斜め前方に踏み出してヨタヨタと歩く印象を受ける。厩舎から出す時に前後肢ともよく伸ばさせてほぐし、曳馬や調馬索作業を行ってから騎乗する。騎手自身が真ん中に乗り、徒に前に掛からない事を常に確認しながら、常歩で拳を口の動きに合わせてつつ脚を使って1歩々々をゆっくり大きく歩かせ、次第々々にハミに馴染むようにする。直進行だけでなく、頻繁に手前を変えながら回転も行なう。通常、回転は肩を張らないよう、外方の拳と脚とで押さえつつ内方拳を開いてやるが、当初は両拳とも開いて使うと、回転する毎に頭を下げ口を譲ってくるようだ。もし動きが小さく頭も高いとしたら、拳で阻害していると思った方がいい。首を伸ばしハミを噛んでくるようになると、背を使うし馬体各部もほぐれてくるから、漸くゆったりと真直ぐ歩かせられるようになる。

次いで輪乗りに移る。これも一方の手前に偏らないようにして頻繁に手前を変える。常歩で口を譲っているのであれば、その状態を保つようにして速歩へ移行する。

速歩に限らず、次の動作への移行は馬の態勢が整ったら即座に行なえるように求める。態勢を整えさせもしないで号令を掛けたからといってすぐ移行できるものでもないし、充分態勢を整えられる筈なのに反応が鈍ければ、より強い扶助を使う。脚であれば、圧迫で足りなければ脚で叩く。しかも間髪を入

れずに。馬に態勢を整えさせるには、一言で言えば半減却を行なう事になるだろうが、まだとても厳密な意味での半減却とはいかないけれど、それらしき事を行なって馬に注意を促す。馬と力づくでなくコンタクトを保ち、扶助に対して充分注意深い状態であれば、この事はそれほど特別なものではない。

さて速歩に移行したならば、外方の拳と脚とで壁を作るようにして内方脚で推進する。常歩で口を譲っていたのが速歩に移行した途端に頭を上げるとしたら、発進の扶助が乱暴、拳の動揺、背を叩いている、バランスを崩した、推進不足……などが考えられる。馬の側の意志でハミを噛んでくるものではあるにしても、無為無策のまま待ち続けていたところで譲ってくれるわけではない。しかも、頭を上げ背を寝ませたまま運動し続けるのは、馬の姿勢や筋肉をその状態に凝り固まらせてしまう事になると思われるから、原因を見極めて速かに手を打つべきだ。乗り手の側に問題があると考えて間違いないのだが、それならば邪魔をしないように手綱を許してやれば良いのか、背を叩かないように籠を短くして腰を浮かささえすれば良いのかと言うと、事はそう単純に割り切れるものではないだろう。因みに北大の連中、年がら年中前傾姿勢(?)で乗っているけれど、馬達は伸び伸び動いているだろうか。否である。これについては後で触れる。

十分に推進をし、馬が譲る瞬間を見逃さず拳を譲ってやる。推進とタイミング。速歩でも首を伸ばし、背を使って大きく動くよう、必要に応じて確実に脚を使う。

脚というもの、調教が進んで馬が扶助に対して敏感になればなるほど、強弱などの使い分けを必要とする。何をしても同じ強さの脚を使う事、意味もなく漫然と脚を使い続けるのは馬を鈍感にさせて結局は脚を使わないのと同じ事になってしまう。脚に限らず扶助全般に言える事だろうけれども、最初にインパクトを与えるのは力だろうが、少しずつ軽い扶助へもっていく。

駈歩の発進では、騎手のバランスが崩れるなどの雑音が少なく明瞭に扶助を与えられるのは、停止中か常歩からの移行だろうし、北玲の場合もそれでよかったが、新馬は概ね速歩の回転からの方が発進し易いようだ。馬に注意を促して内方姿勢を取らせた後、内方脚で軽く圧迫すると、北玲の場合は騎手がバランスを崩したりしない限り、ほぼ思い通りの手前の駈歩発進が行なえる。

駈歩運動では、速歩の時ほど頭を上げたり顎をつっぱったりというような事はないと思う。遠くになったり遅くなったりせぬよう、リズムカルに圧迫脚を使って推進する。今のところ少しでもこれを怠ると、特に右手前の場合、容易に速歩へ落ちてしまうが、それさえ気をつければ馬場の中では焦って前にかかり、つんのめって走らない限り、不正駈歩になったり反対姿勢になったりせず、ゆったりと落ち着いた駈歩をする筈だ。

コントロールした状態での駈歩の歩度の伸縮はまだやらせていない。一定のテンポで運動できれば良しとしていたから、障害へのアプローチでストライドの調整があまりうまくいなくても、現段階では仕方ない事だと思っている。右手前駈歩で発進時に耳をしぼり、前軀をやや大袈裟に起こすのと、速歩に落ち易い点を除けば、左右の手前に目立った差はなく、取り立ててどちらが不得意という事はなさそうだ。

北玲はもう問題ないが、競馬からあがったばかりの新馬については、駈歩の練習は当初は控えた方が良くと思う。競馬で前にかかってひたすら走る事を教え込まれた馬を、ただ単に両手前の駈歩が発進できるかぐらいの意識しかないまま練習するのは、競馬の延長線上からはずれる事はなく、無益なだけだと

思う。前にかかって走る事を、いつまでも覚えていてもらっては困るのだから。

停止は、引っ張り合ったり粘ったりせぬよう、速かにこれに移行できるようにするのは勿論だが、必ず四肢を揃えさせるようにする。前肢が揃わないのは問題外で、バランスなどに偏りがあるのだろうし、後肢も後ろに伸ばしたままにせず、そちら側の脚を意識的に後方で使って必ず体の下に踏み込ませる。落ち着いて注意深くする為に静止をさせるが、最初は停止から始めて少しずつ時間を長くしていく。ただ黙ってポウッと立っていればよいのではなく、きちんとした姿勢を保ち、気を散らさずに耳は騎手の方を向き、ハミをもて遊んだりしないようにする。即ち、いつでも次の扶助に対応できる状態にしておく。停止も同じで、この状態で初めて愛撫してやるのだが、無意識のうちに手綱の放棄——束縛からの解放——の前の停止を繰り返せば、馬は当然その次を期待するから苛つくし、それをなだめる為に愛撫するのでは意味がなく逆効果となるから、気をつける。もし苛つくような時は場所を変えて改めてやり直す。数回試みて駄目ならその日は諦める。馬は飽きっぽいから、停止に限らず1つの事を最初からとことんやらせるのは次第に集中心をなくさせ、やる気を失わせるというのを忘れないようにする。新馬のうちは騎手から何を期待されているのかわからないし、競馬からあがったばかりであればなおのこと、片時もじっとしていないものだが、声を掛けてなだめながらタイミングよく愛撫してやったりすれば、落ち着いて騎手に注意を払う事は、意外と短時間で理解する。

後退はまだあまりやっていない。最初水野さんに教えてもらって、馬の前に立ち、片手を馬の鼻梁部分にあてて押してみたが、逆に押し返すなどしてうまくいかなかった。馬が誤解したようだ。そこで馬の左側に立って左手で顎の下で両手綱を引っ張らないようにして持ち、右手に持った鞭で膝かそれより下を軽く打って1歩々々後退させてみた。この方法はうまくゆき、反抗もしないので何度かやらせてから自ら騎乗し、別の者に同様の事を行なわせて練習した。その後、単独で騎乗のまま後退させたが、手綱を引っ張らないように注意して行なうと、1歩々々ゆっくりとではあるが大きく後退する。まだ2～3歩がせいぜいだが、この調子でやればあとは練習次第でうまくなるだろう。

障害練習はフラットワークを終えた後、必ずキャバレッティか若しくはごく低障害から始める。キャバレッティでは、首を伸ばし注意深くする為にバラバラに並べたり、間にタイヤを置いたりしたものを通過させる時もあるが、慣れてきたら通常の地上横木に直してバーを掛ける。開始当初は怠惰と思えるほど前進気勢がないので、舌鼓を使うなどして前進を促す。前進気勢が足りないと、バーを飛ぶとすぐ左へよれたりする。次に3～4連続のコンビネーションを練習する。1つ目は飛び易いように低いバーかクロスにし、垂直だけ並べるような事はせず殆んどをオクサーなど幅のあるものにした上、間の距離は障害の高さや幅に応じて5.5～6.5 m程度で、フラットになったり体を無理に使ったりしなくても飛べるよう調節する。そしてその都度踏切が変わったり進入速度が変化しないよう、一定のテンポでリズムカルに通過できる様注意する。飛越回数はだいたい10～20回ぐらいで、調子が良くて最初からテンポが安定していれば早めに切り上げる。高さや幅は次第に大きくするが、調教初年度としてはせいぜい1 m前後までで、馬場がぬかるんだり雪が深ければ、当然低めとした。何回か通過する毎に少しずつ大きくするが、ボリュームをつけるのであれば、高さよりは寧ろ幅をつけた方がいいと思う。北大の連中は障害を大きくする時、高さはばかり上げて行って喜々としているが、オクサーとは名ばかりの薄っぺらな垂直のようなものを飛んでも、それだけでは大して意味はないと思うし、垂直・オクサーそれぞれの

練習をすべきだろう。冬は、例え馬場のコンディションが良くても雪の為に同じ内容でも馬の負担は多めとなるから、調子を見ながら障害練習をする。馬が疲れてやけになってくると、無理な力が入ったりペースが乱れたりして何にもならない。キャバレッティバーでもコンビネーションでも、通過後は左右交互に回転し、意識してその手前の駈歩で着地させるようにする。もれも竹田氏の「新馬の障害調教」を参考にして、重心の移動と開き手綱を用いて練習したが、右手前はうまくいく時といかない時とがあった。どんな新馬でも出来ない事はないと思うが、一定のテンポで通過させる必要があるし、人も馬もバランスに偏りがあるとうまくいかないから、注意深くしかも辛抱強く練習しなければならないだろう。ところで障害の飛越回数や高さなどはあくまでもだいたいの目安を設けただけで、要は距離やボリュームに応じて適切な踏切ができ、体全体を使ってリズムカルな“良い飛越”ができるように心掛けた。北玲は、少なくとも練習中であれば障害の前後で突進したりする事はないから、練習はし易かった。

試合に出場する際の準備運動は、取り立ててこれをやったというほどのものはない。内容は普段の練習と変わらないし、心理的にも練習中のそれに近付けるよう心掛けた。どこの競技場でも見知らぬ馬たちに囲まれて不安がり、興奮したり緊張したりするが、あれこれ気を配っていつも以上に鷹揚に振舞い、周りは全く関係ないから気にしないで俺の言う事だけ聞いていれば安心だよ、というのをわからせようとしつつ、落ち着いて常に騎手に注意を払っている状態になるように努めた。試合前の準備運動は馬の精神・肉体両面をリラックスさせる為のもので、やり過ぎてもやり足りなくても駄目だと思う。

これまで書いてきたのは言わば北玲の過去から現在についてだから、今度は将来とは言わないまでも課題のような事柄について触れてみる。と言っても北玲は現時点では既に僕の手を離れているわけで、もし僕があと1～2年乗り続けたとしたらどんな事をやってみたいか、というような観点になる。合わせて、北大で乗っていて感じた事についても書く。とにかく学生は現状に目を奪われがちで、限られた時間を思うと将来に対して言いようのない不安を覚えるし、時にはシーズン前に競技の目標を設定したりする事ができるのか疑問に思う者もいるようだ。実のところ自分自身の実力の見極めがつかず、やるべき事が実感として湧かないのだろうと思う。限られた時間を有効なものとするにはどうすればいいのかというのは難問だけど、毎日々々一生懸命乗るのは誰もがやってる筈の事で、見通しをつけられるか否かが分かれ目になると思う。何かをきっかけにして、馬を意のままにするとはどういう事かを臆げながらも実感として掴めれば、具体性のある目標を設定でき、やるべき事も自ずと見えてくると思う。大上段に振りかぶるのはいい加減にして先を続けますが、僕の立場からは安直に目標を提示する事などできないから、佐多やその後続く部員達にこんな事もやってみてほしいというような、課題というよりは要望になるかもしれない。ただし前提となるのは僕の性格の影響を受け、僕の乗っていた北玲だという事。どう取り繕っても乗り手の性格は確実に馬に反映される。人が変われば当然馬も変わる。しかもかなり顕著に。佐多が乗って北玲の性格がどう変化するか、佐多の内面がどういう形をとって表われるか些か楽しみではあるけれど、それを部員が喜ぶか不安に思うか、そこ迄は俺は知らんよ。

まず馬の動きについてだけれども、先に北大の馬は伸びやかでないと書いた。顎をつっぱり、やや頭が高く背を使わないから、何をするにしても馬体は伸び切ったままで動きは硬くて貧相、これが北大の馬と聞いた時に連想する最近の印象だ。北大にばかり貧弱でイモ臭い馬が集まるわけでなし、ハミ受

けと乗り方が作り出しているのだろう。常歩にしても速歩・駈歩にしても、馬が前軀に重なったり回転方向へなだれ込んだりしてしまうというのは、要因の1つとして騎坐が非常に不安定な為に騎手の重心が安定しなかったり、回転方向や前方へ必要以上に重心を移動してしまっていたりするのがあると思う。騎坐に柔軟性が、自由度が欠けているが為に知らず知らずのうちに手綱にしがみついてしまっている。口が硬い、内へささるなどと愚痴をこぼすけれど、自分がそうさせていると言えないか？ 馬の動きに遅れまいと気を使うのと同様、前方にもかかり過ぎないように注意する。馬が肩から内へささるならば、騎手が一旦重心を外にかけようとして馬体を起こし、それから開き手綱を使用する。単なる根性論的な言い方で、「脚が足りない」だの「拳を許してしまうからだ」だの、果ては「悪い方の回転を頻繁に練習すればいい」などと半ばやっばちともとれる乱暴な教え方をしても、解決しないだろう。繰り返すが、馬の背を叩かないようにと気を使って常時前傾姿勢(?)をとっていても、騎坐が安定しなければ首の動きを阻害し、結果背を使わない馬を作ってしまう、典型が今の北大にもいるという事。

ハミ受けというのは、ハミに向かって推進された馬体が止められた形によって出来上がる。わかっているようでいて、人によってやり方が異なる。実は総合馬術のトップライダーたる渡辺さんに見て頂いた折に、それまでのやり方は間違っていると指摘され、ハミ受けに対する認識を新たにされた。やはり推進を第一義に考えなければ。常歩でも速歩・駈歩でも、馬の首や頭を見た目に理想的な形にさせるのはそう難しくない。力づくでさせられない事はないし、昔僕自身もやってたように逆鞭を使ってもいい。だけど本当にハミを噛んでいるかどうか確かめるにはどうするか。ミュゼラーが言うように、両手綱がまるで2本の棒のように感じられればいいが、そうでなければコンタクトを保った状態から放棄手綱にしてみる。非常に調子の良い時、北玲は伸ばした手綱に沿うように首を伸ばす。一旦軽く手綱を取り、再度伸ばしてやるとハミを求め離すまいとするかのように首を伸ばしていく。今迄のところ、めったにころはならないが。常歩・速歩・駈歩ともハミを噛みコンタクトを保った状態で運動する事。ゆくゆくは後肢を踏み込み、馬を丸くしていく。

駈歩では、停止・常歩・速歩の何れからでも、逆にその何れへもスムーズに移行できるようにする。場所に左右されず、興奮してつかかかったり前に重なったりせずに一定のテンポで運動できるようにしたら、次の段階では歩度の伸縮を練習する。それも単にスピードの増減でなく、よくコントロールされた状態でストライドの調整ができるようにする。手綱の操作だけでは誤解されて前にかかられるのがオチだから、半減却の扶助を使いながら練習する。ある一定の距離を異なった間歩でこなせるようになればベストといえる。そして踏歩変換の練習。学生にとってはかなり難しいし、どうしても必要というわけではないけれど、馬場馬術ほどの厳密さを求めるのではなく、経路走行中に自然に踏歩変換しているのを人為的にできればという程度で、調教段階からいうとまだ先の話ではある。バランス良く乗り、駈歩の運歩を見極めてから反対手前の扶助を与える。経路走行中のんびりと脚をこらしてなどとやっていると暇はないから、何れは重心の移動と軽い扶助のみで瞬時に踏歩変換できるようにすべきだろうが、だからといってすぐ誰かがやりそうな事だけど、手綱をブン回してやみくもに練習しても馬を混乱させるだけだから、あわてず時期をみて取り掛かってみたいと思う。

障害について。障害練習は必ずキャバレッティや簡単なコンビネーションから始め、いきなり個々の障害物に取り掛かるような事は慎む。バー障害は特に問題ないだろう。垂直・オクサー・三段・クロ

スなど高さや幅、形に変化をもたせてそれぞれに応じたアプローチと踏切ができるようにする。どれもこれも同じ踏切、同じバスキュールでは駄目で、ごく一般的には垂直障害の踏切は幅障害のそれに比べて近く、バスキュールもより丸くなる。箱障害は形や彩色、或いはバーや花壇などとの組み合わせにより様々なバリエーションが考えられる。単にレンガや石垣などの単体のみであれば気にしないだろうし、サイケデリックな色彩もあまり影響なさそうだ。それよりは形とか、花壇やバーの配置によって向こう側が部分的に見えたり、踏切の判断に一瞬戸惑うような障害は経験不足である為に気にするかもしれない。がむしやらに色々な障害を飛ばせるのでなく、普通の障害で高さや幅を変化させつつ練習し、アプローチと踏切が安定するようになってから徐々にバリエーションを取り入れていくと良いと思う。馬が踏切の判断に迷うような障害に対しては、馬任せでなく人の援助も必要ではないか。

ダブルやトリプルといった連続障害の練習も重要だろう。騎手に苦手意識があっては論外で、訓練によって馬には能力があっても、騎手に迷いがあるとどうなるかは全日学を見ていけば一目瞭然。変に意識せず騎手の側も訓練を積む事。苦手意識は試合は勿論、練習でも必要以上の緊張と不安を馬に持たせる事になると思う。バリエーションとしてはバー障害のみだったり箱障害との組み合わせ、垂直障害同士や幅障害同士、或いは幅障害の次が垂直障害であったり。それから最近道内でも漸く見られるようになってきたが、構成やボリューム等によって距離も変わる。一間歩が7.5 mとは限らない。アプローチの仕方や踏切によっては、最初をやたら遠くから大きく飛んでしまって着地したら次の障害が目の前というケースもよくある。障害が大きくなってくると踏切や飛越中は勿論、着地後の体勢の立て直しも単独障害以上にシビアになるから、騎手の集中力も要求されるだろう。まずは構成や距離を考えてコンビネーションを色々に変化させ、リズムカルに一定のテンポで通過できるようにする事。

乾潦や水潦はどうか。どちらもまだ本格的に練習する段階ではなかったから何とも言えないが、幅よりは深さが気になるようだ。馬場内のM字乾潦にしても普段は覗き込んでから飛ぶのが、雨で水が溜っていると苦もなく通過する。乾潦の馴致は踏切地点が軟弱なものを避け、当初は浅くて跨いでも通過できるような程度のもをあれこれ飛ばせて安心させつつ練習していくと良いと思う。水潦についてはあまり心配していない。前回書いたように水に対して潔癖な所があるが、水が怖いという感じではないし、馬場内の水潦に水を半分位入れて見せておいてから速歩で通過させてみたが、躊躇なく飛越したところを見ると、踏切の見出し方と幅飛びの要領（といってもごく普通の幅障害と似たようなものだが）さえ身につけば問題はないと思う。学生がよくやるように水潦の中にジャブジャブ入れて馴致するのは、少なくとも北玲に関しては、経路の中で出くわした時に飛越すべきなのか入るべきなのか徒に迷わす原因になりそうなのでやるべきでないし、幅を少しずつ広げながら練習する方法で事足りるだろう。

苦手な障害というのは、馬が本来気にする物の他に、人の側に苦手意識があって飛越を失敗して痛い思いをさせられたり、必要以上に練習させられるうちに妙に気になってしまう物もあるのではなかろうか。北玲の場合、新しい障害の馴致をする際に馬の側の反応も見ず確信もないまま、飛ぶか飛ばないかといった不安半分興味半分の様なやり方は、逆に馬の信頼を損ねてお先まっ暗になるだけだろう。たとえ不安を感じるような障害に出くわしても、人を全面的に信頼しているのであれば勇気を奮いおこすだろうし、逆に何かにつけて不意討ちをくわされたり裏切られた思いを味あわせ、絶えず人に対する不安感にさいなまれていけば、やがては判断を下すのは人でなく馬になってしまうに違いない。この事

に充分留意し、馬にも力がついて人との信頼関係によって自信が持てるようになり、人の側も馬の邪魔を絶対しないなど準備万端整えているのであれば、ことさら馴致を特別扱いする必要はないと思う。普段は乾いている第1農場の溝の水が一杯に流れているのに出会った時も、どうしても渡らねばならないとわかると、踏切と着地点とを見定めるのにウロチョロはしたが、決意を促すと思い切って飛んだ。要は信頼関係だと思う。そしてそれに則った騎手の迷いのない確固たる決意。ただ、何かの拍子の出来心って事もあるから、どんな障害にも必ず軸を設けるなど下準備を怠らないようにしないとイケない。

経路走行について。競技の経路走行は、おっかなびっくりの新馬型は場数を踏むにつれてなくなっていくだろうが、それに代わって気が小さいが故に突進型の走行が増えるかもしれない。昨シーズンでは後半になってこの兆候がみられるようになった。自然にそうなったというわけではあるまい。気が小さいのは主因であって、カーッととなると我を忘れてしまいそうになるというのはあるにしても、障害練習の際に障害前でストライドを伸ばす為に進退するのを勘違いして受け取っている節がある。普通のストライドに合うよう配置した複数の障害を一定のテンポで通過できるようになったら、次に距離を縮め、或いは伸ばして馬が誤解しないですむようにしてストライドの伸縮を練習する。更に経路回りは勿論、他へ馴致に行った時なども、前にかかってフラットになってしまうような走行は駄目なのだという事を乱暴な扶助をしないようにしてよく言いきかせ、早いうちに徹底して教え込み、習慣づかないようにする必要がある。適切な踏切をさせる為にも、騎手は障害までの距離をよく見極めて正しい誘導をしてやらなければならない。

北玲は注意深い状態であれば騎手が何を期待しているかを知らうとし、また敏感に感じ取れる馬だ。別に買いがぶってそう思うのではない。停止の際には肢を揃えるべきで、後方で脚を使われたら後肢を踏み込むというも2~3回で覚えた。騎手を信頼してさえいけば、騎手として何を望んでいるかをわかり易く伝え、馬の行動が良い事か悪い事ははっきりと必ず反応してやるようにすれば、大方の事柄は理解してくれるだろう。気がかりなのは、馬に余裕が出てきて、おまけに信頼関係がぐらつき始めた時、嫌な障害はその気になれば飛ばなくても済むという悪知恵を身につけないか、という点だ。反抗されたら経験豊かな騎手でも手こずるのだから、北大の学生ならばなす術を持たないと言ってもよい。騎手が隙を見せるのは禁物だし、例え些細な事柄でも不注意によって生じたミスは罪悪とさえ言える。反抗するチャンスを与えてはならない。こと反抗に関しては馬をつんば棧敷におくに限る。ただし、失敗するのを恐れるあまり何もできないというのは最も由々しき事態であり、糾弾されて然るべきだろう。よく注意し考えた上の事なら失敗も致し方ない。それらを踏まえた上で、手綱をとったら最後、常に馬を扶助の下におき、完全に騎手の支配下にあるというのを馬の頭に焼きつける必要がある。現役が調教に携わるわけだから、これからが正念場となる。

競技に限った事ではないが、乗り手の精神状態の影響は大である。僕も学生時代は常にかかなりの緊張感にさいなまれたものだが、騎手の緊張感や不安感、自信のあるなしはどう取り繕っても必ず馬に伝わってしまう。馬は不安な時、乗り手だけが頼りなのだという事をとにかく忘れがちだが、騎手としては言いようのない不安感を克服せねばならないし、それができれば逆に信頼を得るチャンスともなる。強い精神力をどのようにして養うか、そして如何にしてリラックスするか、それは個々人の問題だろう。

ある動物園の獣医さんがこんな話をしていた。狼というのは仲間に対する愛情が細やかな上に、非常に感情表現豊かな動物で、例えば首を上げる角度1つとっても、威嚇であったり愛情表現であったりするなど、微妙な動作の違いによって様々な意味合いを持っているんだそうだ。そしてその狼そのもの、もしくは共通の祖先が太古の昔、人間によって飼い慣らされて以来進化を遂げ、現在に至っているといわれる犬は、いつの間にか目や耳を大きく発達させるなどして顔の造作を大きくし、表情や身振りも殊更オーバーに表現するようになったのだという。なぜか？ 彼らが永く仕えてきた御主人、即ち人間というのは彼らにとって、コミュニケーションを図る相手としては余りにも鈍感すぎるが故に、そうせざるを得なかった。舞台俳優のような役回りを演じているうちに、それが習性になってしまったことになる。御先祖様の洗練された高度なテクニックも、宮仕えの身とあらば捨てざるを得なかったわけだ。忠実な従僕としての、健気で涙ぐましい努力というべきか。人間というのは遙かな昔から、自己本位な上にとびきりの鈍感だったとみえる。

犬を従僕とするなら、嫌な事は嫌だとはっきり主張するから馬は人間の友だ、などと体裁のいい事を言うけれど、これまた独りよがりというべきで、先祖伝来の鈍感さとおめでたさにつき合わされる馬こそいい迷惑だが、だからといってそのままにしておいていい訳はない。何をしても馬とは常に意志の疎通がなければならぬが、一般に北大の連中は馬の気持ちを掴むのが下手だし、自分の馬を鋭敏で注意深い状態にする努力が足りない。自己本位ともいえるし、鈍感ともいえる。乗り手に注意深さが足りず、馬の耳がどこへ向こうと、注意を何に集中しようとする一向にお構いなく、自分のやりたい事に没頭しているのをよく見かける。

人と馬との関係に対する認識不足も感じる。競技を目指す者にとって、馬はペットでもなければお友だちでもなからう。チーフは馬にとってボスであるという意識を持ち、馬にも理解させなくてはならない。ボスの命令は絶対であり、逆らったら痛い目に遭う。それが為にはしかし、何事によらず面倒見が良くなってはならない。土壇場で判断力が鈍るようでは困るわけで、馬にとって頼れるボスとは、周りで起こる物事に気を煩わす必要がなく、命令に従っていれば安心していられて、どんな場面でも判断を押しつけてこないような騎手ではなからうか。まあ、そこまでしゃちほぼるほどの事はないかもしれないし、自分の学生時代を振り返っても、馬に救われた場面は多々あるが、騎手に自信がなく迷いが生じると、必ずといっていいほど大なり小なりミスが出たのも事実。

北大でパツとしない人馬の典型的な経路走行パターン。障害間の距離がどうであろうと、遙か手前から遮二無二馬を追う。不安で仕方がないし、テンポだの距離だのを考える余裕もないから。障害が近づけば、踏切地点を自ら見いださなければならないから、馬は歩度を落とす。騎手は相変わらず馬のことなどお構いなしだから、歩度が落ちれば馬が飛越を躊躇していると思って焦り、いよいよ身を固くする。思い切り詰まっても飛んでくれればよし、度重なれば不信任感が募って反抗に至る。俺はとにかく推進(?)するからお前が踏切判断してくれという、お願いします飛んでください式のあなた任せな乗り方はやめなくてははいけない。

馬の精神状態に対する考慮なく、その注意を自分に引きつけようともせず、馬場の中をやみくもに走り回り、行きあたりばったり何でもかんでも障害を飛びまくり、踏切が近かろうが遠かろうが、飛ばしよしとするような練習で障害馬や総合馬が出来上がるのなら、こんな簡単な事はない。まるで能無し

のする事だとさえ思える内容だが、しかし北大ではやっていないと言い切れるかどうか。誰も彼も、その様々な変型に毎日没頭しているのではなからうか？

それにしても、なぜ馬の注意深さ云々にこだわるのか。人と馬との間柄は誤解の連続とってよく、人にしてみれば意のままに動いてくれない馬は反抗心の塊に思えるし、馬の側からは人の意図がさっぱり掴めないばかりか、時には訳のわからないままにひっぱたかれたりして動揺する事も多いに違いない。脚をはじめ扶助は、馬を混乱させたり誤解させたりする事のないよう、明確に与えねばならないし、馬に何を期待しているのか、あるいはどう評価しているのかも伝えてやらねばならない。お互いに効率のよいコミュニケーションを図る為には、人も馬も相手に対して十分に注意深い必要がある。当たり前の事だ。わざわざ言われなくたって、わかっているつもりなんだろうと思う。だけど本当にわかっているのか？ 北大の連中の悪い所の1つに、言葉や知識による擬似体験を、何のチェックもなしにオツムにしまい込んでしまう点があると思う。すっかりわかっちゃったつもりでも、体得したわけではないから何をやるにしてもずっこけているというポイントをはずす。北大生はそんなにスマートでクレバーだとは思えない。知識が豊富だと自負していても、言葉だけが上すべりして馬が動いてくれないのでは、単にオメタイ人間に過ぎない。所謂知ったかぶりとか思い上がりになるわけだが、意識せずともこういうケースは多いのではないか。どこまで馬をその気にさせ得たかは結局のところ、馬が証明してくれる。

さて、北大の部員にとって、馬が何をするのが一番好ましい事なのか。障害を飛びさえすればいいのか？それはそうだろう。ではどの程度？ 際限はあるのか？ 高さもさることながら、競技ともなれば人馬共に未知の障害だって出てくる。調教開始当初はバーをまたぐだけでニンジンくれたものが、やがてちょっとしたコンビネーションを通過してもほめてくれなくなっていく。騎手の意図する所が、アプローチや着地後の態勢などにあれば、例え無過失で通過しても満足とはいえないわけだ。馬の側の混乱を最小限に留める為にはどうしたらいいか。大事なのは行為そのものにあるのではなく、絶えず騎手に対して注意を払う事によって、その時その時の騎手の意図する所、要求を理解しようと努めること、意向に添う事によって騎手の満足を得られるのだ、というのを馬にわからせる点にあるのではなからうか。扶助に従う事、と言うと簡単ではあるけれども、騎手の側にもそれを伝える技術、感性が要求される。これは僕の独りよがりかもしれないが、馬にとって人に乗られる事に対する代償としては、ニンジンなどの褒美の他に、人馬の関係が良好であるならば、騎手の満足が馬の満足、あるいは安心感につながるのではないか。ちょっとこいつにはきついな、と思うような事をうまくやりおおせて、十分に満足しているのを伝えて何度も愛撫してやると、その都度鼻を鳴らすのを聞くにつけ、そんな気がする。

再度、北玲についての補足を。右腰の故障が要注意である事は既にも書いたが、寒い朝などの運動の始め、殊に常歩から速歩に移行した直後に咳を1つ2つする場合がある。肺機能に問題があるわけではなさそうだが、当初からそうであったという事で念の為。

馬格的にはそれほど恵まれているとは言えないが、バランスはとれているし、軽すぎず重すぎず、障害もきれいなバスキュールを描いて良好な飛越をする。何よりも騎手に対して注意深い事、出来るだけ騎手の指示を待とうとする姿勢は特筆すべき点で、学生にとっては扱い易い馬だと思う。小野さんには

良い馬を譲ってくださったと、改めて感謝しています。入厩に同意して頂いた上に色々なアドバイスもして下さった競馬場の井上課長さんにも感謝しております。北玲が将来、北大の看板馬になれるかどうか、それは僕にもわからない。身心両面での計画的な訓練、そして騎手に恵まれるなら可能だと思う。

佐多は北玲のチーフ2代目ということで、いくら僕が基礎調教しかやっていないとはいえ、ギャップには悩むかもしれないが、調教を現役の手に取り戻すという重要なポストにあるのを念頭において、あわてず焦らず、じっくりと取り組んでもらいたい。

岡田監督には、たとえ部員から依頼された事とはいえ、監督をさしおいて新馬調教に携わったこと、申し訳なく思っております。それにも拘らず、時には騎乗して下さり、有難うございました。

最後に、北玲に遅れること半年で馬術部にやってきた新2年目へ。去年は競技シーズンに入る前あたりから、馬術部の流れが変わり始めたような気がしていたが、君達の屈託のない様子を見ていると、馬術部への新人類の出現が本格化したなどの思いを持つ。馬匹の面から見ると、文字通り戦力としての駒はまだまだ足りないけれど、町田前主将らが戦績も含め素晴らしいものを残していったのではないか。それが如何に価値のある、そして難しい事であるか、恐らく君達の想像を上回るものであるに違いないし、いずれ思い知らされる事になるかもしれないが、それを打ち破ってくれると信ずる。北玲についても、佐多の後を継ぐのは君達の中の誰かになるだろう。いずれ北玲と共に馬事公苑へ、“全日学”へ行ってくれるものと思う。北玲ともども、大いに期待しています。

本日、山本さんの送別会。次々に近しいOBが離れていってしまう。OBの存在は日頃思っているよりも大きいものだ。

～8月30日(土) 当番日誌より

中古車と整備

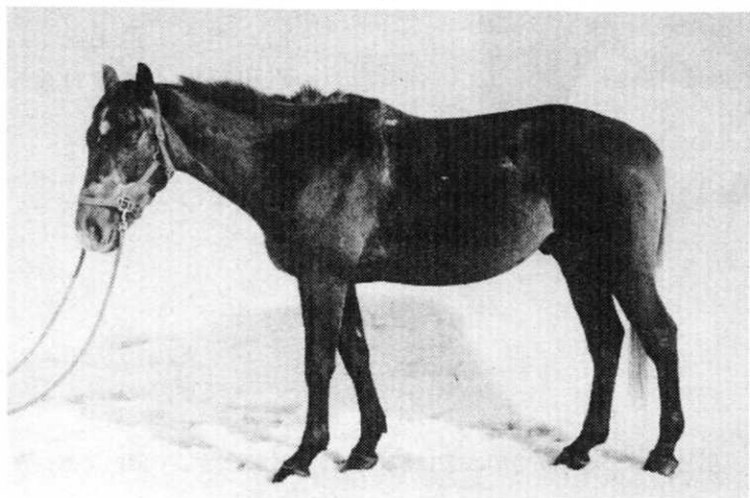
民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

新馬紹介

北 雷 号



騙馬 サラ 芦毛
昭和57年5月20日生
新冠郡新冠町産
父 シルバーランド
母 ルビーケーション
競走名 サンテスプリ

スーパーボーイ号



騙 サラ 鹿毛
昭和57年4月1日生
浦河郡浦河町産
父 アグネスプレス
母 ナロウビン
競走名
アグネススーパー

北 凜 号



牝 サラ 芦毛
昭和57年4月8日生
浦河郡浦河町産
父 ゼダーン
母 ヤマニンパペー
競走名
ヤマニンスプリング

昨秋入厩したアグネススーパー（現スーパーボーイ）の調教に関して、入厩を世話して頂いた水野さんより寄せられた手紙を紹介します。さすが水野さん、酔った勢いで一気に書きなぐったとのことですが、学生時代から豪快無比な反面、緻密な理論家でもあった水野さんのこと、僕らの年代にとっては栄光を目指しつつあった当時を彷彿とさせるばかりでなく、僕が舌（脳？）足らずな為に伝え切れないものを、馬学のプロの立場から明快に述べておられます。第2弾以降も、到着しだい紹介します。

長屋

長屋君へ。競走馬から乗馬への変化をどうするか。

競走馬の場合とにかく馬体を引き伸ばす運動、つまりより低く長くという運動が主体となっている。たとえば障害競走馬であっても、障害をクリアするという事は問題ではなくいかに減速することなく通過するかが問題となる。陸上のハードル競技を考えればよい。したがって馬は高く上がるのではなく、ひざを曲げないで今までの平地での駈歩フォームをくずさないで障害を飛ぶ。

ところが、乗馬の場合は、陸上でいう高とびの要素が求められる。速度は幅障害を越える他は必要ない。いかに助走から高くとびあがれる踏切りができるか、このタイミングである。スピードよりむしろリズムを大切にしなければならないし、馬のフォームも伸びた状態ではなく弾力に富んだゴムまりのようであらねばならない。以上の点が競走馬と乗馬では決定的に違ったところである。それでは馬は飛ぶものと仮定して、その伸びた体をゴムまりのようにするためにはどのようなトレーニングが必要なのか考えてみる。

- (1) 身体の伸展は顎を引きもどしてやることで防ぐ。正しい姿勢で停止発進のくりかえしから拳をもっていかれないように一定ポイントでとめてしまう。静止すると考えた方がベター。馬が顎を伸ば

してきたときはハミにあたるし、まじめに鼻梁をさげてきたら楽になる。速歩ではかかってくる場合問題があるので人間が絶対安心して拳を安定しうる常歩からはじめるべきである。

- (2) この運動をつづけながら、横木をまたがさせるが、しっかり脚をつかって前に出すこと。必ず乗り手がイニシャティブをとらねばならない。ハミばかりに気をとられると馬はガス欠気味となり、かなり窮屈となる。しかしここで前に出せるか、勝手に出るのではなく人間が前に出せるかである。長い時間継続することは困難ではじめは15～20分であっさりやめる。できなくてもやめる。気分をそねないことが第一である。
- (3) 絶対に中途ハンパなハミ受けはしないこと。よくソフトタッチという言葉聞くが、これは馬からとどいてくる感触であり、調教段階ではソフトでないことも多々ある。ただし絶対に引かないこと、こちらから拳をうごかすことをまずやめるべきである。この前の位置、手づなの長さで運動すれば楽ですよというフレームを作ってしまうと、そこからはみ出す部分について馬と勝負する、おしえ込むことが先決問題である。ここまでの話では全く障碍という問題はでてこない、あくまで伸びきった競走馬をいかにちぢめるかという問題である。

このように考えてみると、いかに拳の固定が大切かわかるがおのずと乗り手はどのようなポジショニングをとれば最も安定して拳をとめていられるか、じっとしていられるかわかると思う。新馬の場合、速歩ですでに乗り手の拳が影響する。できれば常歩と変りなく乗りたいものである。これが軽速歩と正反動をとるとのわかれめとなる。よしあしではなく乗り手の技術の方を問題にしたい。軽速歩をとってもしっかりしていればよい。(でも拳に限っていうと、おそらくじっとがまんしていることは困難→自らの上半身が動揺しているのだから)しっかりと腰をおとし、常歩でとめておくのは我々でもやうのことである。つまり北大が目指していた例の前方姿勢とは馬ができあがってしまったという段階であるときどのように乗るべきかということであって、これから伸びた状態をまとめて、ジャンプ馬にしようという段階で行うべき乗り役側での姿勢ではないと今日に至って信ずるわけである。まずそのためには馬体をのばさないこと(ほんとうは大障碍ではハミまではずして伸ばさなくてはならぬことが必要—でもこれは、縮めてはじめて伸ばすことに気付くわけでまだまだ我々の守備範囲ではないと思う)を考えるべきである。

障害をとべばよいという時代、あるいはゴールを切ればよいという時代から、学生馬術でさえもいかに落下をしなくて満点に近くまわるかという時代に来ている。前へ前へ行くだけなら150まで飛べるかもしれない。しかし、これは通過するという意味で、クリアの意味ではない。もちろん、我々がやってきた障害への馴致などの活動はすばらしいものであったと思う。しかし、これらのことはどちらかという馬の心理面でのトレーニングであって、騎手のいうことを伝える肉体的、物理的な面とはほど遠いように今になって感じる。ただしここで気をつけてほしいのは、学生レベルの技術であれば、人の方から能動的に影響を与えるということはデメリットの方が多いのではないか。拳一つとっても、速歩でしっかりと静かにとめておけるだろうか、あるいは、拳にみあうだけの前進氣勢をだす脚の使い方ができるだろうか。多分否である。しかし君の場合はこの学生の領域で終わっていてほしくないし、消化しうる能力があると考えて筆をとった。もしも、もう一度私がハイエムに乗れたとしたら、あんなに馬鹿みたいにふっとんで行くことはなかった、その分上方へ飛んでたはずだ。今ならこれができそうな気

がする。

馬をある程度まるめこめたと仮定しよう。少なくとも速歩まで。ここではじめて障害ということになる。いままで前に行く力をためていたわけだから、これを上方に出してやればよい。方法論はいくらでもあるが、こちらでやっている方法を書くことにする。

- ① 最初馬はひざをおることを、屈曲することを知らないので高さはせいぜい80cmどまりである。
- ② できるだけ大きくとばせる。障害に対して恐怖心を与えないように競馬でおぼえた身体をのぼす方法をまずはやってみる。ほとんどの馬がもっている能力でこれは楽である。障害の前で一問歩は絶対に入れない。遠くからドーンと飛ばせること→踏み切り板に注意。
- ③ かならず左右の回転から、あるいは手前から平等にトレーニングを行なうこと。さらに、あまり飛ばないこと、人間が納得するまで飛ばないこと。せいぜい左右それぞれ10回程度である。
- ④ 拳に注意して、特に障害に向けてスピードをあげたり、コンタクトしたハミの張力を乗り手の方から変化させたりしないこと。常に一定のリズムをもつこと。ハミの緊張はあくまで馬側からくるもので、これをまだ走らない、まだだと指示するゆとりがなければクリアしてはいけない。最もダメなのは、飛ぶ自信がないために（人間側に）、馬をあせらせることである。

それでは我々が今やっている練習をみせる。

[A] 速歩用 バーは60~80cm 踏み切りを用意すること。

- ① できるだけ遠くから踏み切ること。
- ② 障害に向って速度をかえないこと。緊張をしっかりうけとめること。
- ③ 通過後の駢歩は直線上でかならず停止、また速歩から発進。
- ④ 円周上で速歩からの停止、発進をくりかえす。

[B] 速歩・駢歩用 Iはクロスバー（支柱4本）50~80cm IIは横木

- ① はじめのバーは、初期遠くへ飛ばせるときはI-II間を広めにとる。
- ② ひざを屈曲させる練習のときは、IIをややあげて（100cm前後）、I-II間をややせまくとる。
- ③ 通過後の駢歩は、1/4周ほど停止せずにつづける。それから速歩。障害に入るまえの角で駢歩発進する。
- ④ この[B]での駢歩通過ができれば、[A]にもどり駢歩でやる。（100~120cm単一）

[C] 駢歩用 I・II（クロス、オクサー、変化をつける。100以上150cmまで）

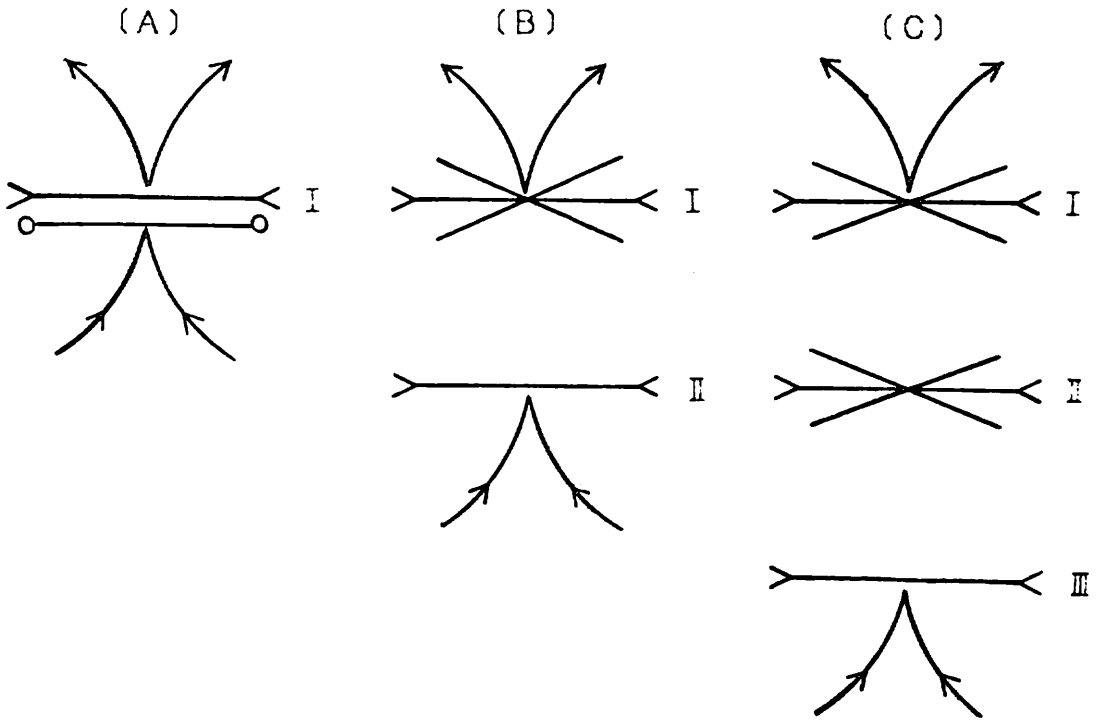
[A][B]を基礎として、[C]は応用編である。

このころとなると駢歩発進・停止とすべてしっかりとしたハミ受けができる段階に入っている必要がある。[C]では馬場を大きくつかって途中いろんな運動を入れながら、経路走行に必要な環境を考えてやる。I・IIでは150程度まで可能だがボリュームが大きいからといって、馬をあせらさぬこと。人間が不安をもつようなボリュームにはしないこと。とにかく同じリズムでやる。このレベルになると、上へ上へという運動が馬自体ができなければならない。もはやどんなときでも馬をのぼしてはいけない。まずいようなら、すぐに[B]—[A]にもどること。

このあとは経路走行となるわけだが今回はここまで。とにかく障害を飛ぶ飛ばないは別として、長く

のびたものをちぢめてみることをやってみないことには、学生馬術から卒業できないと考えます。今回の馬はとにかくつかかるといふ。私自身本格的に乗っていないから何ともいえないが、足がしょうぶなことから、まともにやれば中障はかたいと思う。しかし、本来の目的はそんな低レベルではないはず。大障碍をねらえ。そのための馬なら、栗東にいるかぎりみつかるつもりでいる。とにかく上へ上へである。元気な。

水野 豊香



離 厩 報 告

北 驩 号


佐 多 康 子

ドンホッパーと、羊蹄との間のアクシデントから、この世に生を受けて10年、この馬場、この厩舎に慣れ親しんできた北驩を、離厩させざるを得なくなったことを、騎乗担当者として、この場をかりておわび申し上げます。今後は、岩手の農場で、先に離厩した北将と仲良く暮すことでしょう。

近くをお通りの際は、立ち寄って、会ってやって下されば、北驩も喜ぶと思います。








北25東1
釧路川沿い

春だから ホクも
あなたも あなたも

行動派へのパスポート



北大生協指定


只今、新入生、大歓迎募集中!

711-3344

北海道公安委員会指定・技能試験免除

北海道中央自動車学校

●道立石狩高校



HORSE RIDING ISHIKARI

石狩乗馬クラブ

小野 忠

石狩町花畔128 TEL0133-74-2345

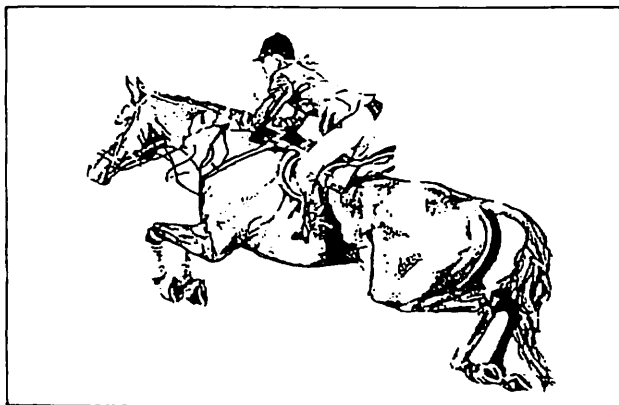
一州原索

茨戸病院 ●

三好堂

茨戸公園

習得しませんか 本格的乗馬技術

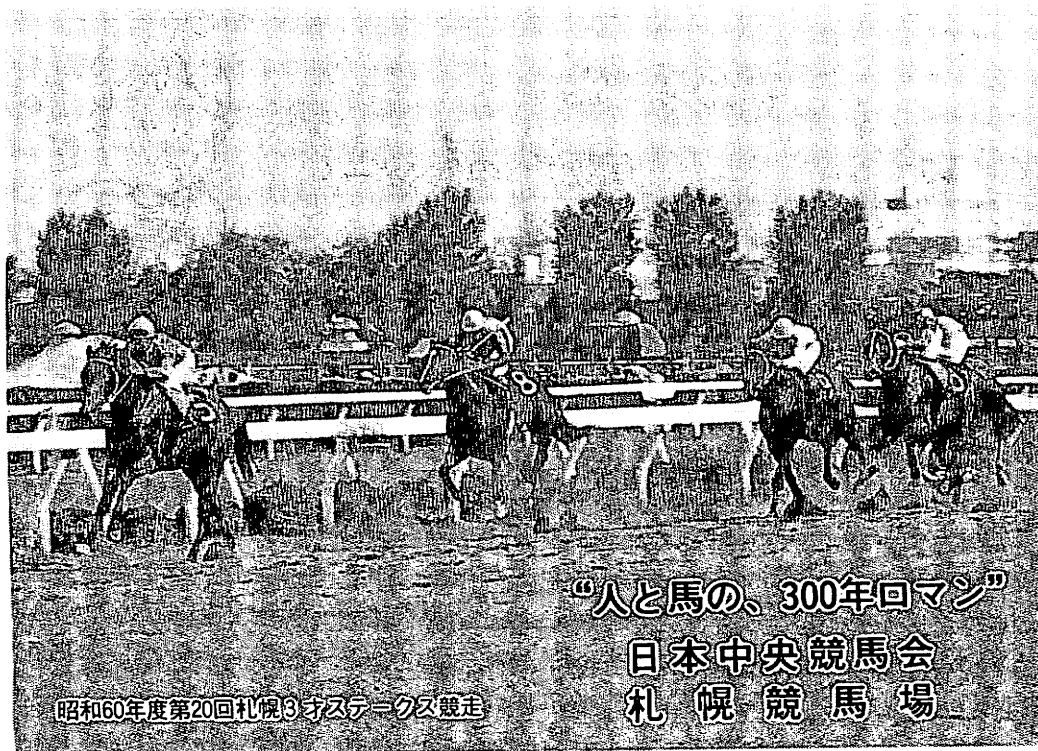


素晴らしい馬達と共に…

北星乗馬クラブ

● 銀鞍会 ● 少年騎馬隊 会長 松岡靖雄

札幌市南区白川1814-3 TEL (011) 596-2407



“人と馬の、300年回マン”

日本中央競馬会
札幌競馬場

昭和60年度第20回札幌3オステークス競走

北水馬術部活動報告

上 本 浩 之

S60.10月で、新北水馬術部も3年目に入ります。1年目は上本の単独発足から渡部が入部し、北大戦で渡部がデビューし、北水が優勝したところで冬に入ってゆきました。そして2年目である昨年は10月に烈々風号(ルーキー)が札幌より入厩し、12月は安藤妹が入部する事から始まります。北水2年目の活動はこの1人と1頭によって展開します。この時点で部員は3人です。そして大雪だった冬を越して春の兆しを感じられる4月に、安藤妹は冬の雪かきの重労働の反動でまる1ヶ月病気により休部しました。報告は3人揃ったS61.5月より時間を追って下記に続けます。

5月 =乗馬クラブ観桜会=

常歩で1時間程の距離にある赤川水源地に馬5頭とクラブの会員さん方と共に花見へ行く。水源地に入ると美しい桜吹雪の中で見物客と馬と人が大パニックに陥った。(北大の初乗りを想像して下さい。)何とか人並を抜けて林に馬達を放牧し、人は成吉思汗を始める。我々はクラブの手伝い(?)として試乗会をやる。……そんなこんなで無事花見を終え東山にたどり着き慌しい1日が過ぎた。その日の夕方、新たため我々3人は吉崎君(函館中部高馬術同好会)も混えて再び水源地へ車で行き、やっと花見をしたのだった。

=体育会予算会議(物品請求)始まる=

25団体ある北水体育会の全予算が約60万強と言うのもバカげた話したが、部員が3名しかいない馬術部が10万円請求すると言うのはもう問題外の話であった。この10万円と言う額は姿勢を見る鏡を建てる為の鏡のみの値段だった。この会議は8月まで延々と続けられる。

=「寒立馬」編集開始=

上本の公務員試験、渡部の就職活動、安藤妹の教員採用試験、これらを目の前にして部報を作成するかどうか迷った。しかしこんな人生の重大事をひかえても「やれば、出来る！」などと勝手に決めつけ編集作業開始。来月の自馬大までが発行目標。

6月 =「寒立馬」発行=

北水としては才2作目の部報は「寒立馬(かんだちめ)」と題して発行。今思うと自殺行為であったが何と実質1ヶ月で編集を終えた。我れながら上出来だと喜び合う。御協力して下さいました。

=自馬大棄権=

札幌は碧雲乗馬クラブが会場、北大主催で行われた自馬大、選手はホープと上本。渡部は馬匹。安藤妹は函館に留守番。ホープは初の中障トライ。雪が解けて急に運動量を増してしまった為1ヶ月馬休にさせてしまいそのまま札幌へつれて行った。そして試合直前で出場断念。私が受けるべき当然の罰なのは

わかっているけど試してみたかった。……しかし二度と馬をつぶすのは御免だった。

7月 =予算獲得=

渡部が就職活動の為、上本単独となった最終協議。最後までめめにもめたがハッタリのみで押しきってついに13万円獲得。秋には鏡が現物支給される事になる。

8月 =道体、ルーキー総合でゴールを切る=

ホープはまだ体調が良くなく、騙し騙し乗っていた。ホープでの総合は断念し、彼は成年障害のみとした。そして約1ヶ月前で急きょ岸本獣医よりルーキーを貸りて総合に出る事にする。先生は二つ返事で貸して下さった。重い、固い、口が敏感過ぎるとのレッテルをはられていた彼も先生に半年間ビッシリ乗り込まれかなり改善されていた。私を感じるのとは速歩の運動に幅が出来た事、頸礎の安定、駈歩が更に安定している事が大きな変化だった。とは言え物見の激しい事と世良兄(59卒)の足をフグにしたあの後退癖は相変わらずだった。そしてどこか人間不信というか、いざとなれば人間に勝てると思っている様な感じは拭えなかった。そのわだかまりが取れぬまま2頭乗りしながら帯広へ向う事になった。

ホープの成年障害は3つ目で3反失権。原因は山程上げられる。確かに悪条件で難関への挑戦ではあったが、それは克服出来る範囲であったと思う。最も考えられるのは準備運動で馬の自信を失う行為をした事だと思う。それでも私は勝手に飛ぶうちに回復すると高を括っていた。入場する、ホープは躰を固くしている。発進する、力が全く感じられない。第1障に向けても向かわない、むしろ失速する。もう彼は完全に自信喪失していた。……すまんホープ。俺の気持ちだけが先走りしてしまっていた。

総合、ルーキー。調教審査は初めから捨てていた。練習は専ら外を走りまくる事にしていたので調教審査の経路周りをする暇もなかった。さて野外走行。スタートする、なんと馬が重いのである。野外騎乗で馬が重いと感じたのは初めてだった。3番のテーブル障害、これが総てだった。逃避後あの後退癖が出たのである。馬に乗って恐怖を感じたのもこれまた初めての経験だった。回りを考えず激しく後退するルーキーと前に出るまで気遣いの様に懲戒する上本との格闘であった。結局ここでは3回止まった。しかし1回づつの懲戒の要する時間(つまり向うまでの時間)が短くなり、障害に向うスピードは増していた。4回目にまたぐ様に飛越した時、もう失権はしていたが「全部飛んで帰ってやる」と心に決めた。それから数回止まり、止まっては全力で懲戒するの繰り返しだった。立木に体をぶつけたのと障害直前で止まられて2回落馬した。川を渡った頃にはルーキーはもう少し気を抜けば走り止めそうな程疲れきっていたし、騎手もまたがっているのが精一杯な程体力を消耗していた。「もうダメだ。もうやめよう。」と何度思ったか分からない。最後の直線に向けた時、ゴールに仲間が待っているのが見えて人馬共、無い力をふりしぼってゴールした。-526.5という数字が内容を示している。死闘であった。余力。野外のオ3障害は失権が取られておらず幸運にも余力に出られる事になった。傷だらけのルーキーに乗って準備馬場へ入る。馬が変わっていた。障害に向うのである。試合で止まったのは私が早く追い出して障害前で馬体が伸びきってしまった1回のみであった。結局、段ドベの9位(完走9頭)、あやうく総減点が4ヶタにのるところだった。しかし野外で諦めなくて本当に良かった。ルーキーは同期の森田が乗っていた馬だし、その前のチーフの世良兄、佐藤姉は来月式を挙げる予定だった。ホープの年

命を考えても北水の次の馬となるとルーキーしか考えつかない。何より私の学生での最後の試合でもあったので、成績よりも内容に大きな意義あるものだった。

9月 =北大戦の準備=

今年も乗馬クラブの部内大会の一環として北大戦が組まれた。しかし昨年程クラブの方が大がかりにできなかったので作業は楽だった。ポイントは人作りと馬作り。安藤妹の特訓が連日続き彼女も力をつけてゆく。馬作りは上本と吉崎君で一日に何頭も乗って進めていった。

10月 ☆村井、山本両弟入部

○渡部乗船、インド洋へマグロを追って3ヶ月航海出航。

=才2回北大・北水対抗戦=

北大は2チーム組み、(Aチーム、久光弟、半田妹、中川姉、Bチーム、福島妹、服部弟、大歳弟)北水は上本、吉崎君、安藤妹で対抗する。ジムカーナには北大1年目3名(荒井、北川、古川妹等)が出場し北水はまだ10鞍程度の村井、山本両弟をエントリーした。又同期のOBの4名が選手、助っ人として参加してくれて、学生色の強い賑やかな大会となった。本番までに馬が次々と故障してしまい、ジムカーナには新馬2頭も引っ張り出される仕末になり、お陰で悲惨な目を見る下級生が続発した。メインの対抗戦も馬が全く飛ばず、上本以外全員失権という惨々な結果だった。何とも情けないやら申し分けないやら感じはしたが一応北水が2年連続優勝した。この試合で感じた事を書いておく。何と言っても脚不足は否めない。確かに平場や飛越の随伴は奇麗で邪魔も少ない乗り方をしていてこれは評価していいと思う。しかし馬が躊躇しようとした時は何もしないで躊躇してからあわてて拍車を打っている。これはあとの祭りである。もうひとつ、切られたらそのまま馬なりに同じ様にしている。乱れたリズムは一端切る為に馬を止めるべきである。そして発進して新たにゴールへ向う気持ちを作るキッカケにすべきだと思う。更に、飛越意欲の問題。馬より意欲がなくて飛ぶはずがない。以上生意気に書き並べたが、北水、北大両下級生に一考願いたい。来年は今の新メンバーで北大に挑む事になる。まだ中山峠を越していない優勝旗、優勝杯を是非守ってもらいたい。

☆久保弟入部

11月 =鏡完成=

今までの作業のノウハウを結集して作り上げた。まず地下2mの穴を掘る。石、砂利、電柱を運搬する。ここまでは体力でこなす内容であり、ここからは知能で行う。電柱4本を垂直に立て、この4本の面をあわし、台となる枠組の材木を水平に打ちつける。雪が降る中、凍れる体と疲労を安藤妹や岸本夫人の暖い料理によって回復させながら半月かかって完成した。新品の鏡に写し出される自分を見て一同感激したのだった。只し人間の首が切れて写らない事を除いて。この作業では多くの人達の協力を得ました。皆さんありがとうございました。

12月 一部内大会＝

1年の締めくくりとして部内大会を行う。常歩競走、巻乗り競走、コップの水運び競技、飛び乗り競争の4種目、上級生2人は様々なハンディを背負って始められた。結果はこの試合にひそかな闘志を燃やしていた村井弟が才1位となる。その夜は乗馬クラブの小屋で泊まり込みの忘年会、S60も終った。

以上が北水2年目の活動の流れです。戦績は1年目に比べてあまり芳しくありませんが、内容は意義あるものだったと自負しています。ルーキーが総合でゴールを切った事。安藤妹がゴールこそ切れなかったがその寸前まで持って行く技術を向上させた事。そして3人の新入部員を得た事。これらは北水馬術部にとって将来の明るい要素だと考えています。現在の練習は、週の半分を部班としており、技術向上の為週一回のゼミを行なっています。運営は多少無理があるかと思いましたが新入り3人に幹部交代し引き継ぎに入っています。新幹部の初仕事として「寒立馬№3」の編集を進めています。

北水馬術部は東山乗馬クラブの協力なしには単独で存在出来ません。この菊地教官には本当にお世話になっています。又多くの会員さん方、馬乗り仲間の協力にも感謝しております。私達3名が卒業した後には新人3人が御面倒をかけると思います。まだ乗り始めて数ヶ月の者達ですので致らない点が多いですが、よろしくお願い致します。

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しゅぶ165の3

TEL (0133)66-3858

生・徒・募・集

●北大前無料送迎バス多数運行中

運転免許取得の最短コース **短期速成コース**好評

北大生協指定校

二輪車教習
実習中

技能試験免除の公安委員会指定
麻生自動車学校

〒001札幌市北区北36条西5丁目 ☎726-5251 ●地下鉄麻生駅・北34条駅下車徒歩5分



ASABU DRIVING SCHOOL
SAPPORO

東京OB会便り

昭和60年の観桜会・乗馬会が行われた5月12日の東京は素晴らしい快晴に恵まれました。今回も千葉先輩の御好意でお借りできた馬事公苑内の八重桜はもうその盛りを過ぎていましたが、この好天も幸いしてか多くのOBの方々の御家族連れでの参加がありました。

久し振りの乗馬に張り切った方、お子さんに乗馬体験をさせる家族サービス型の方、専ら観る方に戻った方など、OBの皆さんはいろんな参加の形で午後の乗馬会を楽しんでおられたようです。

夕刻からの走路内芝生での青葉を愛でながらの（八重桜は残念ながら完璧に散っていました）懇親会では、これも恒例となりました東園会長差し入れの御料牧場産ラム肉のジンギスカンに参会者一同大いに舌鼓みを打ちました。

東園会長の御挨拶、御家族の紹介を皮切りに次々と参会者の御家族の紹介や近況を語るスピーチが続ぎ、最後は都ぞ弥生の大合唱の後、大大ストームが繰り広げられ楽しい会も閉会となりました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

秋の乗馬会は10月27日にやはり千葉先輩の御好意で2頭の馬を出していただき、12名のOBの方々の参加で行いました。

春の観桜会・乗馬会に比べると秋の乗馬会は参加者も少ないのですが、幸いこのときも好天に恵まれ、爽やかな乗馬日和となりました。

私ごとになりますが同期のEがはるばる日立市より参加してくれました。時折は会う機会もあったのですが、馬に跨がった彼の姿を見るのは卒部以来初めてのことでした。卒業してからも近くの乗馬クラブで乗っているという彼でしたが、その騎乗振りは昔とちょっとも変わっておらず（技術ノコニアラズ）何やら非常に懐しい気分になったのは不思議でした。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

現役部員諸君が全日本学生馬術大会で上京した時期をとらえて現役部員との交歓会・激励会を11月26日、渋谷道玄坂の磯浜で開きました。

従来は馬事公苑内の職員食堂をお借りして試合が終了した日に集まっていたのですが、部員諸君が一番多く上京している時に、OBの方々がより参加しやすいターミナル駅近くの場所で、という事でこの日時と場所を設定してみました。

幸い現役部員11名とOBの方々13名が出席して下さいましたが、この日は障害飛越競技の前夜ということで東園会長は選手のコンディションをかなり心配されていたようでした。

今回は日取りに検討の余地があると思いますが、より多くの部馬が遠征してくればそれだけ部員諸君の上京も多人数となると思いますので、それだけ日取りの選択の幅も増すわけで、この意味からも現役諸君の予選でのより一層の健闘をお願いしております。

席上ではOB連は女性部員ははっきり2名しか同席していないと思い込んでいたのに、部員の自己紹介で実は3名出席していたことが判明し、一同爆笑の場面もありました。女性部員も男性部員に伍して

真っ黒になって頑張っているという証拠だと思います。

また千葉先輩に熱心に質問をする部員の姿なども見られました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

61年の総会・新年会は2月1日、表参道のNHK青山荘で18名のOBの方々の参加によって行われました。総会では副会長を一名設けたらとの提案がなされ、席上で本田桓康先輩にお願いしたところ御快諾を得られました。

また、これまで幹事長として会の運営に御尽力をいただいていた加藤元先輩が5月より2年間の予定で米国コロラド州立大学の教壇に立たれることになり、その後任を樋口正明先輩にお願いすることが決定されました。

以上の短かい総会の後は懇親会に移り、諸先輩の馬との関わりや興味深い逸話の披露など楽しい一時を過しました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

以上が60年4月からの一年間の東京OB会の活動概要です。下にこの間の行事に参加された方々の名前を挙げさせていただきます。61年も昨年同様これらの4つの行事を実施する予定であります。東京近郊にお住まいの方は是非近い年代のOBの方々とお誘い合わせのうえ会に参加して下さいお願いします。

(事務局担当 景山)

武田朝男 (昭8卒)	志水一充 (昭38卒)
東園基文 (昭9卒)	原重一 (昭38卒)
本田桓康 (昭9卒)	堀川芳男 (昭38卒)
吉見一郎 (昭11卒)	宮崎健 (昭38卒)
大迫明德 (昭11卒)	野田行文 (昭40卒)
黒沢良雄 (昭12卒)	松永武彦 (昭40卒)
松平梯 (昭13卒)	八木沢守正 (昭42卒)
小林正英 (昭20卒)	池田統洋 (昭43卒)
渡植貞一郎 (昭28卒)	江口州志 (昭50卒)
加藤元 (昭31卒)	景山博文 (昭50卒)
千田哲生 (昭31卒)	本村洋文 (昭51卒)
樋口正明 (昭34卒)	高橋均 (昭56卒)
千葉幹夫 (昭34卒)	井上京 (昭57卒)
森本梯次 (昭35卒)	飯野秀之 (昭58卒)
大場善明 (昭37卒)	石井洋行 (昭58卒)
小島杏介 (昭37卒)	世良健司 (昭59卒)
玉沢一晴 (昭38卒)	世良仁美 (昭59卒)
清水洋 (昭38卒)	

(敬称略)

卒部にあたって

小役丸 千加子

高校時代に馬に触れ、その温もりが忘れられず、どうせ馬に乗るなら、と一気に北海道まで飛んできた。ミッションスクールで6年間同世代の男性との会話もなく、大学はクラスに女子2人という理系へ進み、これまた男性天下の馬術部に入った。三人姉妹の真中。女、おんな、オンナの世界から一挙、別世界に飛び込んでしまった。たくましい先輩女性陣の恥じらいもない男言葉や大声、怒鳴り声、ホースから水を飲んでいる姿等、などに驚かさされつつ、自分だけは、と願ったのも束の間。いつしか、「オイ」「コラ」「オミヤゲクウゾー」と意識せず言っている自分に、指摘され初めて気付く人間になっていた。それはともかく、男女一緒の部だけど、女子だからといって甘やかされたくもなかったし、偏見も持たれたくもなかった。差別は厭だった。だから、練習や作業やトレーニングが同等に行われ嬉しかった。何よりも乾草バイトに参加でき楽しかった。しかし、私達がいくら同じくやれると思っても、男性から見れば、見えっ張りか意地張りにしか思わないらしく、「いくら頑張ってもどうせ…」「所詮」「だいたいにして」などの修飾語が、「女というものは」の前に来るのは、今も昔も同じらしく、決してコンパの席で聞かされる言葉である。もちろん今まで、立派な成績を修めてきたのは男性である事実は認めるが、エゴだけで女子にチャンスさえも与えないのは良くないし、これからもあってほしくないと思う。しかし、私みたいに、理解ある同級生と能力のある馬がありながら、むざむざと失敗してしまったのが、その固定観念を助長させる原因となっているのかも知れない。……と、一人で責任を感じていても、クラブが発展する訳でもあるまいし……。

要するに、男でも女でも、上級生であっても下級生であっても、何事に於いても努力をすることが、全てに継がる糸口だと思う。人並以上に練習すること、知識を身に付けること、馬と付き合うこと。他人の意見、話を注意深く聴くこと。自分の思っている事を他人にわかってもらうこと。時間や規則を守ること。クラブを良くしていくこと。他人の為に自分の時間を割いてあげること。勿論、授業に出席すること、単位を落とさないことも。いろんな事に努力が必要となってくる。中には、努力せずにやれる人もいるかもしれない。反対に、努力することを惜しむ人もいるに違いない。私は、努力の積み重ねが成功をもたらし、その人の成長の糧となるものだと思う。やる気、根気も努力の現われだと思ふ。何事にも、やる気を持って立ち向う後輩は頼もしいし、内気でやる気を主張できない後輩にも根気があれば、それを高く買ってやりたい。そんな下級生に刺激され、自分自身を見直すことも大切だと思う。

上級生にもなると、下級生の目や、OBの目が気に掛かる事があると思うけど、肝心なのは、自分達の目標に向かっていく姿勢、意気込みではないかと思う。一人一人が個性的であり、ぶつかり合うのも良いが、「さあ、これから」という時に一丸となれる間柄であってほしい。また、いつでも、結果だけを追うのではなく、それまでの過程とそこから生じてくる何かで、意義あるものを擲んでほしい。

北大は、馬に乗るのにも、日常付き合うのにも最高の環境を持っていると思う。それを生かして、馬と自分の世界を広げ、深めていってほしいと願っている。現役のみなさん、残っている時間を有意義に

過ごし、思い出をたくさん作って下さい。

毎日頑張っている現役に、しつこい様だが、もう少し。いつも明るく、元気に、快活に。コンパは楽しく、お酒はおいしく。他人が見聞して恥ずかしくなる言動は控え目に。口だけの先輩にならない様に。グチだけの後輩にならない様に。共に働き汗を流す喜びを忘れず、皆でクラブを盛り上げてほしい。そして、良く周りを見渡して、今自分の為すべき事、何が一番大切なのかを把握できる様になってほしい。

自分に甘く、他人にも甘く、それでいて人並に悩み、落ち込みした4年間だった。その度に、やる気を失い何処かへ逃れたいとなったりもした。楽観的な性格でもあるが、いろいろな人に励まされ、支えられ続けてこれてきたのだと思う。思い返せば、辛いこともあったが、今はそれで良かったのだと思える様になってきた。私を4年間つつんでくれたすべての物や事に対して感謝したい気持ちで一杯だ。こんな思いを何かで還元できたらいいなと思っている。

最後に、最大の感謝の意を、一緒にやってきた仲間、クラブに、ノエルに、ライトに、両親に、夢を与えてくれた人に。どうも、ありがとう。

皆様に、素晴らしい未来が開けてくることを祈りつつ……。

町 田 憲 司

4年間、小池先生をはじめ諸先輩方、お世話になりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。最近、クラブから離れていて、もう一度馬に乗りたくなった。今度は、もっと楽しみながら。そんな事を考える今日この頃。卒論もようやく終わり、あとはこの原稿を書き上げれば札幌ともおさらばだ。しかし、札幌を去る事すら信じられない。札幌はあまりにも思い出が多過ぎたから。

3年の春。3年初めての試合だった半沢杯の中障碍。水濛で反抗し、なんと三反失権。その後の打ち上げコンパの席で、今日は何杯でも飲みます、と言ったきり覚えていない。泣いた。ずっと泣いてギャランに詫びていたそう。次の日の朝、気が付くとギャランの馬房の前で寝ていた。そして前の日のすべてを思い出し、歯を食いしばって涙を抑えながら家に帰ったのを覚えている。

4年の春。お返しコンパの時。一年目が新歓コンパのお返しに主催したコンパであり、一年目の芸も豊富で異常に盛り上がった。主将として、コンパが盛り上がる事程うれしい事はない。この時も、その雰囲気感動し、泣いてしまった。主将をやっていて良かったと初めて実感したのがこの時だった。

4年の夏。北日本の中障碍、前日の成績から第二走行目でゴールを切れさえすれば全国大会の出場権が得られることがわかっていた。ドンホッパーは一走目では第一障碍で三反失権していた。駄目で元々のつもりで私がドンホッパーの準備運動をした。その後久光に乗せ、準備馬場から試合場へ向かう時ががんばれよと励ましたものの内心は不安で一杯だった。ギャランの準備運動もせず、試合場を息詰まる思いで見入った。最終の前の連続障碍で二反抗をし、落馬した時には、はっきり言ってもうだめかと思った。でもなんとか、ようやくの思いでゴールをした時には信じられない気持ちだった。このゴールが団体出場を決めた。その瞬間、一年間の苦しさ、痛さが私の頭を駆け抜け、その思いが涙となって頬

を伝わった。ギャランの準備運動を始めようと思ったが、前が見えない。山田に、まだ終わっていないんだゾと喝を入れられたのを思い出す。

全くよく泣く男だ。しかし、もう泣くまい。これから旅立つのだぞ。
さようなら、ギャラン。また会う日まで元気でいろよ。

山 田 和 男

卒部にあって現役の為になることを言い残しておこうと思ったが、一体何が現役、クラブの為になるのかは非常に難しい。結局、私が個人的に考えていること、思ったことを書くことになるのだろう。

(私がやってきた四年間のうちでも)現在クラブが所有している馬匹は非常にすばらしい馬ばかりだと言い切れる。そのことは単純に考えれば非常によいことなのだが、今ではそれも言い切れないなと思っています。自分たちが下級生だった頃の上級生が乗っていた馬は、あきらかに現状で障碍を飛ばなくなっている馬がたくさんいました。その人たちの悲壮感というのはかなりのもので、必死にくらいついているという感じでした。彼らの口からはよく「肉」という言葉が出ていました。コンパになると必ずといっていいほど「失権馬」「癖馬」「肉」という耳の痛くなるような言葉が出ていたのですが、今では皆無です。それはとりもなおさず、いい馬匹がそろっていることの裏づけでもあると思いますが。

馬の運命は本当にはかないものだと思います。馬の運命など、馬自身はもちろん、それにたずさわってきた者でさえ、測り知れないあやふやさを持っていると思います。次々とかわっていく、その馬の持ち主の言葉によって、どうにでもなる動向だと思います。そういう馬の最後の持ち主に、今私たち北大馬術部員がなっているのです。自分が所有しているうちはいいですが、所有権をなくしてしまったときには、もう何も言えない立場なのですから、所有権を放棄した後、肉になってしまうのだと考えてもいいでしょう。肉になっても、観光馬になっても、牧場でんびり暮らせても、それはもう私たちとは関係のない馬で、私たちは捨ててしまったのですから、とやかくいえる立場ではないはずなのです。

障碍を飛ばなくなってしまった馬に乗っていた人たちは、そういうことを切実に感じていたのだと思います。たえず、がけっぶちを走っているという悲壮感がありました。そうでない馬に乗っている人も、下級生も、そういうのをよく見ていましたから、念頭に、今、馬の命を気づかっているのは私たちなのだど肝に命じていたところがあります。

自己紹介・他己紹介

佐 多 康 子（3年目）

北玲 牝馬5才 調教2年目。彼女の一年のためにベストを尽す。

☆ ☆ ☆

何でも思ったことをすっぱり言ってくれる彼女。時には“かつん”とくこともあるが、ストレートで良い。自分が納得するまで物事に打ち込む姿勢は、誰もマネできないほどの根性である。

この根性でもって、お嬢と大きく飛んでくれ。

きびしい所もあります。しかし、それ以上に思いやりを兼ねそなえた姉です。

お嬢はもちろん、他の馬に対しても、又他の動物、そして人に対しての思いやりは人一倍です。

チビが離脱するときの姉の淋しそうな顔は忘れません。今年は是非お嬢で頑張ってください。

陣 川 雅 樹（3年目）

残された道は唯一つ、お前に賭けるしかないやないか。

行けたら行く、やれたらやる。

☆ ☆ ☆

「ワシ、主将ヤル」僕の体は、彼の重い一言によって震感した。

「ワシが此ノ倶楽部ヲ背負ウネン」彼の胸中には、熱い念いが——マルコス打倒を叫ぶラヴァンなるフィリピン市民の如く——炎の様に渦巻いていた。

「何デワシガ」で一世を風靡した、風に飛ばされたあの紙切れが……。3人で足を引っ張り合っていたあの頃が走馬灯を見る如く、僕の脳裏を駆け巡った。しかし、彼は、その走馬灯さえも焼き払った。誰もが彼を信じ切っている。彼と笑うその日を……。

銀の歩き方と似てるんです。だけど、だから安心できるし頼りにもなるのです。

高 田 敏 江（3年目）

もう少し せんさい に生きようと思う今日このごろです。

☆ ☆ ☆

彼女はよく酒を飲む。新1年目諸君注意されたし。

彼女はおしゃべりでその声はよくひびく。しかし電話に出ると突然1オクターブ高くなる。

彼女は1年目によくゲキをとばす。とても〇〇〇とは思えない。

彼女は力持ちである。LAでは腕ずもう大会で優勝し、楽勝楽勝とVサインを見せた。

彼女はよく笑う。よって彼女のまわりはいつも玉虫がとんでいるように明るい。

彼女は歯が弱い。にもかかわらず甘い物には目がない。フレップ館のけえきならいくらでも食べられると自負する。

彼女はマリーナと想思想愛である。彼女の前ではマリーナはぶりっ子をする。

彼女は働き者である。腰がいたいとオバンススタイルをとりながらも、ぐちは言わない。

彼女はとても人がいい。頼み事をすると「まっかせなさい！」と胸をたたく。

これからもお願いしますよ、お姉さん。

姉は馬術部とマリーナの「おかあちゃん」です。さっぱりしていて男性的な姉ですが（失礼！）、実はとっても女らしいのです。「縁の下の力持ち」とは姉のことを言うのだと思います。

中 村 康 利（3年目）

早いもので、もう3年も馬と付き合っている。北離、輝魂龍、オオカリ、ルーキー、オーロラホマレ、ミヨコ、ノエル等々。これだけ多くの馬と出会い、僕なりに馬と共同生活をした。でも、一体どれだけ馬と話せたか。どれだけ馬と仲良くなろうとしたか。甚だ疑わしい。残り数ヶ月の現役生活で、馬ともっと仲良くなりたい。子供の様な純粋な気持ちで馬と付き合っているこの頃です。

☆ ☆ ☆

「キョキョー」の奇声を発し、やたらとハデなパンツを着用し、「となりのみよちゃん」バイクにまたがり、パーマをあてた兄は、もうほとんど、ヤンキーの兄ちゃん、です。しかし、洗練された敬語と話術で、それをカバーして、主務としての仕事を次々とこなしていかれます。また、兄との泊りはたいへん楽しみです。ロッチのチョコパイが食べられるからです。そして、寝静まってからも、数々の寝言を連発し、一晩中楽しませて下さいますので、次の日の講義は、ねむたくてねむたくてしかたがありません。

彼は根性男です。久光兄のいなくなった現在、冬合宿のマラソンでは根性で首位をキープし、雨が降

ると普段以上に燃えて青春を感じています。北日学の前日に部をやめて皆をあっと言わせると言っていますが、彼にはもう十分にあっと言わされています。ハデなシャツ、ピンクのパンツ、緑のコート、更には給食おばさんと同じ長ぐつ……。彼のファッション感覚についてゆけるのは唯一人。

——そう、服部兄であります。

西 村 幸 祐（3年目）

一本のスイートピーが、人の心をなごませる。

「甘い」といわれ続けるので、ブルーのスイートピーの花の甘く馨しいにおいも、スプレーで出されたにおいと間違えてしまうのである。

「Must」と「Must not」で囲まれた花壇に咲く花でも、「情熱」という土と、「意志」という明るい光の下であれば、本当に、涙のでる程、芳しいにおいをたたえたその容姿を見せるのだ。

世界で一番素晴らしい事は、「人を救う」ということである。

そんな花壇で咲いた優しげな花は、人を魅きつけ、人を救うのだ。

それが、ブルーかピンクのスイートピー、あるいは、力強く紅に燃える利久木瓜ならば、最高だ。

命短し 恋せよ乙女

☆

☆

☆

『まだ燃えつきていない。蒼白い炎がまだ魂をくすぶっている……。』

まだまだなのだ。頑張らねばならない。頑張らねば……。』 兄の叫びが俺には聞える。

悔しさを知った人間は、また一段と大きくなってはばたくのです。

「男は黙ってサッポロソフト」「病気をいやがったらあかん。病気治ったら浄化されてきれいな体になるんや」etc. 数々の名言・迷言を残して、ただ今入院中の兄です。めまぐるしい思考パターンにけたたましい笑い声。そう、ちょっとつかみどころがない様な。けれど、我が身を削ってクラブのため、苦勞をいとわない、兄の大真面目な一面を、部員達は誰もが知っています。「看護婦さんのかけてくれる毛布が嬉しい。」なんて言ってないで、どうか一日も早くあの笑い、馬場に響かせて下さい。ね！

半 田 友 子（3年目）

本音とたてまえ。この2つは対だけれど、本音だけではだめなんだろう。この2つをどう整理していくか、と考えると暗くなってくる。上手くしないと、胃カイヨウもの問題だ。う〜む……。

やはり本音Onlyの人生がいい。今年の本音のみでがんばりたいです。

☆ ☆ ☆

半ちゃんは力持ちです。男子が苦勞してやっている肉体労働も簡単にやってのけます。彼女は無神経なのではなくたくましいのです。カマで切れて、血が流れている自分の腕を見て、「よく切れるカマだわ。」と、カマの切れ味に感心していた彼女に、周囲はア然としてしまった。「長靴の中がぬるぬるするわ。」と言って長靴をぬいたら、靴下が血だらけであった。しかし、いつも驚いているのは周りの人間だけで、本人はケロリとしているのです。やはりたくましいのではなく無神経なのでしょう。

いつも真剣なまなざしで何かを見つめている。何をしているのかと思ったら、極めてくだらないことである。他人の助言によりくだらないということに気がつくと笑ってごまかす。う～む、いい笑顔だ。

福 島 光 絵（3年目）

「長さのわりに巾が過剰な」福島です。今季のテーマ「体重1kg・障碍10cm!!」

☆ ☆ ☆

○馬匹のみっちゃん……福島獣医は、一頭の馬の調教・馬体管理をまかされると、その馬にのみ固執してしまいがちな部員の中で、いつも全馬に目を向けて厳しくDr. Check しています。もう獣医師の姿が板について、彼女が白衣を着て夕当にくると、治療の嫌いなお嬢はビクビクします。

○ミヨコとみつえ……勝気なミヨコと勝気なみつえ。プリンプリンのミヨコと……のみつえ。この完璧とも言える人馬のコンビで今年の全日学はいただきですね。

ブーンとスクーターに乗ってやってきた姉は夕当の時、ピーターの足を診て、北冨の足を診て、ミヨコをなでなです。「福島さ～ん、この馬ちょっと診て下さ～い。」と呼ぶ声が聞こえるとそこへ行って「〇〇を塗ってから〇〇して〇〇を〇〇しときなさい。」(僕は薬品や治療に関して無知です。)と指示してくれる。無知な僕は何でもないものをケガや病気ではないかと思ひ込み姉を呼ぶのだが、くだらない質問にも親切に答えてくれる。頼もしい馬匹係である。でも馬場では怖いので、練習中のことは書けません。

真 鍋 直 子 (3年目)

1年目のNが今度の誕生日で19になると聞いて真剣におどろいた。ムッ、若いノ
OBには何年目まででもあるけれど、現役は4年間しかない。
さあ、最後の1年だ。人事を尽くして天命を——待つのではなく……
フッフッ。あとは各自で考えて下さい。

☆ ☆ ☆

彼女の笑いには屈託がない。愛媛みかんの様な明るい笑顔をふりまいてくれます。世の中の醜さを超越しているかの様な澄んだ瞳で見つめられると、僕は言葉を失ってしまいます。ちなみに、僕は彼女が「アブまなべ」の異称を持つことを知りません。

皮ジャンパーを着てスクーターを乗りまわす女がいた。またある時彼女は、白衣を着て試験管を見つめ、またある時にはノエルの足を気かけ、またあるときには、わがままボンズを教育し、またある時には飼糧庫でえん麦の数を数えていた。またある時、ワイ談を聞いてニヤけていた彼女の实体は……ちっちゃいマナやんだったのです。

服 部 雅 史 (2年目)

人は私のことを正直者という。
また律義な男だという人間もいる。
果ては人類の鏡だと言い出す奴もいる。

私はこれらの罵詈雑言にじっと堪えて生きてゆかねばならない。なぜなら、私は真実を愛する人間であるからだ。

☆ ☆ ☆

昨々年までドンはそのチーフより老いていた。昨年あの久光にドンは追いつかれた。そして今年……追い抜かれてしまった。今年ドンに乗るやつはアゴが長い？そして北日本の幹事長である。やつは去りゆく後輩のために、ホワイトのビンのかけらで腕とダウンとセーターを傷つけた。腕は4針縫って治ったが、ダウンは帰ってこなかった。魁ノ男塾の桃のようなやつだ。……涙。

ある日突然、真赤に染めたキュロットをはいてきて皆を驚かせました。北大ジャージの緑とあわせるとまるで人参そのもの(?)です。

今年も是非Donを全日学に連れて行って下さい。(但し、馬事公苑ではあのキュロットをはかないで下さい。)

荒 井 睦 美 (1年目)

ある唄に、

あさねして、またひるねして、よひねして、たまたま起きて、ゐねむりをする。

とやら。ああ。さてもさても。

欠陥人間である。自分がいなかったら、まあ、どんなにか、この辺りは平和になることやら。

これだけ人間が周りにいて、何も学ばねば嘘である。学ぶこととは、変わることである。唯一の救いは、「変わること」。

あっ、あ……れっ!!

☆

☆

☆

えっ? あ、あ〜……じ……自己紹介するんですか? あっあの〜、あら、あら?! あっあらいむつみです。そ、それで、あの、その、どっどど、ど〜もすみません。せんば〜い! ……むっちゃんでした!!
むっちゃんは、かいがいしくて、気もきいて、優しいよい子ですけど遅刻と「ボツ」は、もうたいがいにしなればいけませんよ。

彼女はいつも部室で働いています。そうでないときは家で寝てます。

いつも一生懸命、部のため人のため馬のために働いて、自分のことは何もせず、授業をさぼって、はては当番をさぼってまで(?)頑張っている。もっと利己的になればいいのに。

大 歳 正 明 (1年目)

時間の使い方が、下手で、要領も悪い。だから仕事がなかなか、はかどらない。やりたい事は多すぎるが、実行している事は少なすぎる。人はよく自分の事を「きちょう面である。」と言うが、うそである。表面ばかり気にしているだけである。だからいつも何かに追われているだけの生活である。なんとか早く、自分から追いつめていくような生活に移行したいものだけれど……。

☆

☆

☆

真剣な時はまさに真剣!! そうでない時はひょうひょうとしていて、そばを通ると京都弁の一人言が聞こえてきます。コンパでの落語が印象深いせいか、本気でやっても、落語を思い起させ、冗談でやっとなるのか?! と誤解されてきました。

まじめで純粹、そして素直を武器にこのままさらに強く、上手くなる予定なんですと。がんばれ個性派大歳!!

朝の装鞍時、夕方の手入れの時、

「こ〜れエ、スッパア、だ〜めエ。」 「そうスッパア、そうだヨオ〜。」

とかいっしょうけんめい話しかける声。そう、よい子の大歳ボンズである。本人はしごく真面目なの

だが、口調がもともと柔らかいため、おこっているのかほめているのかよくわからない。
がんばれ、大歳！そして早く37条なんて鬼のように遠い所をぬけだして18条付近の住人となりなさい。

加 藤 ゆうこ（1年目）

飢えた狼は美しいと思う。しかし集団にひたると安堵感が生じ、それ故私はしばしば肥った豚になる。
心身共に、贅肉を落とさなければならぬ時期が来た。

☆ ☆ ☆

高校時代は、学校がひけると、大阪は梅田の繁華街で遊び呆けていたらしい。あのややこしい街の隅から隅まで知り尽くしている。大学に入ったら、しなしなと猫をかぶってしようとしたが、新入生歓迎のコンパをきっかけとして、全く方針が変わった様である。どすこい生活である。

高校時代は、休みになると、大阪は服部緑地の乗馬クラブで馬に呆けていたらしい。あのややこしい馬の肢の動きを鋭く観察する。大学に入ったら、やっぱり馬だと思い、これはうまくいって、馬のにおいの付いた手で、OBの差し入れのまんじゅうを口にする。どすこい生活である。

尚一層の精神を望む。

何でも馬歴が10年もあるそうで、しかし、全然それをいばらず、大衆臭い、非前衛の人間です。大阪出身で、TVのドラマに出てくる、大阪人の様な快活な人だが、商売は上手くない。結構明るいふりをして実は暗いのかと思うと、それ程深い思慮はなく、典型的O型の様なところもあり、厭な時もあるが良い時もある一般人です。しかし、出会う人に対し、深い印象を与えてしまう不思議な魅力を持った人です。

金 田 克 己（1年目）

その時の気分とその場の雰囲気、そしてよく練った好気心を混ぜて、見栄をまぶし、義務感を少々振り掛ける。これをなるたけ寒い所でゆっくりと発酵させると——なにができるかは3年後のおたのしみ。

☆ ☆ ☆

料理を作らせたら、彼の右にでる者はいません。遠征の時の自炊では食当に革命を起したのです。つまり、シチューが、ボルシチに、焼肉が、ビーフステーキへと、進化したのである。これ以来彼は、シェフ金田、主婦金田と称され、自炊生活者の生活と正義を守るため、日夜ナベを片手に、肉や野菜と戦い続けている、我らのたのもしいヒーローである。

金田と言えば料理。しかしそのことはあまりにも有名なので、もう一人の紹介者が書いていると思うので、私のほうは、簡単に終わることにします。

「そこに落ちているのは何だ?!」

「金だ!」 — 「……」

END

北川 知子（1年目）

馬が好きだ。毎日、サブの馬に会うのが楽しみだ。サブが変わるごとにその馬が好きになる。上手になっただらもっといっぱいいろんなことがしてあげられるのになー。

1日1つだけでもいいから何か得られればいいのに、自覚が足りないのか、何も得られずにすぎていってしまおう。

これじゃいけないね。うん、頑張るゾー。

☆

☆

☆

千葉の女子校を出て、早一年、ホームメイドのピンクのセーター（彼女の兄上作）を着て、ピンクのほっぺたで、忙しく走りまわっている。本当に、アットホームな女の子である。

女の子ながら、水産学生である彼女。この秋からは、北水馬術部で、乗ることになる。

一日も早く、馬を動かせるようになって、北水馬術部をひっぱって行ってほしいものだ。end。

今年の9月には“北水馬術部”の人となってしまう姉です。上本兄が再建された北水馬術部の将来を担う姉は、今日も元気にトイレ掃除に励んでいます。函館に行っても、そのパワーとエネルギーと笑顔をいかして、がんばってくれることでしょう。一日も早く、北水馬術部の星となり、花となって下さい。

高野 薫（1年目）

うまく出来ない。「助けてくれ!」と誰かにすがりたくなる。

でも、誰かが助言をくれようとする、それをはね返して自分の殻に閉じ込めてしまいそうになる。結局、わがままで傲慢なんだろうな。もう恥も外聞もなくやるしかない!

☆

☆

☆

北海道浦河産の根っからの道産子である。生まれてから北海道を出たことわずか2、3回。

去年はギャランの馬付きのため、船で大阪に行き、東京から飛行機で帰札するという偉業を見事にこの馬術部でなしえたのである。（拍手ノパチパチパチパチノ）彼の生活において馬術部の部室が占める存在は大きい。着たきりすずめの彼は学校が休みになるといつものおきまりのトレーナーに紺色のキュ

ロットを着て、部室で一日をさりげなくすごす。また彼は車の運転がとても得意である。助手席に座っている僕達に、まるでジェットコースターにのっているかのようなスリルを与えてくれる。書きたい事は山ほどある。けれど馬術部の生活に完全に染まりきっている彼には、自分がやっているギャグなどどうでもいいのである。結局は彼には馬しかないのである。なんとすばらしい男なのだろう。僕は心から彼に拍手を送りたい。しかしあの程度の低い、幼稚園の園児並みのしゃれで周囲の空気を白くするのだけはやめてほしい。これだけはお願いする。

「……」彼のギャグには、何故か必ずある沈黙が伴うのです。頭が切れる様なのに、どこか洗練されていない浦河人。別に彼が悪い訳じゃないけど、しばしば、不運な境遇に陥っているみたい。まったくめぐり合わせとしかいいようがない。が、生来の温和さ由か、どんな不運も許容してしまうようなのです。とにかく彼がいやな顔をするのを見たことがない。怠慢な奴！とあきれることもままあるが、やるべきことはしかし、黙々とこなしている。毎朝毎朝、銀に乗っている期待の新人。Go on!!

中 野 兼 一（1年目）

『最後に残るものは燃えかすではなく真白な灰だけなのだ』

「あしたのジョー」が大好きです。でも「あしたのジョー」はもう二度と戻ってこなかった。生き急ぎの青春でもいい、はやく強い男になりたい。

☆

☆

☆

彼はまだまだ青春をもったあつい男である。コンパではSSとドラゴンズを命とし、馬上ではパワーをふりまく。またいつもみんなになんやかんやと頼られている、たのしい男である。

ファイト 中野、パワー&ブレイン！

彼は単純で正直者である。何かうれしい事があると必ず顔に表われるので、すぐにわかる。調子のいいときには敵なしである。調子の悪いときには敵だらけ。一見軽く生きているように見えるが、何事にもガッツで立ち向かう青春の中野である。

古 川 理 絵（1年目）

もうこれ以上のどん底ってないなあと思いながら必死で頑張っているのですが……
一見賢そうで実はバカ、その昔50mを7.6秒で走り、幅跳びで4m半とんだ運動神経もデブったのと共に見事に鈍り、先輩たちの期待を裏切っています。

Going my way / 自分のやり方で行くしかないじゃんかノ

今は、勉強もしたいしクラブもやりたい。仲間を沢山つくって遊びたいし本も読みたい。音楽もやりたい。温い紅茶を飲みながら白昼夢に費やす時間もほしい——それにはあまりにも時間が足りないし自分の努力もちっぽけで理想と現実とは遠ざかるばかりなのです。

☆ ☆ ☆

名古屋弁を億面もなく話してくれます。ディスコでは70年代のゴーゴーを思わせる独特の踊りを披露してくれます。試合場では落馬してズボンのジッパーを締まらなくして色気をふりまいてくれます。彼女は女子寮に住んでいますが、実は恵迪寮生だという噂は……ないよな。あぶない、あぶない。

出身地：名古屋、所属：理Ⅲ系、馬術部及び体育会本部、特異技：アミン[®]「待ちよるがな」
一見がんじょうそうだが、ひよわであり（ここぞ、という時のためにパワーをひた隠しにしているという説もある）男まさりの様に見えるが、内面はとてもの女の子らしい部分が多い。上級生になった時には姉御的存在となることはまちがいないであろう。

山 本 英 則（1年目）

私は私。誰が何と言おうと、たとえ放校になろうとも、眠い時は眠いのである。

☆ ☆ ☆

『眠れる国の王子様』いや、もったいない。『眠れる獅子』いや、これももったいない。『眠れる国のライオン丸』そうそう、これである。起き上がったライオン丸は作業隊長を務め、パドックや厩舎の修理から、水道管の配管までやってのけるのである。そして……また寝る。

作業中、フッとその手を休め、おもむろに周りを見わたし、バサバサの頭をポリポリッとかいて、口を大きく開けアクビをし、舌をベロッと出す。きっと彼は馬の気持ちを理解しようとしているにちがいない。…そんな馬がたしか2・3頭いる。

ランニングは遅い、トレーニングも体操もいいかげんにしかできない。しかし一度気合いが入ると、キラリとしたものを見せてくれる。……そんな馬も1・2頭いた。

人はこう思うだろう。高校時代野球部で何をやっていたのだろうか？ でも、これだけは自信をもって答えられる。麻雀をやっていた、と。

なあ山本！こんだけほめたんやから麻雀やろうぜっ、麻雀！

水 産 学 部

久 保 愉

入部したのは北大対抗戦の日で、3人のうちで一番遅い入部です。勝手がわからず不安で、なぜかしらみんながこわく見えました。私はどうも「根性」や「たくましさ」を持ち合わせていないようで、苦しい時に逃避したりあきらめたりしてしまいます。頼りなく情けない話ですが、年が改まってようやく反省しています。2年目食品学科でドイツ語選択。恐怖の激怒山崎先生が相手で悩んでいます。

☆ ☆ ☆

'85忘年会の夜のこと……

日本酒1杯目、「ぼ、ぼくは酔っているみたいです。は、はっきり言って、こんなに酔ったのは、う、うまれてはじめてのような気がします。」

2杯目、「だ、だんだん、ろれつがまわらなくなってき、きました。は、はっきり言って、これは、た、たいへんです。」

3杯目、「う、うえもとさんの顔が、み、3つに見えます。あ～、ぼ、ぼくはよっぱらいだ～！」
昔のケンちゃんシリーズに出てくる秀才君、もっと古いところでは「ひょっこりひょうたん島」のハカセみたいな久保弟。いくら酔っても言葉は乱れません。

村 井 英 樹

春眠、いや春夏秋冬暁を覚えないわけにはいかない。念願の学部生活が始まったというのに、各種構義の先生の顔がトンと思ひ浮かばぬ。単位の行方はこれ如何に。日がたつにつれて、自分なりに確立してきた概念がひとつ、またひとつと音をたてて崩壊する。ガラガラガラ。

◇馬術：他人に何から何まで指示されないと何もできない自分の愚かさ、無力さを再認識するための試練。雅やかで、ブルジョワの薫りただよ、そう、あの吉永小百合さんの様な人だけが持つことを許されるステイタスシンボルなどとは決して思っはいけない。

◇日曜日：血みどろになって鉄条網を張り巡らせたり、古電柱を薪にしたり、煙突の掃除などをしなければならぬ日。二人っきりでハリストス聖教会や立待岬などに行ったりする安息日なんかじゃ絶対ない。いわんやトラピスチヌ修道院おやである。

そして人生訓：朝寝坊は信頼も友達もなくす。 お粗末。

☆ ☆ ☆

「オーイ、村井～」と声をかけると、ややひと呼吸あってから「……はあ、何ですか～」と返事がくる。な、何とスローな男なんだ、というのが昨年10月晴天の霹靂のように入部してきた彼の印象である。今では主将を務める練習大好きまじめ部員。そんな彼は自分のペースをくずさない。たとえ、いらん事

し～の村井クンと言われようとも。暮れの忘年会in東山でのエピソード、彼は自分のペースをくずさない。酒を飲みたくない一心で宴の場から抜け出して、深夜の馬場で何時間も歌い続けるという“芸”を演じてくれたのだ。馬達もさぞかし彼の美声にうんざりしたことだろう。彼は自分のペースをくずさない、たとえ人よりテンポが遅れているとしても……。

山 本 宏

らくだに乗りたいたいの理由で馬術部に入りました。もちろんイルカに乗ってみたいと思って水産学部入りました。将来の夢はニュージーランドへ行き羊を乗りこなすことです。

最近になって“冬はつとめて”の意味がようやくわかった。それは脳みそが凍りそうな寒い朝、人よりも早起きをして、無理にすがすがしい気持ちにさせて雪かきをすることなんだ。——彼は馬術部に入ってから悟りの境地に達したのである。決して馬術上達を諦めたのではない!!

☆ ☆ ☆

化学科2年のキューピーと呼ばれているのが彼である。彼の夢は南極へ行く事らしい。それは素晴らしい事だ。だけど卒業してからにしてくれな。新入り3人の中ではとりあえず一番気がつく男の様だ。それでも平気で遅刻して先輩に起こしてもらおうとは仲々ええ度胸しとるやんけ。彼は関西人である。御他分にもれずハッキリで生きている。ちょっとからかうと“そうですか、じゃ〇〇やりますよ!!”と半ばやけくそになってかかってくるからおもしろい。時々ハッキリをきかしているがまだまだ甘い。タイミングとまかり通すパワーを極めていない。彼のように無造作に発してもダメ。次の移行までに乗る事とハッキリと極めて良き上級生となってくれ。

今日、物理の試験があった。120分中、50分は寝た。あとの70分で問1を考えたが、最後までたどりつかなかった。

～9月25日(木)当番日誌より



土 木 ・ 建 築 ・ 設 計 施 行
造 園 ・ 塗 装 ・ 設 計 施 行

道協建設株式会社

代表取締役 美馬 久之

札幌市中央区北16条西16丁目
札幌競馬場中央通用門前

電話 716-6455
726-6756・6752

害虫・ネズミのいない住みよい生活と
木造家屋を食いあらずおそろしいシロアリ・
ナミダタケを防ぎ安心した生活を!!

◎害虫・害菌の予防と駆除のデパート

北海道知事登録 第2号
日本しろあり対策協会所属
日本P・C・O協会所属

株式会社

アイピー

札幌市中央区南17条西16丁目
☎561-9350

やまわショッピングセンター

今 鷺田 商店

美園3の4 ☎821-6248

免許取得は今がチャンス!

学生さん大歓迎

基本料金・その他経費・延長・補習料を含め年令別定額を実施中

★大学生協利用は格安 ★無料送迎バス運転中

公安委員会指定 技能試験免除

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 ☎271-7511(代)

11:30PM

☎716-2575

つちの

食品、酒類、塩、たばこ

OMRON



「歯」キラキラ

試合後あびるシャワーは、爽快感そのものです。ベタつく汗や疲れを、サッと洗い流してくれる。

オムロンのエレデントとエレピックは、歯にあてるシャワーのようなもの。

1日の歯のヨゴレを落として、シェイプアップした清潔な歯を保ってくれます。歯、いつもキラキラ。

簡単にきれいに磨く1分間1,800ローリング

歯にブラシをあててスイッチ・オン、ひとりでにブラシが動き、歯医者さんがおすすめの正しい磨き方ができます

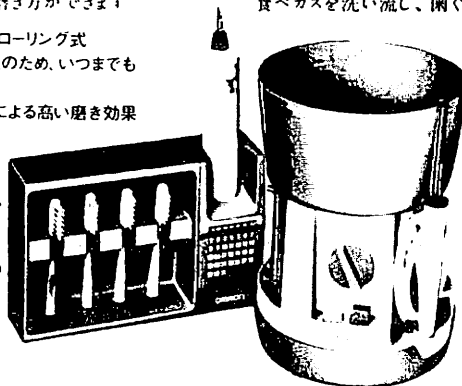
- 手で磨くより約8倍の速さで磨けるローリング式
- 乾電池のいらぬ経済的な充電式のため、いつまでも磨く力が適切
- 口の中で小回りのさく小型ブラシによる高い磨き効果
- 着脱式の充電スタンド

オムロン 電動歯ブラシ

エレデント

HT-B12 ¥6,480

歯ブラシ4本つき
※スベアの歯ブラシ別売 4本セット ¥400



歯と歯ぐきの健康を守るジェット水流

歯ブラシではゆきとどかない歯と歯の間、歯ぐきの間に残った食べカスを洗い流し、歯ぐきの健康により刺激を与えます。

- ジェット水流が食べカスを洗い流し、口臭も排除
- 水流はダイヤルをまわすだけで、ゆるくも、強くも調整可能
- お子さまからお年寄りまで、簡単に使える機能性

オムロン 口腔洗浄器

エレピック

HT-J12 ¥14,500

ノズルチップ74本つき
※スベアのノズルチップ別売 1本 ¥200

立石電機株式会社 健康医療機器事業部 〒105東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35ビル TEL03(436)7092

手造りのパン
洋菓子

有限会社

ジュウジ屋

札幌市北区北17条西4丁目
電話746-5332

ご予算は…？内容は…？

おまかせ下さい!!



味とまごころでご奉仕
仕出し料理



札幌市北区北18条西4丁目(18条ハイツ地下)
事務所/北区北18条西5丁目

☎716-6751

ジーンズライフは青春のささやき



株式会社 装エンドー

- ジーンズ
ランド22 さっぽろ北22条西4丁目 ☎716-3923
- ジーンズ
ランドUSA むららん中島町1丁目 ☎46-2343
- ジーンズ
ランドUSA びばいすずらん通り ☎2-1266
- ジーンズ
ランドUSA くしろ北大通り5
ジョイボンブヤスト内 ☎25-6277
- ジーンズ
ランドUSA さっぽろ豊島2条2丁目 ☎621-5139
- ジーンズ
ランドUSA さっぽろ豊島2条西24 ☎644-7878

お客様とのふれあいを大切に…!

食卓に豊かさと話題をおとどけ
します。

LIQUOR&FOODS
K
北22条 よこやま

☐営業時間☐ あさ10:00~よる1:00
北22条西5丁目 ☎716-3593 年内無休

電動工具・アルミサッシ・流し台
暮らしの日用品・家庭金物・大工道具
建築金物・燃料・暖房器具・合カギ

田宮金物店

札幌市北区北二十一条西四丁目
電話 (七四六) 四一八七番
三四四九番

ラーメンなら

北龍

北18条西6丁目
電話 747-11376

木材 建材 一般金物 塗料 建築金物

有限会社 まるへい商事

札幌市北区北24条西5丁目 ☎736-5331~3

札幌地区大学生組合価格

ソフトコンタクトレンズ (18,000)
20,000) → 12,000円 ハードコンタクトレンズ (15,000) → 10,400円
酸素透過性ハード (19,000) → 13,600円 普及型ハードコンタクト (14,000) 8,000円

健康保険証を御持参下さい。

この他、各種取り揃えております。()内はメーカー希望小売価格です。

◎ 札幌駅前コンタクト

札幌市中央区北4条西3丁目 (北海道銀行駅前支店ビル内)

(011) 222-2122 営業時間 / 月~土曜日 AM10:00~PM6:00

どどん
とやっってください。

大小ご宴会二〇〇名様まで。北国の海山の幸の郷土料理を存分にお召し下さい。



札幌市中央区狸小路六丁目
北国の味のみぎげ処

屯田舎
011-0511

屯田舎
北国の郷土料理の店

もしも 241-2700
予算外の池お気配にどうぞ!!


午後5時から
午後11時まで
(年中無休)

腕旗附カバトメタ手記記出
幕属ツッロダオ念世
章織品桶チイルル拭品章兜

各種製造販売元
山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社
山禮




060 札幌市中央区南1条西7丁目
札幌(011)大代表241-1641番
受信略号「サツポロ」ヤマレイ
取引銀行 拓 銀 本 店
振替口座 小 樽 2 9 0 9 番

ボリューム満点
コンパ150人OK!!

やきとり

居酒屋
きよた



746-0101 747-7000

学生さんには
ネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ
ネダンと同じ

舌鼓 鯨の正本

コンパは30名様までと
40名様まで

11:30~1:00

北16西4北向

746-4231

◎ヤング(YOUNG)コース

1,800円
飲み放題 (ウイスキー・ハイサワー)
料理4品
(枝豆・フライドポテト・ピザパイ
 自家製ソーセージコロン添え)

◎ジンギスカン

食べ放題
 ◎生ビール・ハイサワー
 ジュース
飲み放題
2,400円

◎ボーリングバック

25名様より一部、バスの無料送迎も致します。
3,000円
 ボーリング(2ゲーム)
(靴代・レーン予約代・賞品すべて込みの安心パック)
 +
飲み放題 (ウイスキー・ハイサワー)
 +
料理4品



札幌 **セントラルパブ**
バブレストラン
 (〒064) 札幌市中央区南5条西3丁目 東宝公衆会館7F

平日/PM5:00~PM11:00 年中無休
 土・日・祭日/PM3:00~PM11:00
☎531-2882

有限 菅原写真商会
 会社

パスポート写真
 カメラ・カラープリント
 3分間写真
 各種証明写真



北22条西4丁目 ☎716-2662

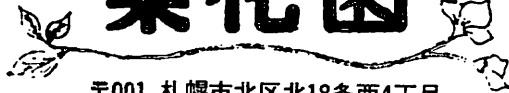
(株) いしかわ 747-7453 パンの店ペペ 737-6150
 口ポちゃん寿し 717-7777 前田 青果 726-7698

北18条市場

谷口惣菜店 746-8306 石井畜産 } 746-1129
 板倉水産 737-5030 グロサリー-いしい }

Florist

葉花園



〒001 札幌市北区北18条西4丁目
 TEL **737-6241**
 夜間 (011) 737-6724

四季おりおりの花を
 美しいデザインで
 お届けいたします。

慶弔用花籠・二段スタンド
 ノーブル・アレンジメント
 花東・ブーケ・コサージュ
 手造りのアートフラワー
 花材一式etc

食料品・雑貨

山本商店

札幌市北区北十九条西七丁目
TEL 七四六—六二八五

学生の皆さん、販売、修理を割引
致して居りますからどうぞ。

高橋時計店

札幌市北区北十八条西四丁目南向
北十八条地下鉄駅前
TEL 七四七—七八四六

洋菓子と喫茶

イレブン

北17西4 TEL 726-0662

〈広告主へ感謝のことば〉

このたび、昭和60年度北大馬術部
部報発行に際し絶大なる御援助を
いただきました諸社・諸店に対し、
厚く御礼申し上げるとともに諸社・
諸店の御繁栄を祈り、ここに深く
感謝致します。

(北大馬術部)

編 集 後 記

桜の季節どころか、試合シーズンも、とうの昔に過ぎ去り、紅葉も落ち、完全に雪の季節となってしまいました。編集委員の怠慢と不手際のために、部報の発行をここまで遅らせたこと深くお詫びします。特に首を長くして待っていて下さったOB、すばらしい原稿を寄せて下さった卒部生の皆様には本当に申し分けなく思っています。

部報の中心となる内容は何か。はっきりと答えを出さないまま仕事を進めてしまったわけですが、やはり質・量共に大きく占める「調教報告」が中心であろうと思います。そういう考えから、今回の部報では、それ以外の記事についてはカットできるところは思いきってカットし、載せた記事についても極力シンプルにしてみました。

自分達の自己満足にならない部報を、と考えていたのですが、発行の遅れは何よりも失礼であると今になって再認識しております。何か機会があれば、部報の内容についての意見をお聞かせいただければ、今後の変化・発展へとつながると思います。

編集責任者 高野・古川

部 報 第 31 号

昭和61年12月 発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

TEL(011)716-2111 内線 5597

TEL(011)737-1626(直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

